

すかがわ男女共同参画プラン 21

第4次計画市民アンケート調査

－調査結果報告書－

令和6年8月

須賀川市 市民協働推進課

<目 次>

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査期間	1
3.	調査対象	1
4.	調査方法	1
5.	回答状況	1
6.	調査結果の見方	1
II.	回答者の属性	2
1.	回答者の属性	2
1-1	性別	2
1-2	年齢	2
1-3	職業	3
1-4	就労形態	4
1-5	結婚の有無	5
1-6	共働きであるか	6
1-7 (1)	子どもの有無	6
1-7 (2)	子どもの人数	7
1-8	家族構成	7
1-9	居住地域	7
III.	調査結果の分析	8
1.	男女共同参画に関する意識について	8
1-1	男女の地位の平等さ	8
1-2	「男性は仕事、女性は家庭」という従来の固定的意識について	18
1-3	言葉の認知度	21
2.	女性の社会進出・活躍に関する意識について	23
2-1	女性が職業をもつ（働く）ことについての考え	23
2-2	女性が働き続けるために必要なこと	26
2-3	女性が活躍するために必要なこと	28
2-4	あなた自身や身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍しているか	30
2-5	活躍してと思う理由	31
2-6	活躍していないと思う理由	34
2-7	各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げになるもの	37
2-8	現在働いている会社などでリーダー・管理職になりたいか	40
2-9	リーダー・管理職になりたい理由	41
2-11	リーダー・管理職になりたくない理由	42

3. 家庭・地域生活などに関する意識について	43
3-1 家事の役割分担	43
3-2 家庭での主な最終決定者	46
3-3 結婚観について	52
3-4 子どもに受けさせたい教育程度	61
3-5 家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育のため必要なこと	64
3-6 女性・男性の生き方について	66
3-7 参加している地域・社会活動	70
3-8 地域・社会活動に参加していない理由	73
3-9 女性と男性がともに仕事、家事、介護、地域・社会活動等に積極的に 参加するために必要なこと	75
3-10 男性が家事、子育て、介護、地域・社会活動に積極的に 参加していくために必要なこと	81
3-11 男性の育児休暇取得について	83
4. 男女間の暴力に関する意識について	84
4-1 ハラスメントや暴力等の被害について	84
4-2 受けた被害の相談先	91
4-3 相談しなかった理由	93
5. 人権に関する意義について	97
5-1 女性の人権が尊重されていないと感じること	97
5-2 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと	99
5-3 性的マイノリティ（またはLGBTQ など）という言葉の認知度	101
5-4 自分の体や心の性、または性的指向に悩んだ経験	102
5-5 性的マイノリティ（またはLGBTQ）の方にとって	103
5-6 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策	105
6. 男女共同参画の推進について	107
6-1 男女共同参画社会の実現に向けて、須賀川市が今後力を入れていくべきこと .	107
6-2 防災・災害において、性別に配慮した対応は必要か	111
6-3 防災・災害対策において、男女共同参画社会を推進するために必要なこと ...	112

IV. 使用した調査票 113

I 調査概要

1. 調査の目的

男女共同参画社会の実現のため、市民の実態と意向を把握することを目的とし、「すかがわ男女共同参画プラン 21 第 4 次計画」策定の基礎資料とするため、調査を実施した。

2. 調査期間

令和 6 年 5 月 31 日（金）～令和 6 年 6 月 14 日（金）

※ 6 月 25 日（火）回収分までを集計に含めた

3. 調査対象

18 歳以上の男女の市民 2,000 人

4. 調査方法

郵送配布／郵送回答及び WEB 回答を併用し回収

5. 回答状況

配布数①	総回答数		有効回答数②		有効回答率 ②／①	
	紙	WEB	紙	WEB	紙	WEB
2,000	444	119	444	119	22.2%	6.0%
	合計		合計		合計	
	563		563		28.2%	

6. 調査結果の見方

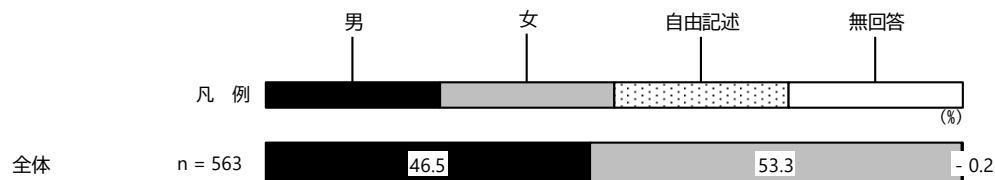
- n (number of cases) は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても 100.0%にならない場合がある。
また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると 100.0%を超える場合がある。
- 視認性を考慮し、図表中の 0.0%（回答が皆無であったことを示す）を「-」としている。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合がある。
- 図表及びコメントにおける R 4 内閣府世論調査は「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和 4 年 11 月実施）を指し、R 1 福島県意識調査は「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」（令和元年 11 月実施）を指している。

Ⅱ. 回答者の属性

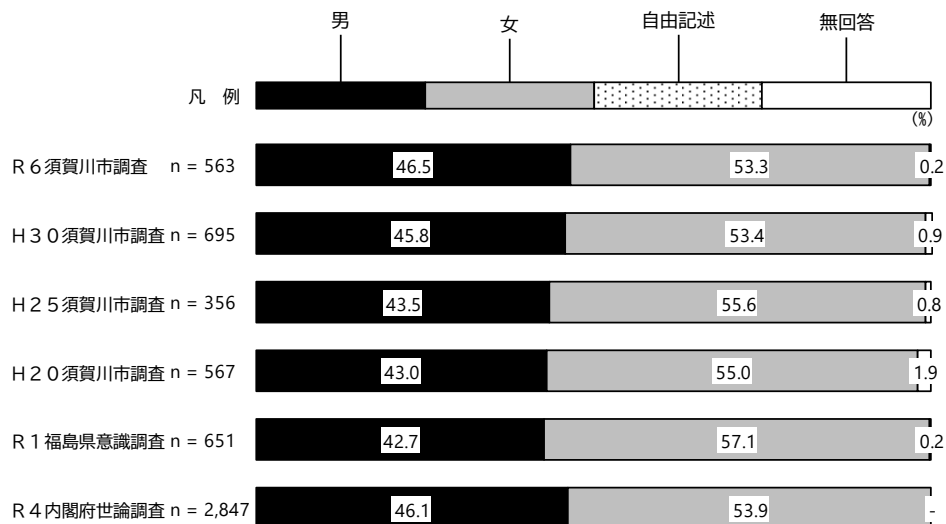
1. 回答者の属性

1-1 性別

問1 あなたの性別（自認する性）を教えてください。（1つに○）

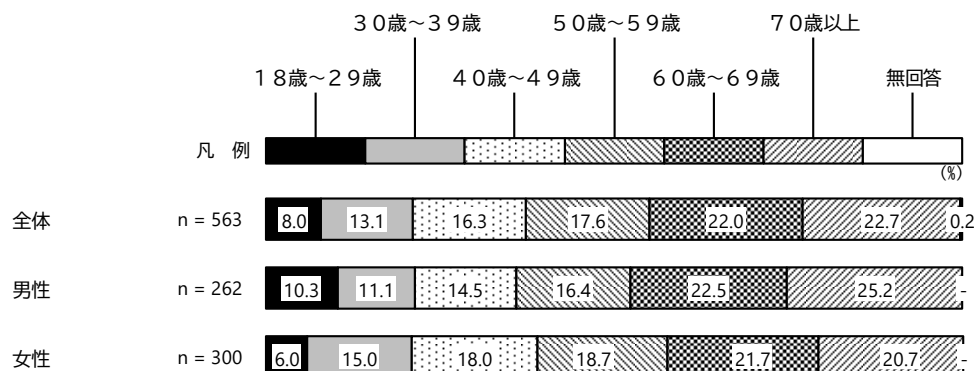


《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査



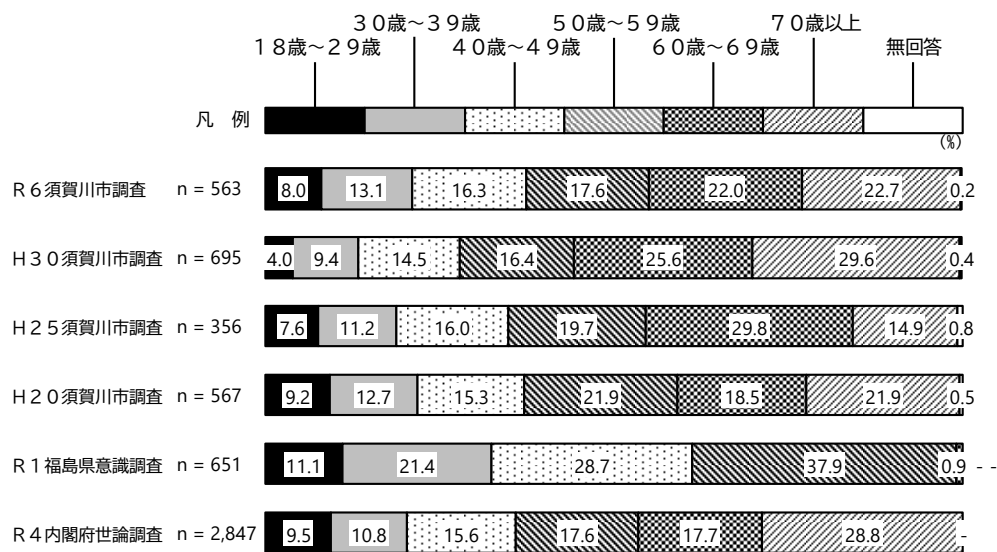
1-2 年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。（1つに○）



《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査

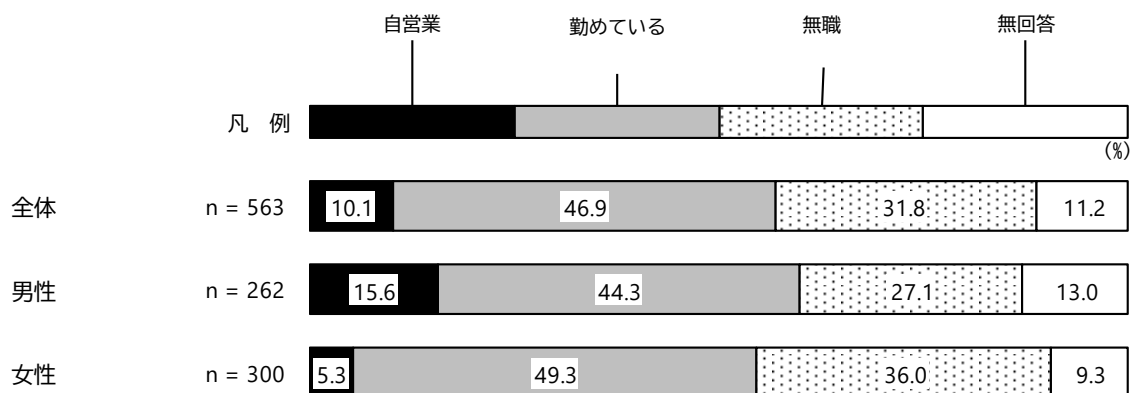
※R1 福島県意識調査は「60 歳以上」の項目を「60 歳～69 歳」とする



1-3 職業

(人, %)	全体	農林漁業	商工サービス業	自由業	役員・管理職	専門技術職	事務職	労務職	販売・サービス業	保安職	専業主婦・専業主夫	学生	その他	無回答
人数	563	25	15	17	28	72	66	30	64	4	83	12	84	63
割合	100.0	4.4	2.7	3.0	5.0	12.8	11.7	5.3	11.4	0.7	14.7	2.1	14.9	11.2

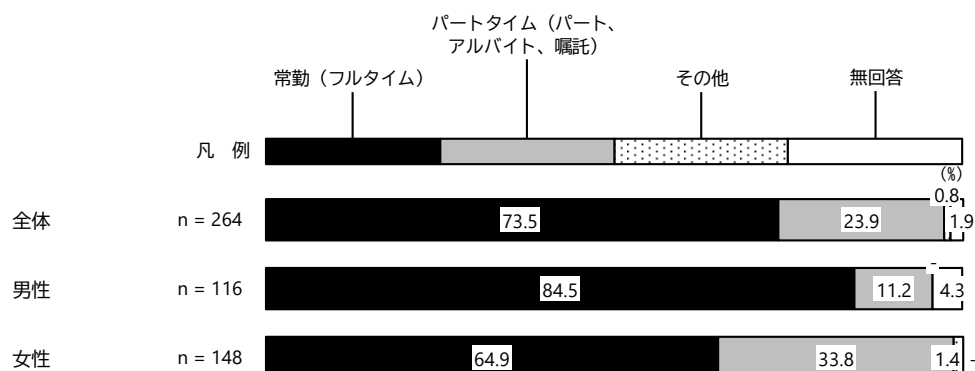
問3 あなたの職業を教えてください。(2つ以上あてはまる場合は、主なもの1つに○)



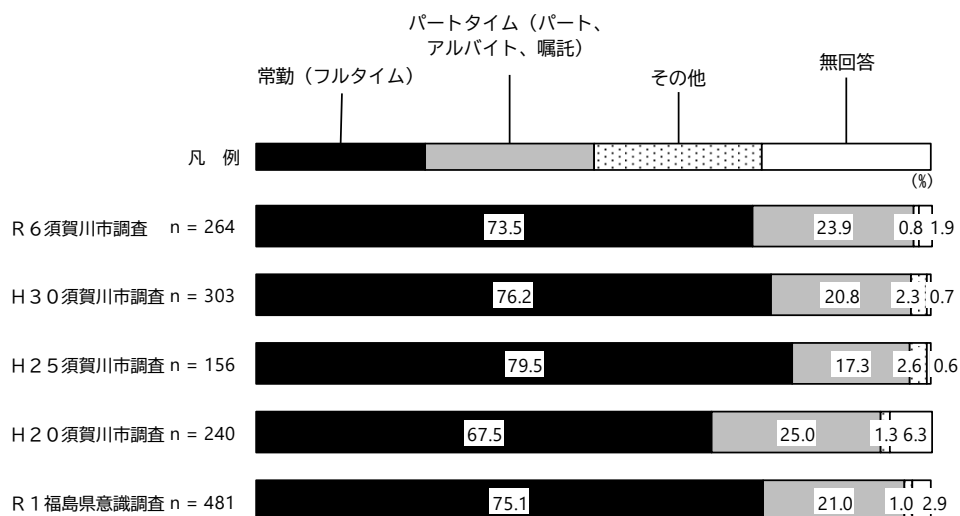
Ⅱ 回答者の属性

1-4 就労形態

問4 問3で、「勤めている(「4.」～「9.」)」とお答えの方にお尋ねします。
お仕事は、常勤(フルタイム)ですか、パートタイムですか。(1つに○)

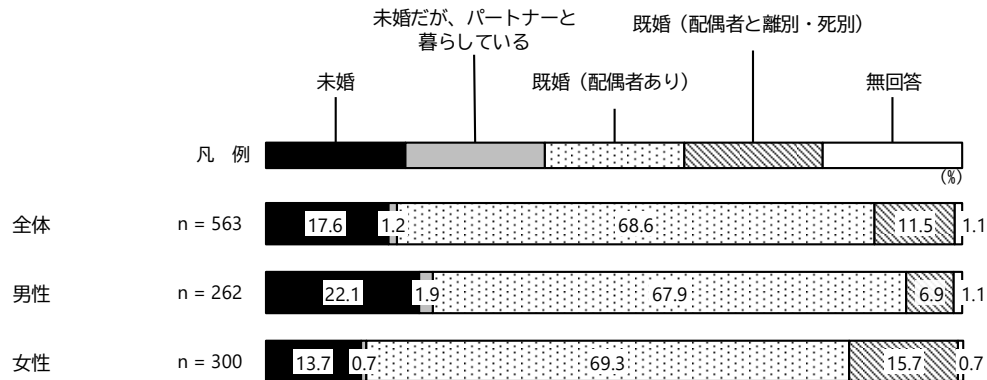


《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

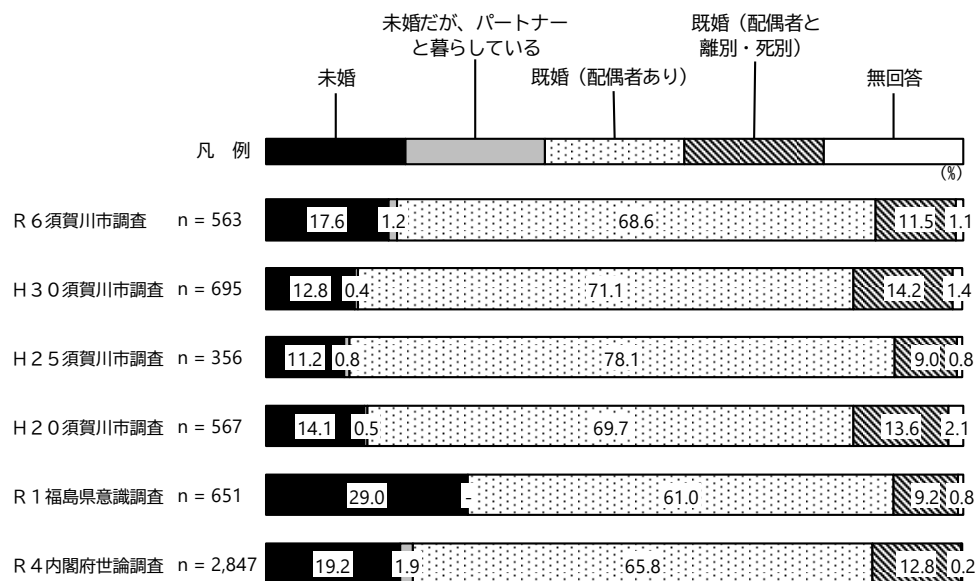


1-5 結婚の有無

問5 あなたは、ご結婚されていますか。(1つに○)



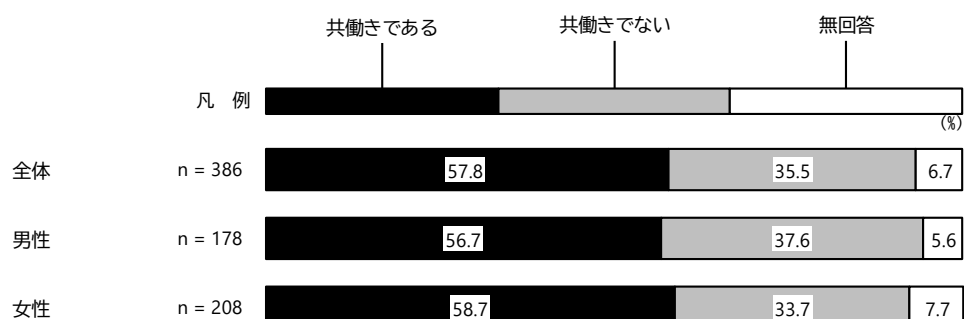
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査



Ⅱ 回答者の属性

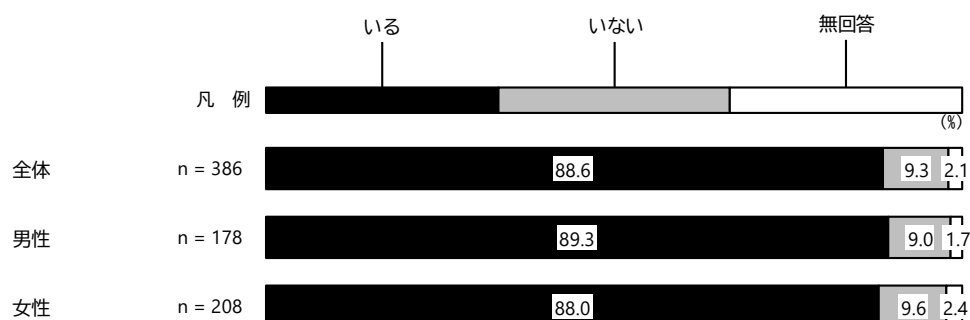
1-6 共働きであるか

問6 問5で、「3. 既婚（配偶者あり）」とお答えの方にお尋ねします。
お宅は共働きですか。（1つに○）

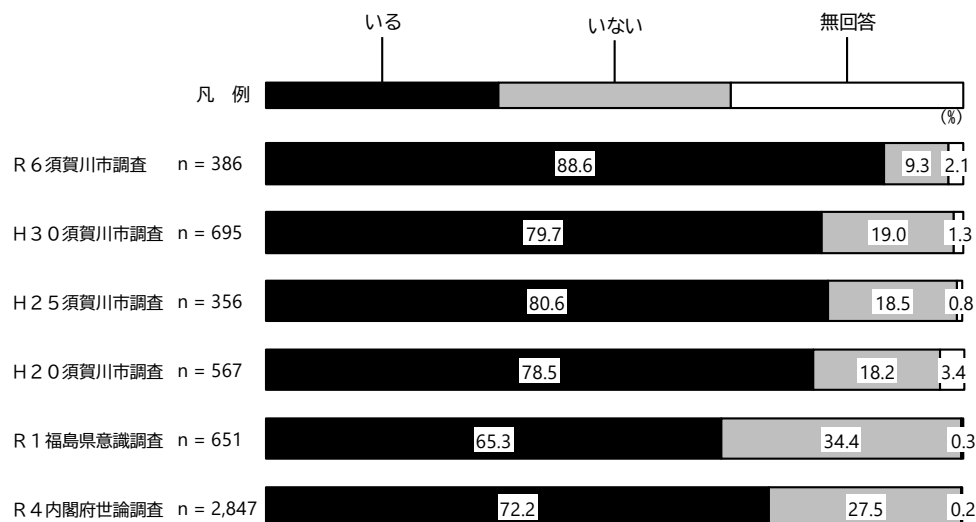


1-7 (1) 子どもの有無

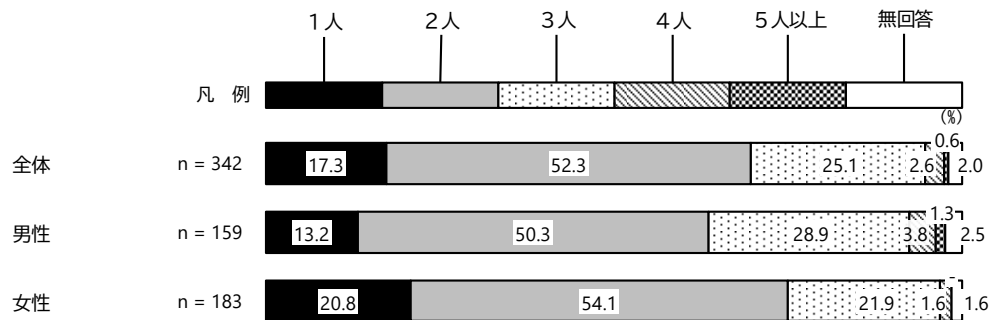
問7 あなたは、お子さんがいらっしゃいますか。（1つに○）



《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査

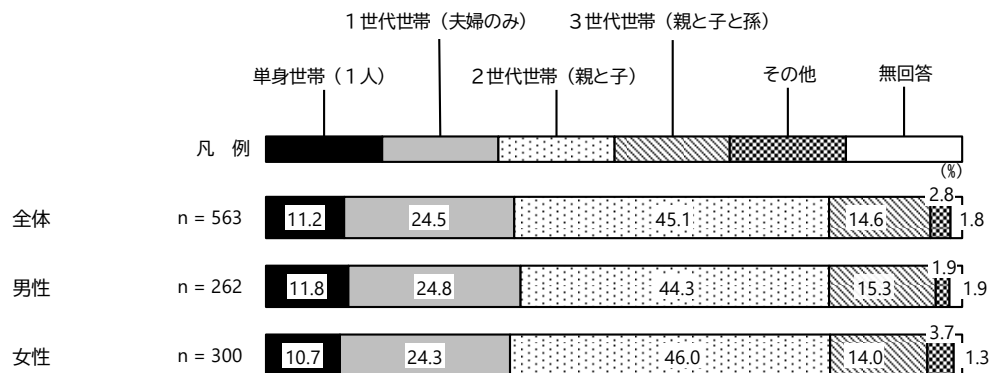


1-7 (2) 子どもの人数



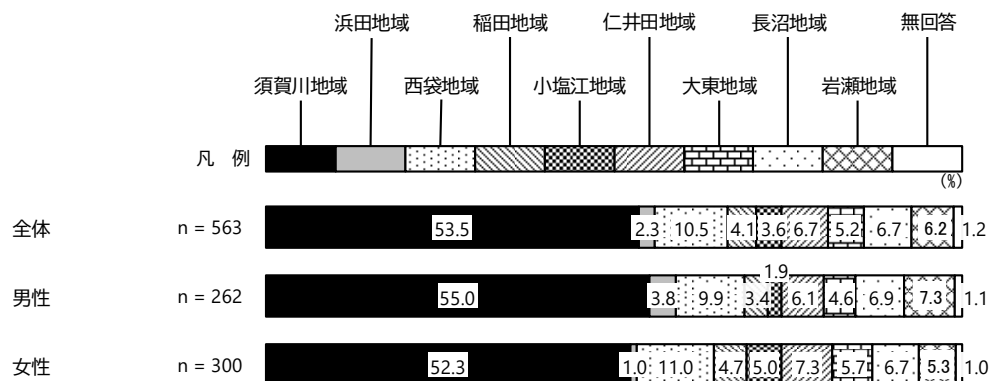
1-8 家族構成

問8 家族構成を教えてください。(1つに○)



1-9 居住地域

問9 あなたのお住まいの地域を教えてください。(1つに○)



Ⅲ. 調査結果の分析

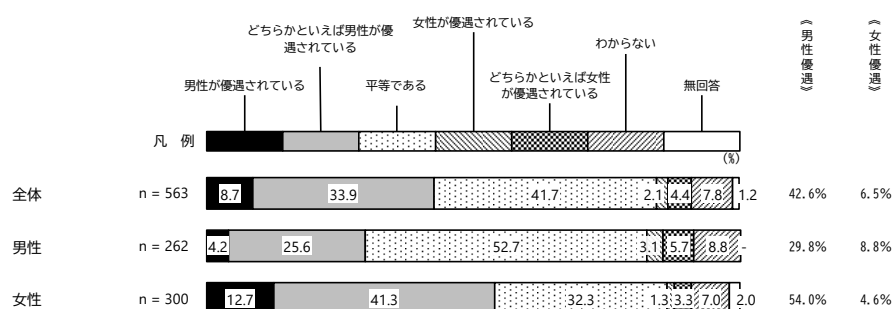
1. 男女共同参画に関する意識について

1-1 男女の地位の平等さ

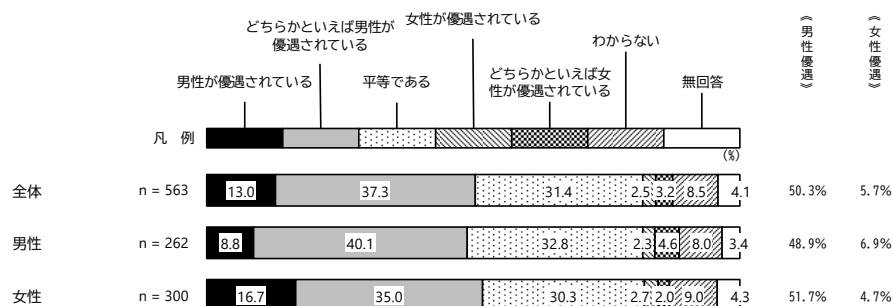
問 10 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等だと思いますか。

(①から⑦までについて、それぞれ1つに○)

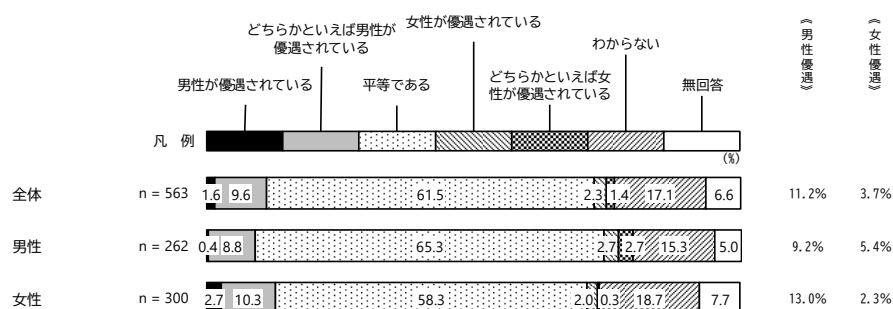
① 家庭生活



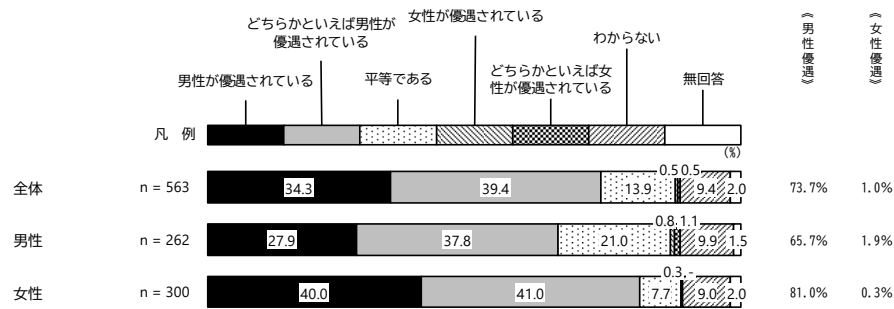
② 職場



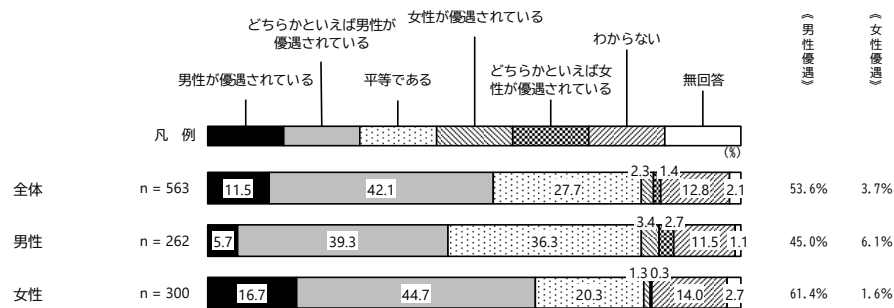
③ 学校



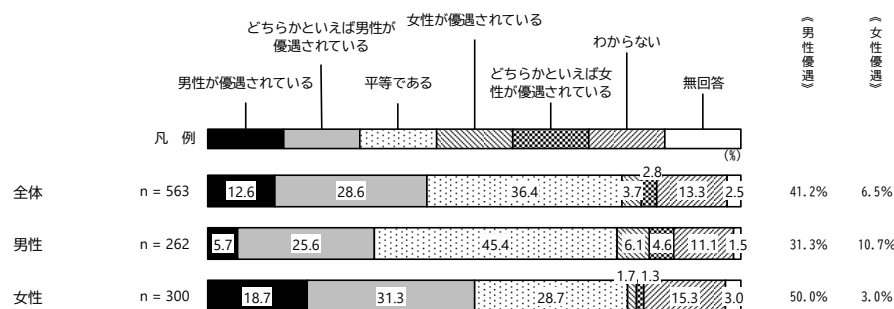
④ 政治の場



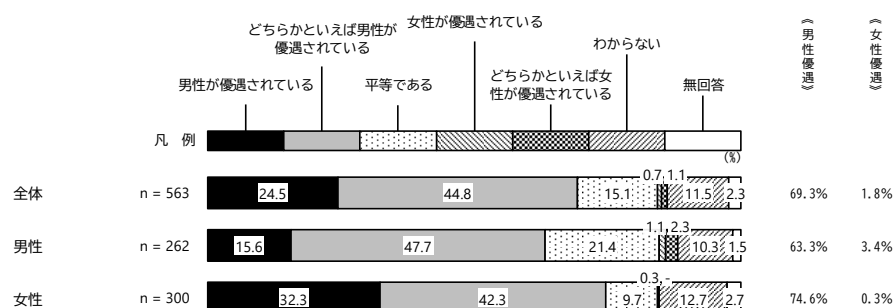
⑤ 地域・社会活動の場



⑥ 法律・制度の上



⑦ 社会通念・慣習しきたりなど



Ⅲ 調査結果の分析

『あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等だと思いますか。』と尋ねたところ、

【① 家庭生活】については、男性は「平等」（52.7%）が最も多く、女性よりも 20.4 ポイント上回っている。女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」（41.3%）が最も多く、男性を 15.7 ポイント上回っており、意識の違いが表れている。①～⑦の分野の中で最も男女間の《男性優遇》の差が大きく、24.2 ポイントとなっている。

【② 職場】については、ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多い（男性：40.1%、女性：35.0%）。男性・女性とも《男性優遇》が約半数を占めている。

【③ 学校】については、ともに「平等」（男性：65.3%、女性：58.3%）が最も多く、①～⑦の分野の中で最も「平等」の割合が高くなっている。

【④ 政治の場】については、「どちらかといえば男性が優遇されている」が男性・女性とも最も多い（男性：37.8%、女性：41.0%）。①～⑦の分野の中で最も《男性優遇》の割合が高くなっており、男性・女性ともに半数を超えている。

【⑤ 地域・社会活動の場】については、ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多い（男性：39.3%、女性：44.7%）。「平等」に関しては、男性（36.3%）が女性（20.3%）を 16.0 ポイント上回っており、差異がみられる。

【⑥ 法律・制度の上】については、男性では「平等」が半数近く（45.4%）占めているが、女性（28.7%）と 16.7 ポイントの差がある。女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」（31.3%）が最も多く、男女間の意識の差が表れている。

【⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど】については、ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」（男性：47.7%、女性 42.3%）が最も多く、「平等」は男性（21.4%）が女性（9.7%）を 11.7 ポイント上回っている。

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査

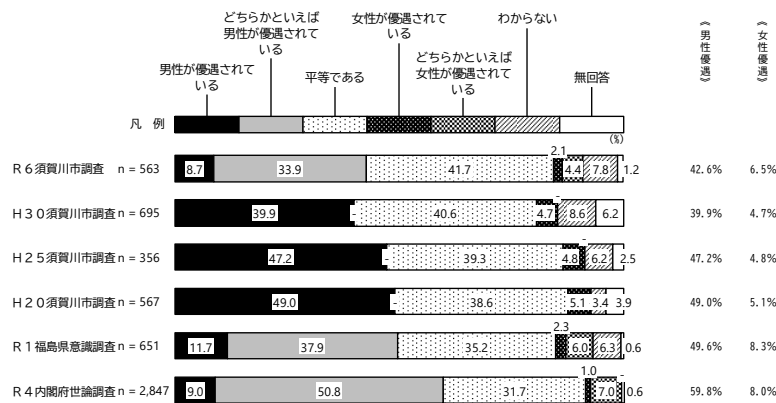
※H30、H25、H20 須賀川市調査は「男性が優遇されている」に「どちらかといえば男性が優遇されている」を含む

※H30、H25、H20 須賀川市調査は「女性が優遇されている」に「どちらかといえば女性が優遇されている」を含む

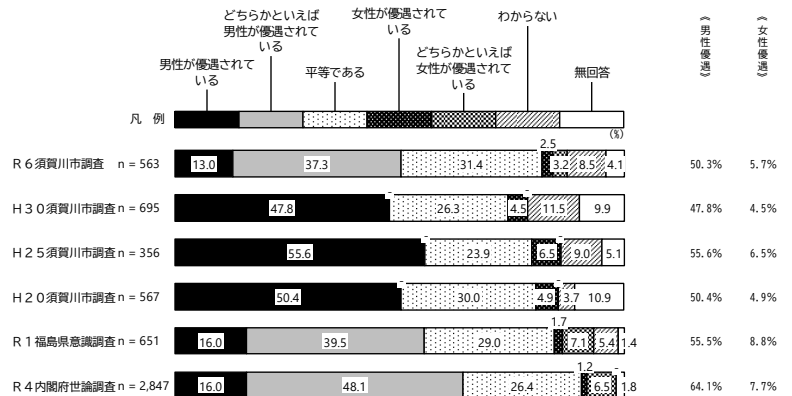
※H20 須賀川市調査では「わからない」の選択肢がないため、「-」と表記している

※H20 須賀川市調査では、「⑤ 地域・社会活動の場」の設問がなかったため割愛している

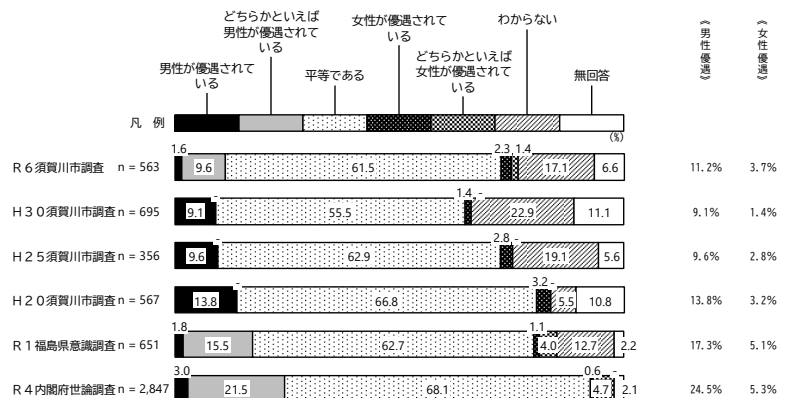
① 家庭生活



② 職場

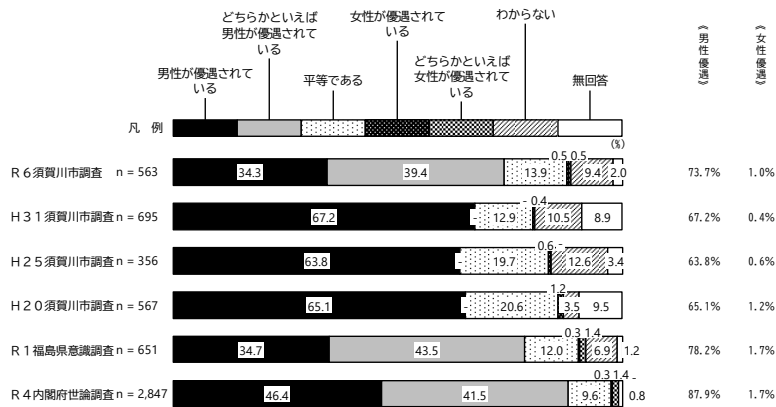


③ 学校

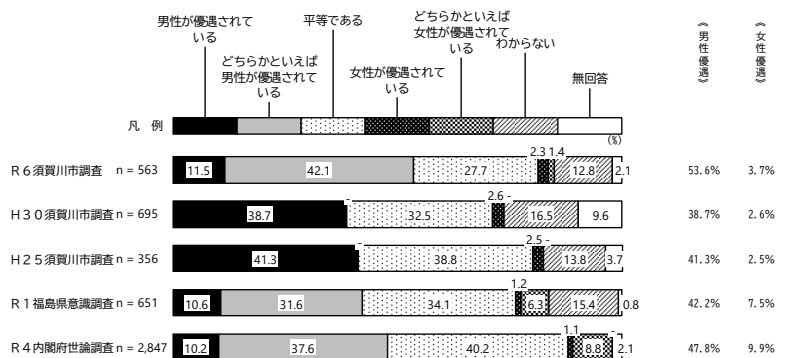


Ⅲ 調査結果の分析

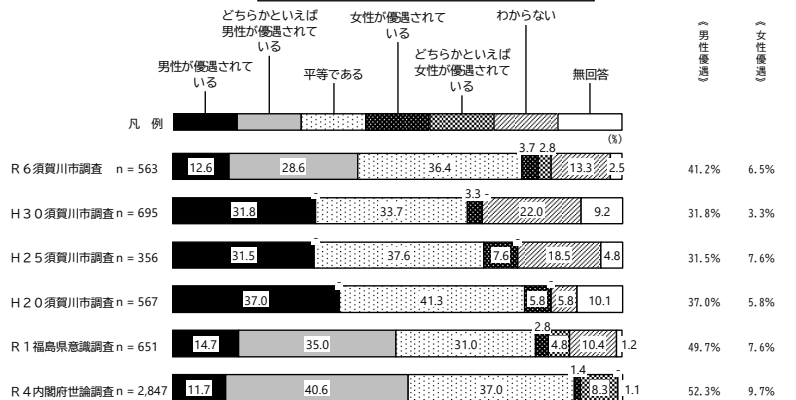
④ 政治の場



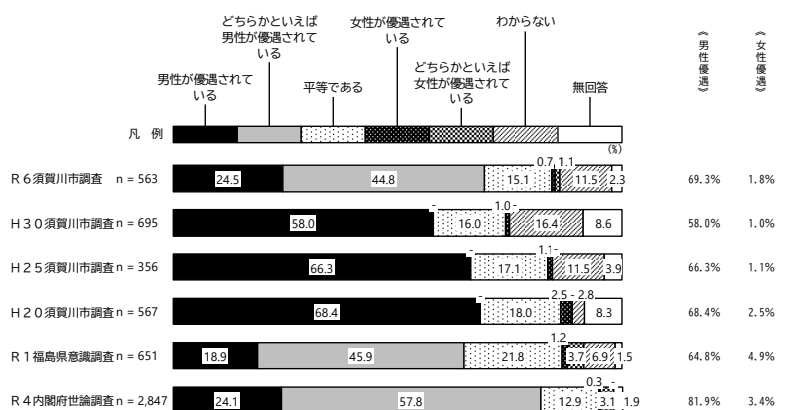
⑤ 地域・社会活動の場



⑥ 法律・制度の上



⑦ 社会通念・習慣・しきたりなど



他の調査と比較すると、

【① 家庭生活】については、ほとんどの調査で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を足し合わせた《男性優遇》が最も多くなっているが、「平等である」は、R6 須賀川市調査が最も多くなっている。

【② 職場】について、すべての調査で《男性が優遇》が最も多く、須賀川市調査では5割前後で推移している。

【③ 学校】については、いずれの調査でも「平等である」との回答が最も多く、半数を超えている。

【④ 政治の場】については、すべての調査で《男性が優遇》が約7割となっており、R1 福島県意識調査は約8割、R4 内閣府調査は約9割となっている。

【⑤ 地域・社会活動の場】については、R6 須賀川市調査では、《男性優遇》(53.6%)がH30・25 須賀川市調査よりも割合が高くなっている。

【⑥ 法律・制度の上】については、すべての須賀川市調査で「平等である」が最も多くなっている。

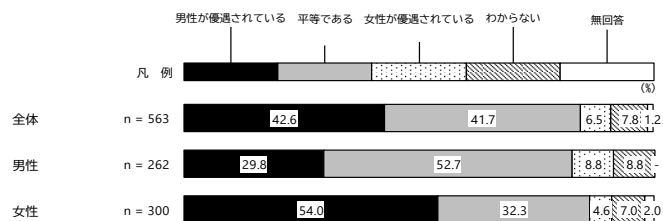
【⑦ 社会通念・習慣・しきたりなど】については、ほとんどの調査で《男性が優遇》が6割を超え最も多い。「平等である」は、須賀川市調査で年々減少傾向にある。

Ⅲ 調査結果の分析

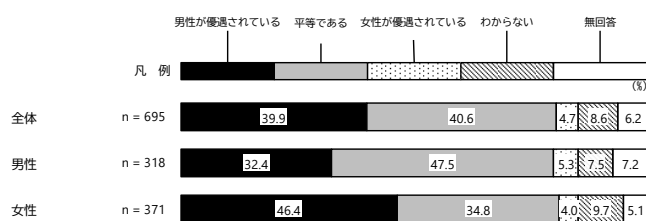
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

① 家庭生活

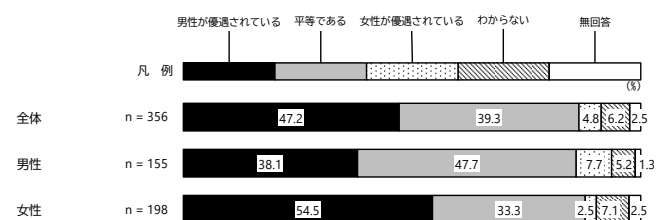
【R6 須賀川市調査】



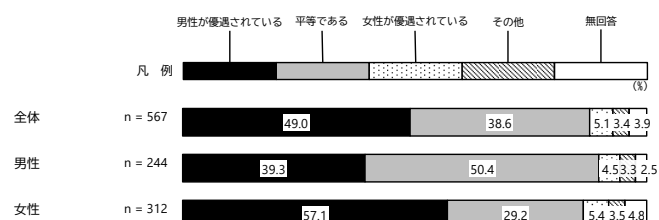
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

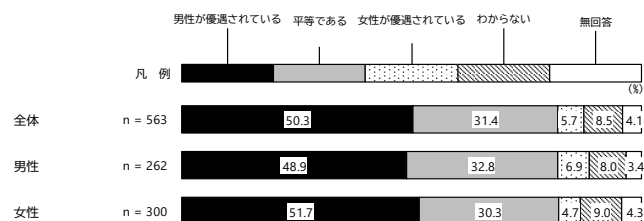


【H20 須賀川市調査】

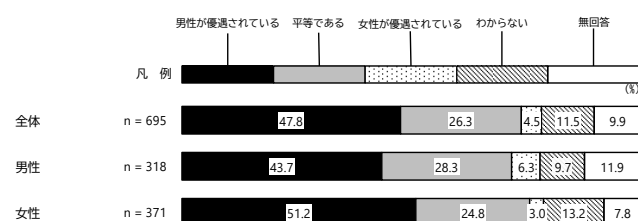


② 職場

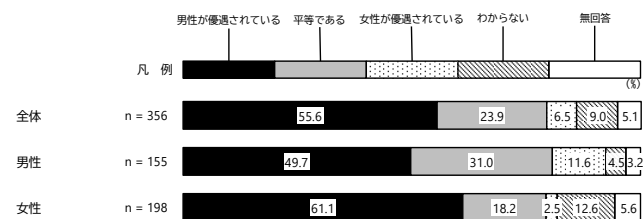
【R6 須賀川市調査】



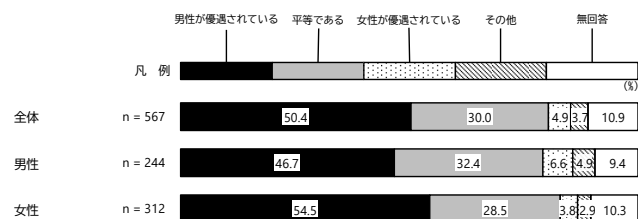
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

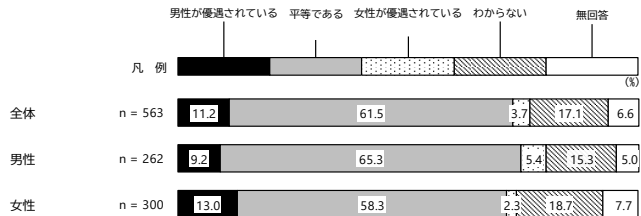


【H20 須賀川市調査】

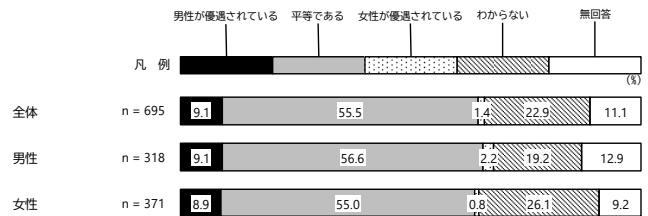


③ 学校

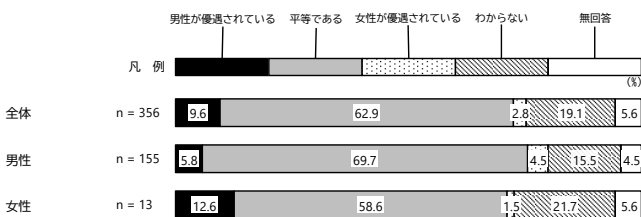
【R6 須賀川市調査】



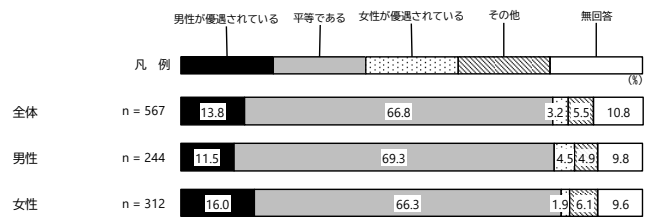
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

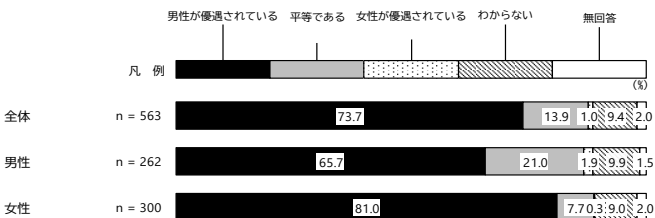


【H20 須賀川市調査】

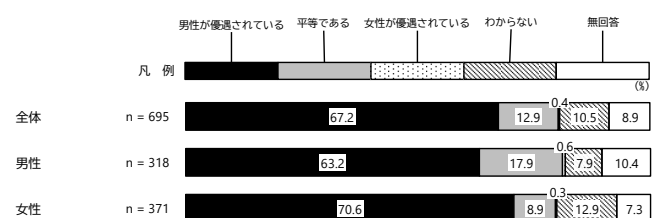


④ 政治の場

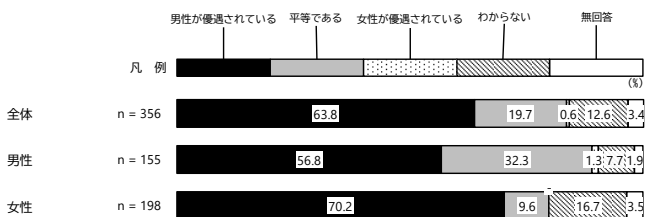
【R6 須賀川市調査】



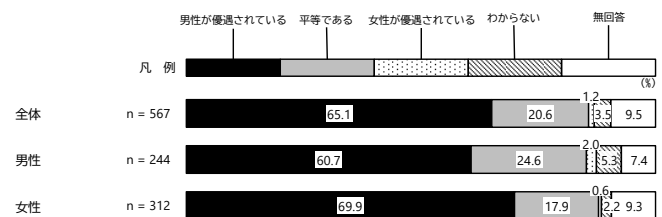
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



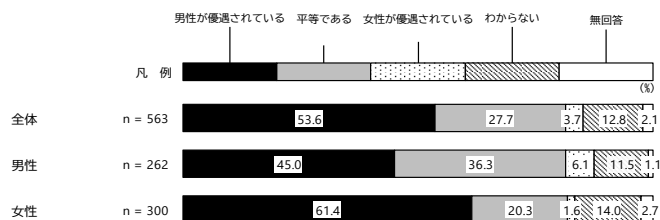
【H20 須賀川市調査】



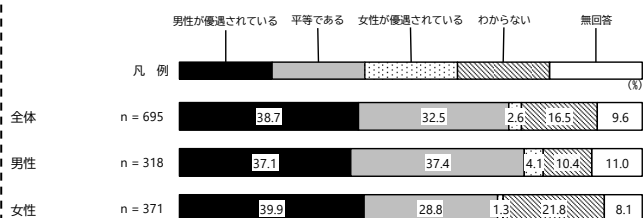
Ⅲ 調査結果の分析

⑤ 地域・社会活動の場

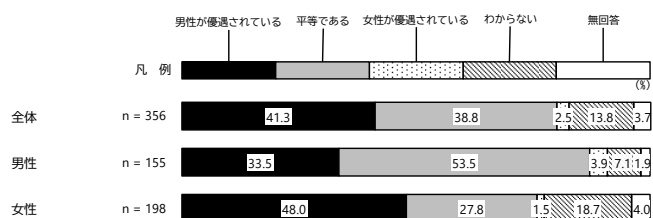
【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



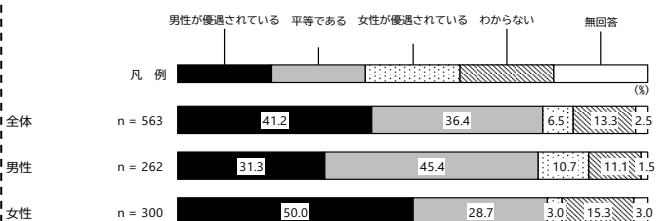
【H25 須賀川市調査】



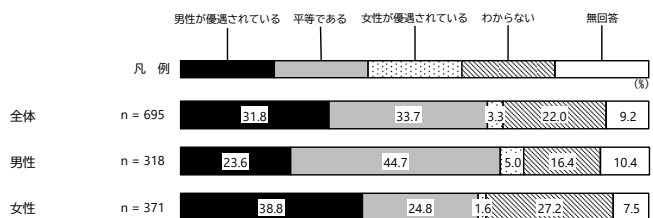
※ 【⑤ 地域・社会活動の場】は H25 須賀川市調査からの新規設問のため、H20 須賀川市調査の参考掲載なし

⑥ 法律・制度の上

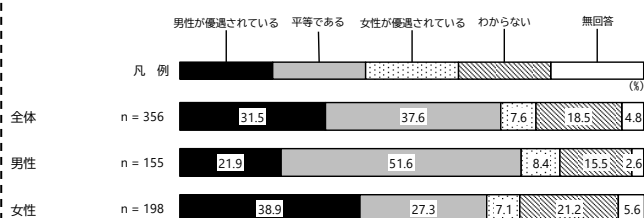
【R6 須賀川市調査】



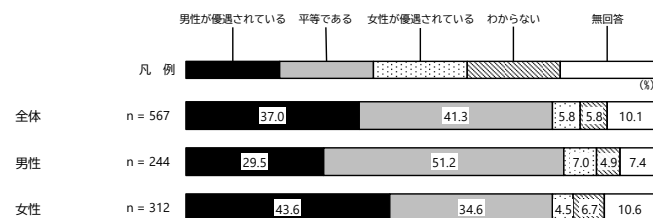
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

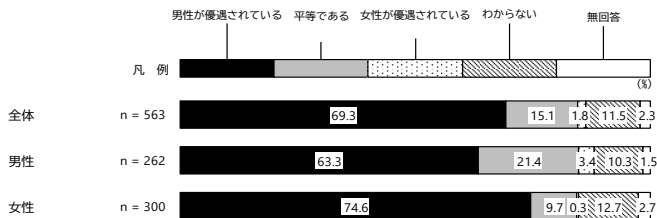


【H20 須賀川市調査】

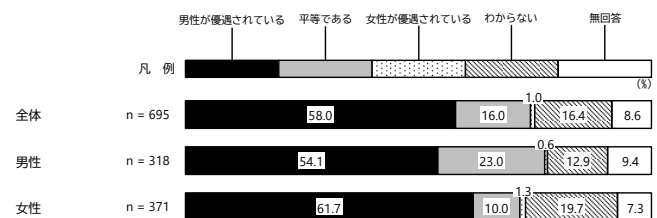


⑦ 社会通念・習慣・しきたりなど

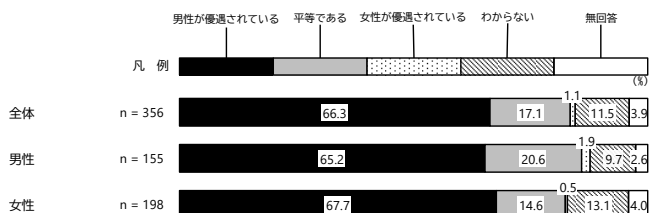
【R6 須賀川市調査】



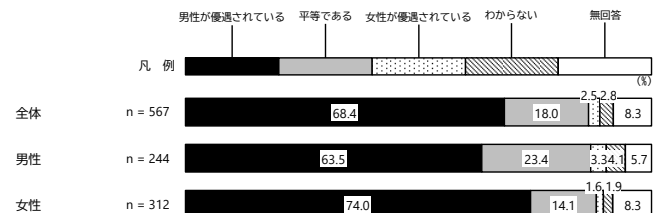
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】



以前の調査と男女別に比較すると、

【① 家庭生活】について、男性・女性ともに「男性が優遇されている」との回答が年々減少していたが、R6 須賀川市調査の女性では増加し、H30 須賀川市調査を 7.6 ポイント上回っている。

【② 職場】について、R6 須賀川市調査の男性では「男性が優遇されている」が H30 須賀川市調査と比べて 5.2 ポイント上回っている。

【③ 学校】について、R6 須賀川市調査では、男性・女性ともに「平等である」との回答が H30 須賀川市調査と比べて増加している。

【④ 政治の場】については、R6 須賀川市調査の女性では「男性が優遇されている」が H30 須賀川市調査と比べて 10.4 ポイント上回っている。女性での「男性が優遇されている」と「平等である」との差が大きくなった。

【⑤ 地域・社会活動の場】について、R6 須賀川市調査では、H30 須賀川市調査と比べて、女性の「男性が優遇されている」が 21.5 ポイント、男性の「男性が優遇されている」が 7.9 ポイント上回り、男女間での差が大きくなった。

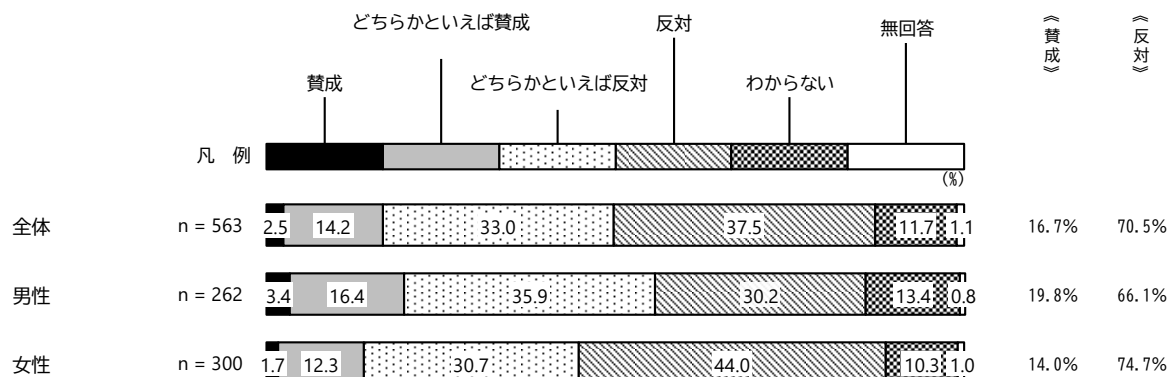
【⑥ 法律・制度の上】については、R6 須賀川市調査では、H30 須賀川市調査と比べて、「男性が優遇されている」との回答が男性・女性ともに増加している。

【⑦ 社会通念・習慣・しきたりなど】について、R6 須賀川市調査では、H30 須賀川市調査と比べて、女性の「男性が優遇されている」が 12.9 ポイント上回っている。

Ⅲ 調査結果の分析

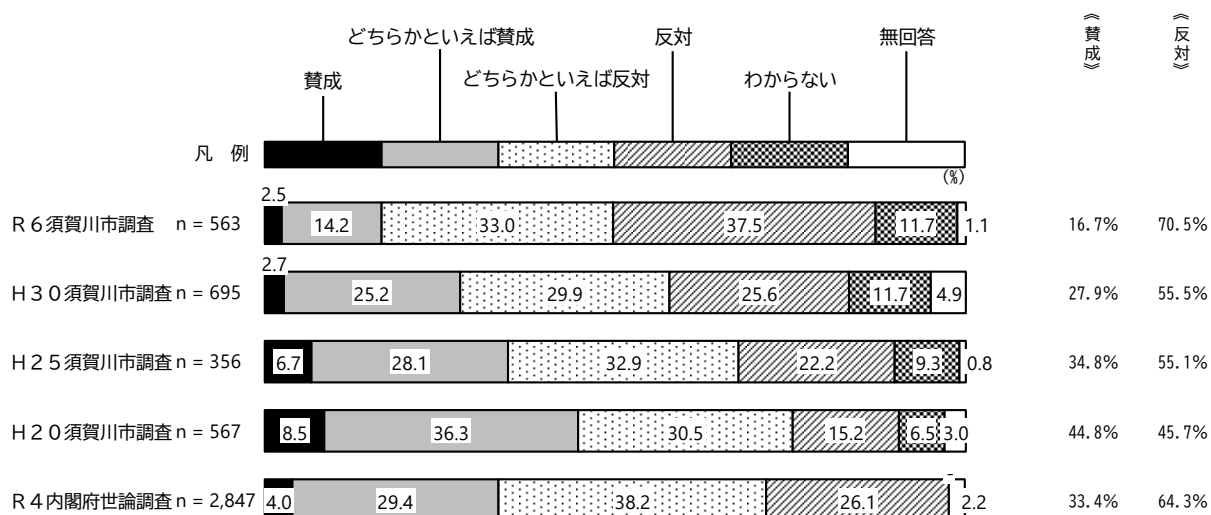
1-2 「男性は仕事、女性は家庭」という従来の固定的意識について

問 11 「男性は仕事、女性は家庭」という従来の固定的意識について、あなたはどのように思いますか。
(1つに○)



『「男性は仕事、女性は家庭」という従来の固定的意識について、あなたはどのように思いますか。』と尋ねたところ、男性では「どちらかといえば反対」(35.9%)、女性では「反対」(44.0%)が最も多い。「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた《反対》(男性：66.1%、女性 74.7%)は、「どちらかといえば賛成」と「賛成」を合わせた《賛成》(男性：19.8%、女性：14.0%)を男性・女性ともに大幅に上回る結果となった。

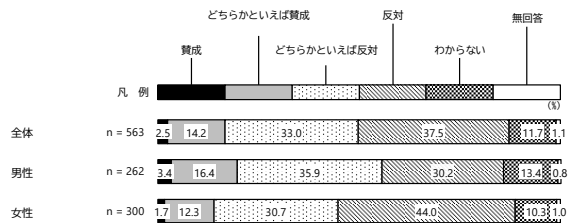
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R4 内閣府世論調査



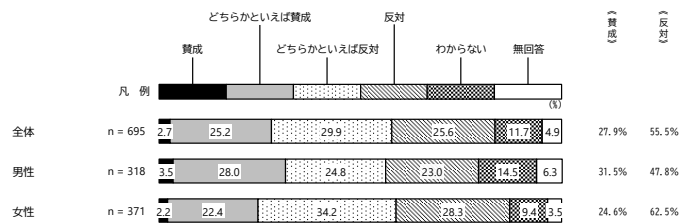
他の調査と比較すると、すべての調査で、《反対》が《賛成》よりも多く、R6 須賀川市調査はこれまでで最も多い 70.5%となった。《賛成》は年々減少傾向にある。

《参考》H6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

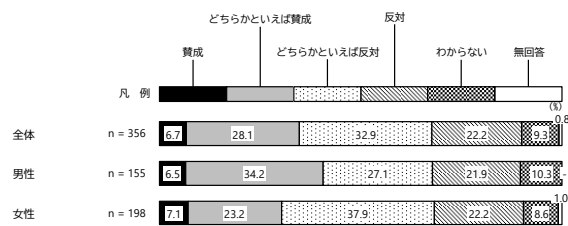
【R6 須賀川市調査】



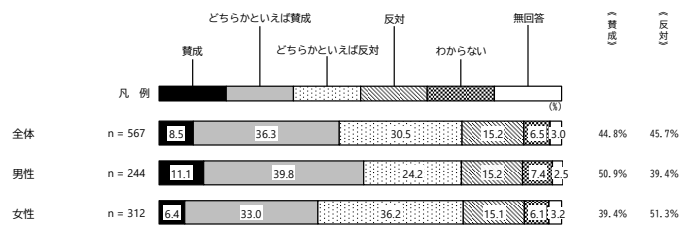
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】

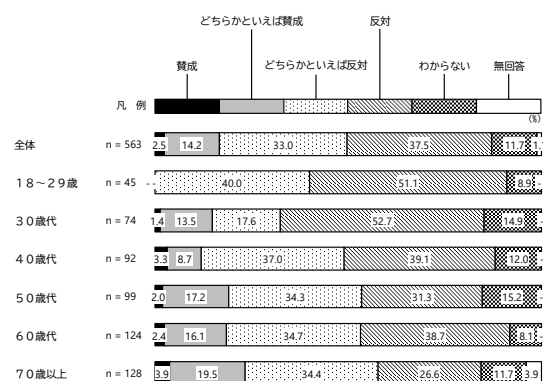


以前の調査と男女別に比較すると、H20 須賀川市調査の男性では、《賛成》(50.9%)が《反対》(39.4%)よりも多くなっている一方、R6 須賀川市調査は《反対》(男性：66.1%、女性：74.7%)が男性・女性ともに《賛成》(男性：19.8%、女性：14.0%)を大幅に上回っている。

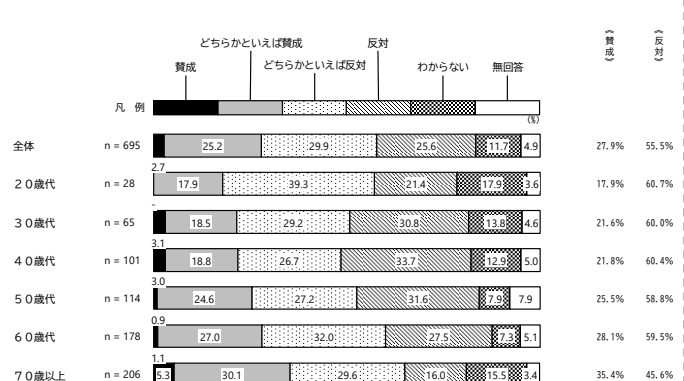
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 年齢別

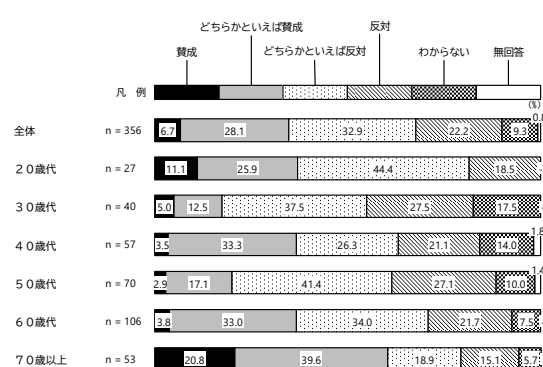
【R6 須賀川市調査】



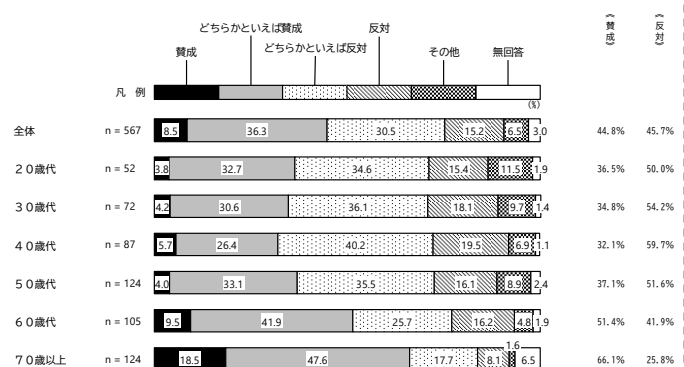
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



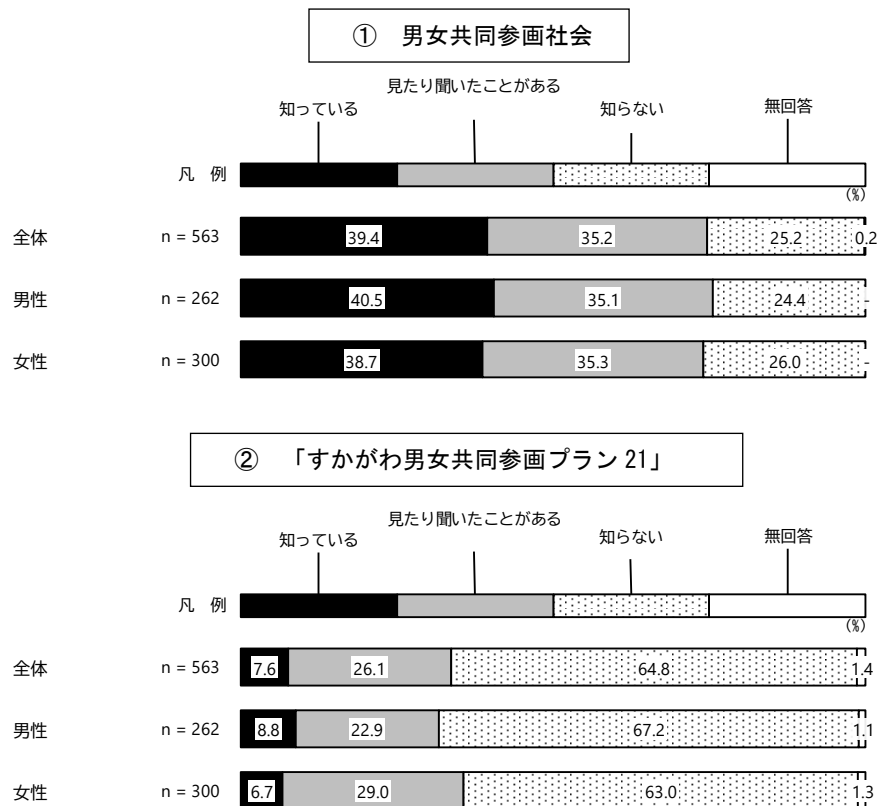
【H20 須賀川市調査】



以前の調査と年齢別に比較すると、H30 須賀川市調査では、すべての年代で《反対》が《賛成》より多く、70歳以上を除き《反対》が半数以上となっていたが、R6 須賀川市調査では、すべての年代で《反対》が半数を占め、その割合は増加している。

1-3 言葉の認知度

問 12 あなたは、次にあげる言葉について、ご存じですか。(それぞれ1つに○)



『あなたは、次にあげる言葉について、ご存知ですか。』と尋ねたところ、

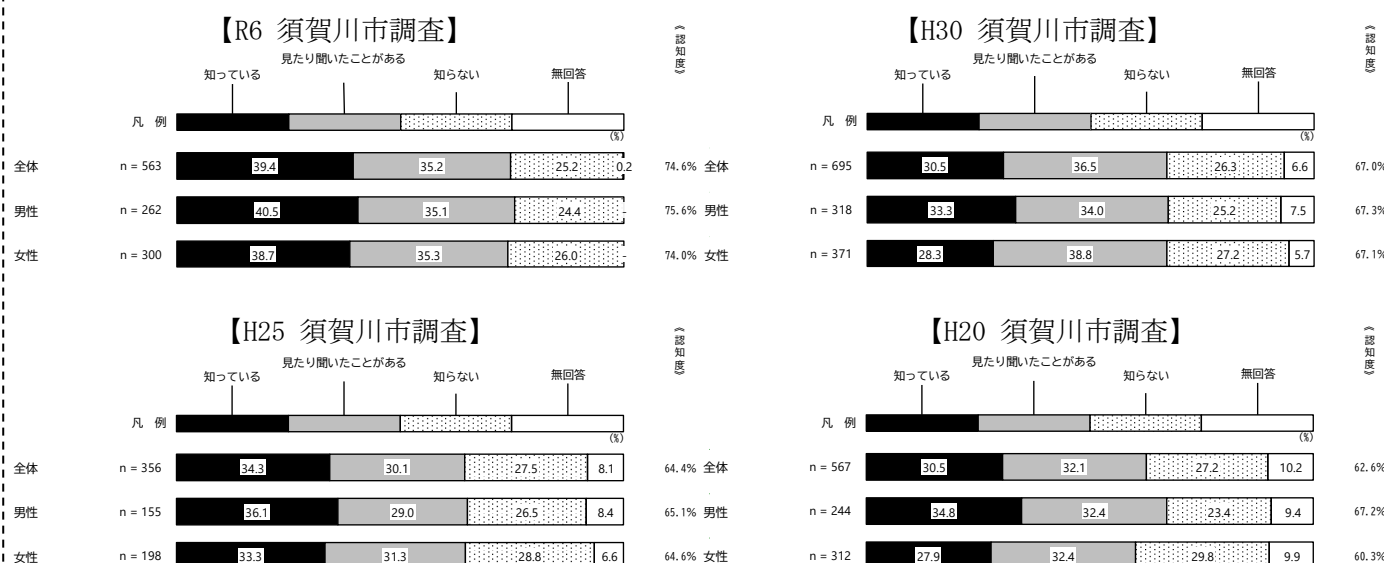
【① 男女共同参画社会】においては、男性・女性とも「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた《認知度》が7割を超えている。

【② 「すかがわ男女共同参画プラン 21」】では、男性・女性とも「知らない」(男性：67.2%、女性：63.0%)が6割を超え、《認知度》(男性：31.7%、女性：35.7%)を上回っている。

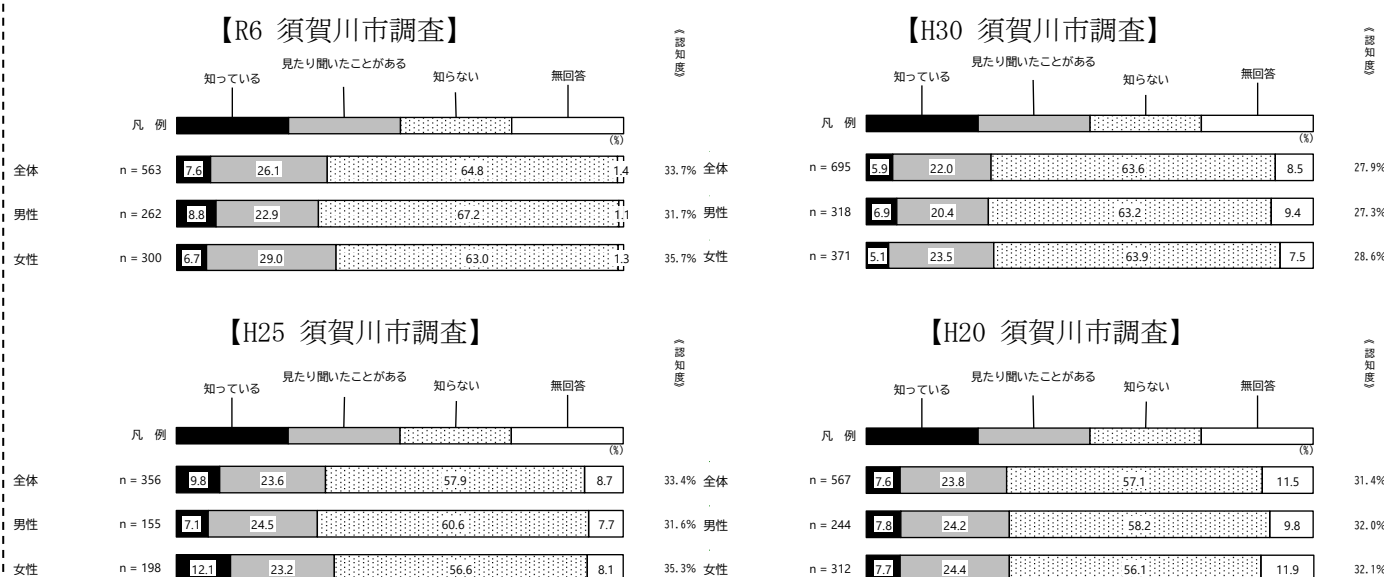
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

① 男女共同参画社会



② 「すかがわ男女共同参画プラン 21」



以前の調査と男女別に比較すると、

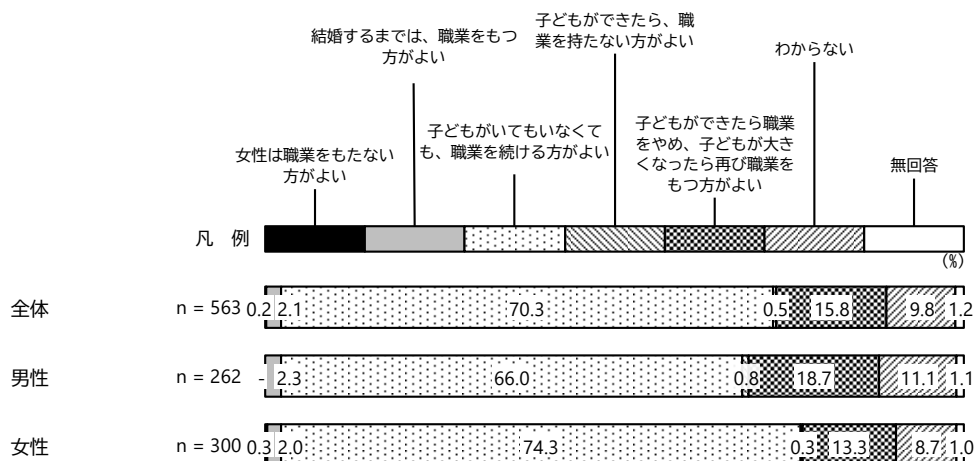
【① 男女共同参画社会】については、R6 須賀川市調査では、《認知度》が男性で 8.3 ポイント、女性で 6.9 ポイント H30 須賀川市調査から増加し、《認知度》が初めて男性・女性とも 7 割を超えた。

【② 「すかがわ男女共同参画プラン 21」】については、R6 須賀川市調査では、H30 須賀川市調査と比べて《認知度》が男性で 4.4 ポイント、女性で 7.1 ポイント増加しているものの、H20・25 須賀川市調査と比較した際に大きな差はなく、30% 台前半となっている。

2. 女性の社会進出・活躍に関する意識について

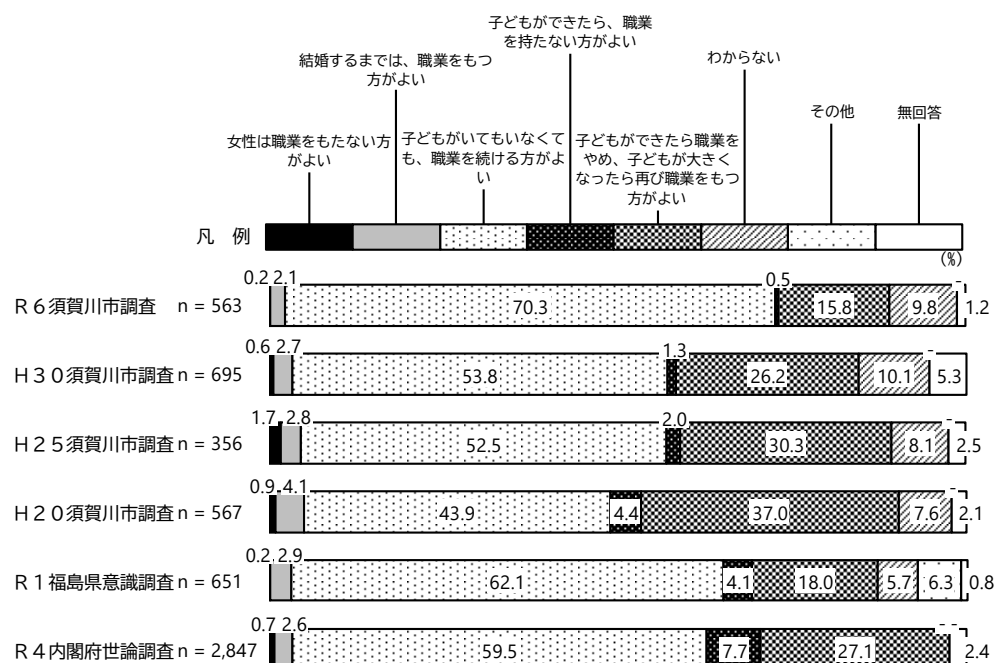
2-1 女性が職業をもつ（働く）ことについての考え

問 13 女性が職業をもつ（働く）ことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つに○）



『女性が職業をもつ（働く）ことについて、あなたはどのようにお考えですか。』と尋ねたところ、「子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい」が男性・女性ともに半数以上を占める結果となった（男性：66.0%、女性：74.3%）。次いで「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（男性：18.7%、女性：13.3%）となっている。

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査



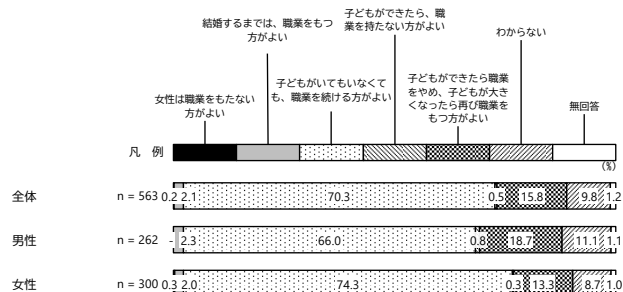
他の調査と比較すると、すべての調査で「子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい」が最も多くなっており、H20 須賀川市調査以外の調査で半数以上を占めている。「子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい」は年々増加傾向にある一方、「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は年々減少傾向にある。

Ⅲ 調査結果の分析

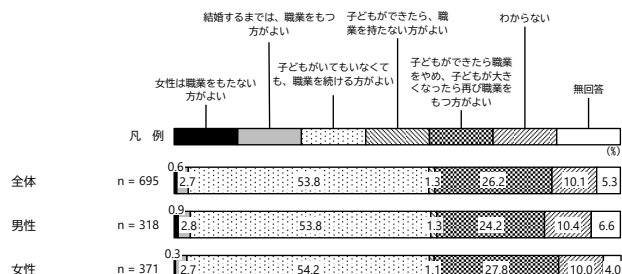
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

※H30、25、20 須賀川市調査では、一部選択肢名が異なるが同意義であるため読みかえを行っている。

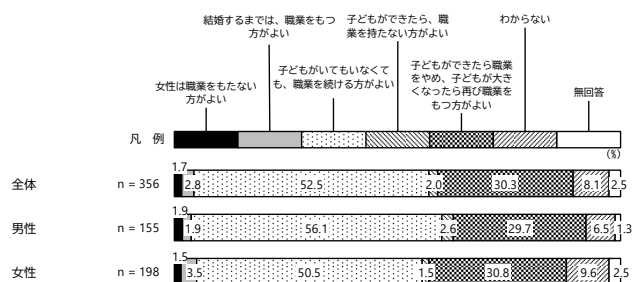
【R6 須賀川市調査】



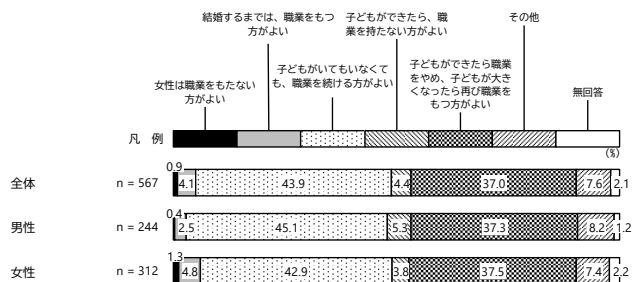
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



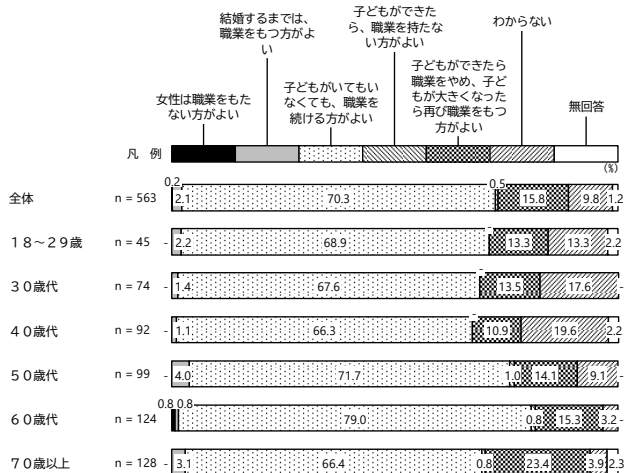
【H20 須賀川市調査】



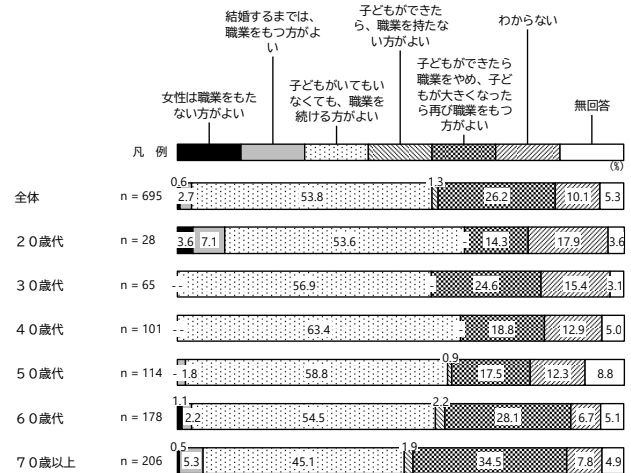
以前の調査と男女別に比較すると、R6 須賀川市調査は H30・25・20 須賀川市調査と同様に「子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい」（男性：66.0%、女性：74.3%）が最も多くなっている。H30 須賀川市調査と比較すると、男性では 12.2 ポイント、女性で 20.1 ポイント増加した。

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 年齢別

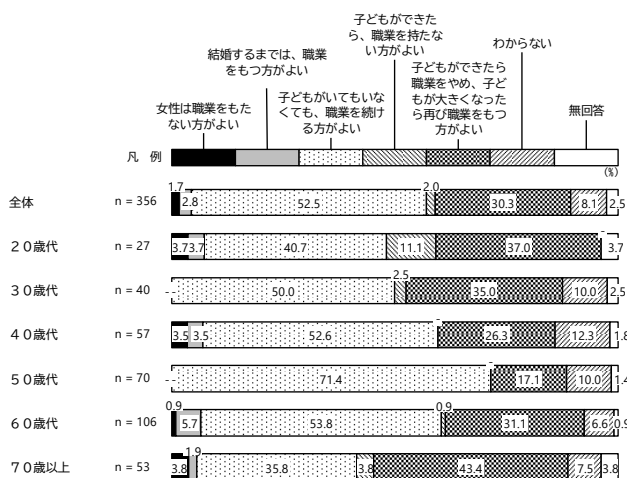
【R6 須賀川市調査】



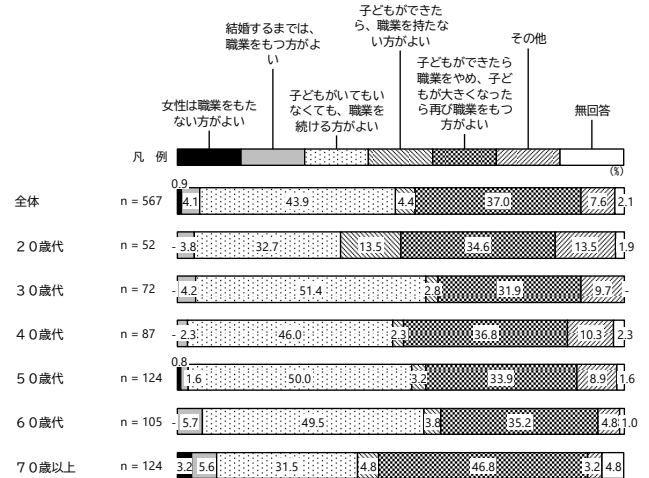
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】

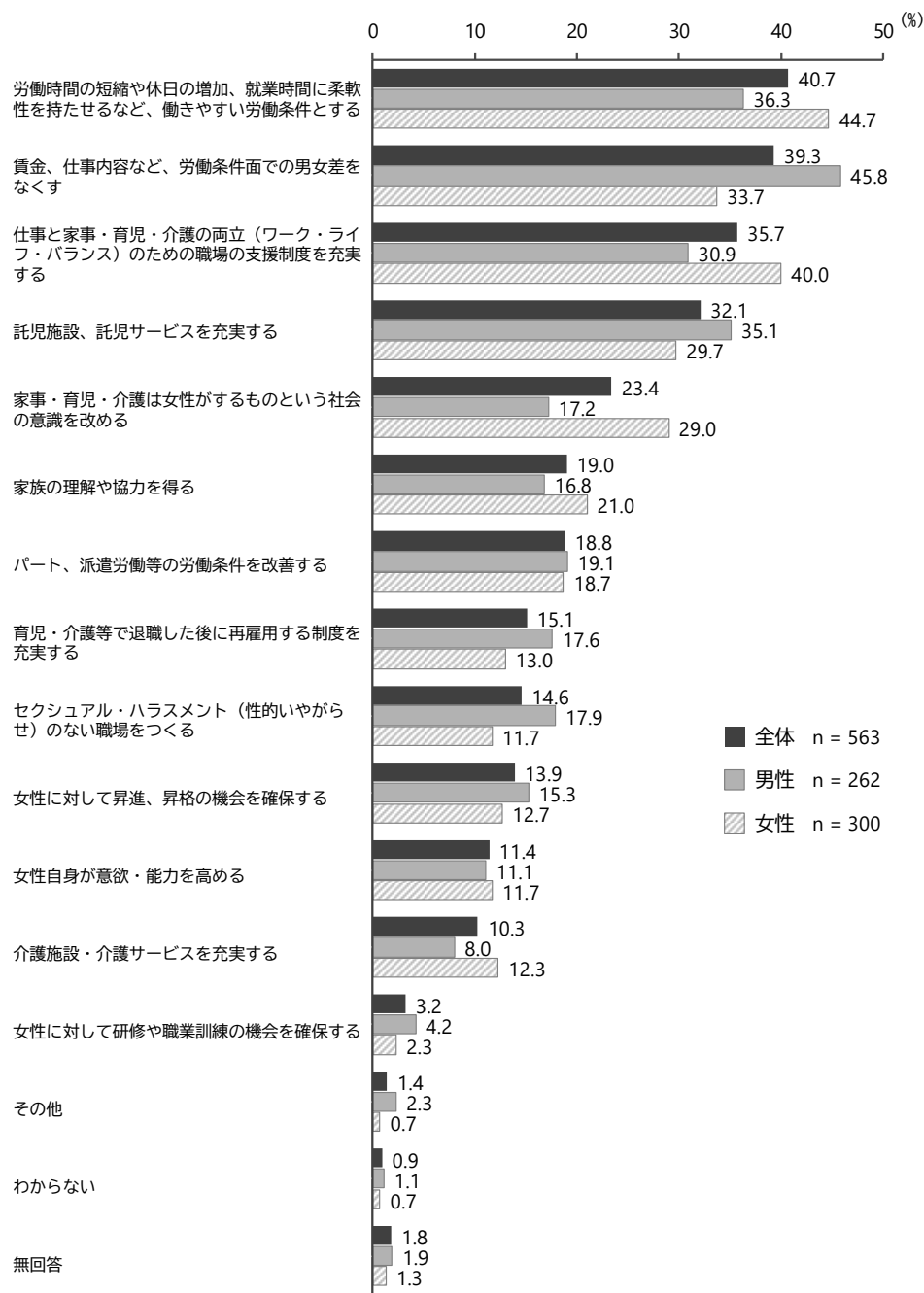


以前の調査と年齢別に比較すると、R6 須賀川市調査では全年代で「子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい」が最も多く、6割を超えている。70歳以上については、H30 須賀川市調査までは「子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい」は半数以下だったが、R6 須賀川市調査では66.4%となった。

Ⅲ 調査結果の分析

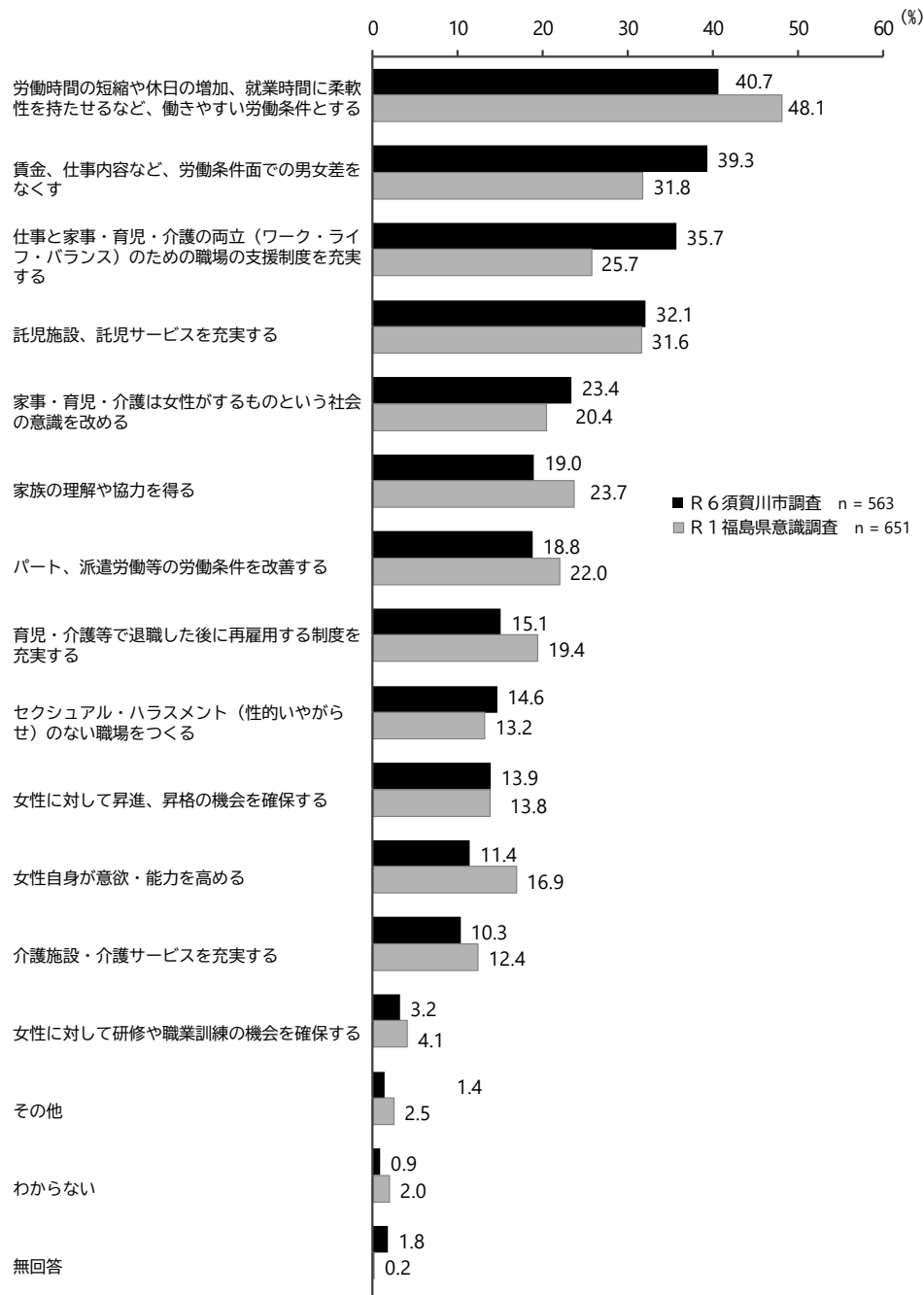
2-2 女性が働き続けるために必要なこと

問 14 女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。（○は3つまで）



『女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。』と尋ねたところ、男性では「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」（45.8%）、女性では「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」（44.7%）が最も多い。次いで、男性は「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」（36.3%）、女性は「仕事と家事・育児・介護の両立（ワーク・ライフ・バランス）のための職場の支援制度を充実する」（40.0%）となっている。性別間での順位に相違がみられる。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

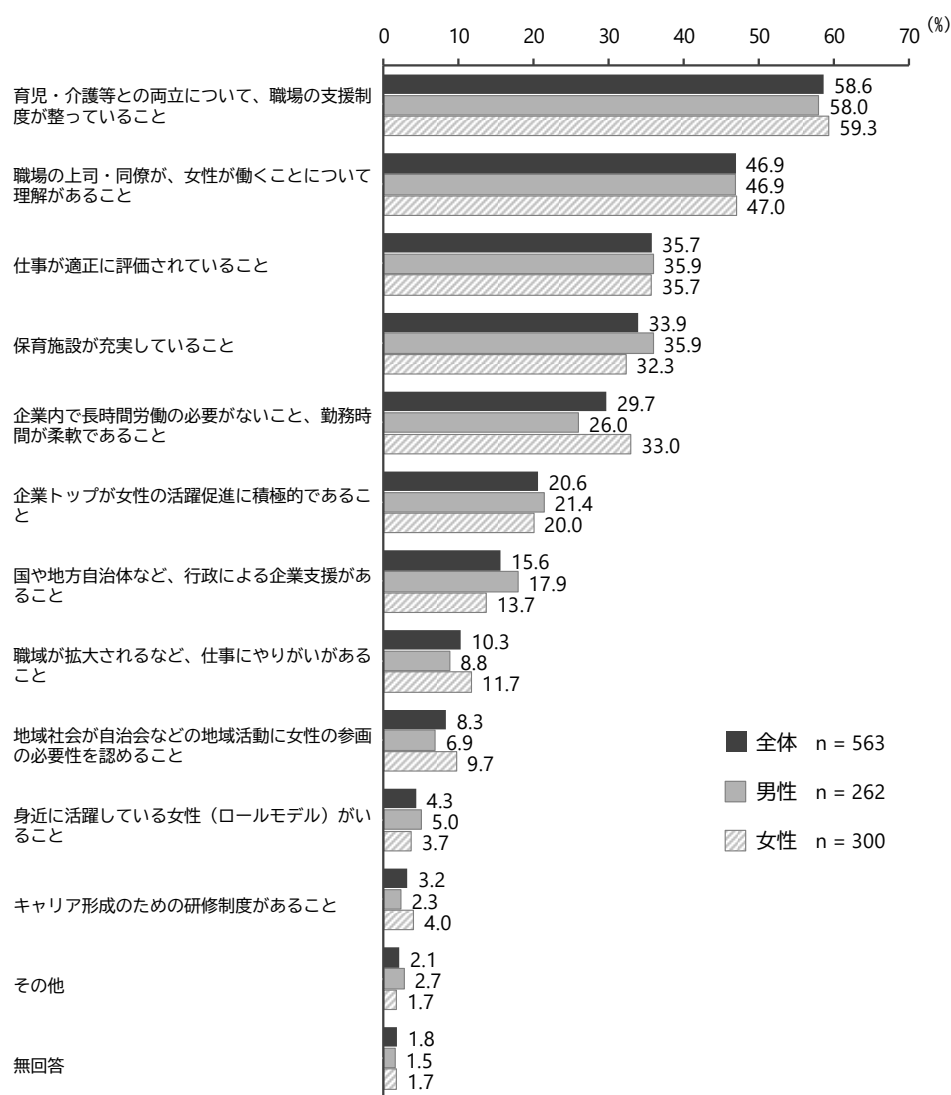


R1 福島県意識調査と比較すると、上位2項目は同順となっているが、R6 須賀川市調査では、「仕事と家事・育児・介護の両立（ワーク・ライフ・バランス）のための職場の支援制度を充実する」がR1 福島県意識調査を 10.0 ポイント上回っている。

Ⅲ 調査結果の分析

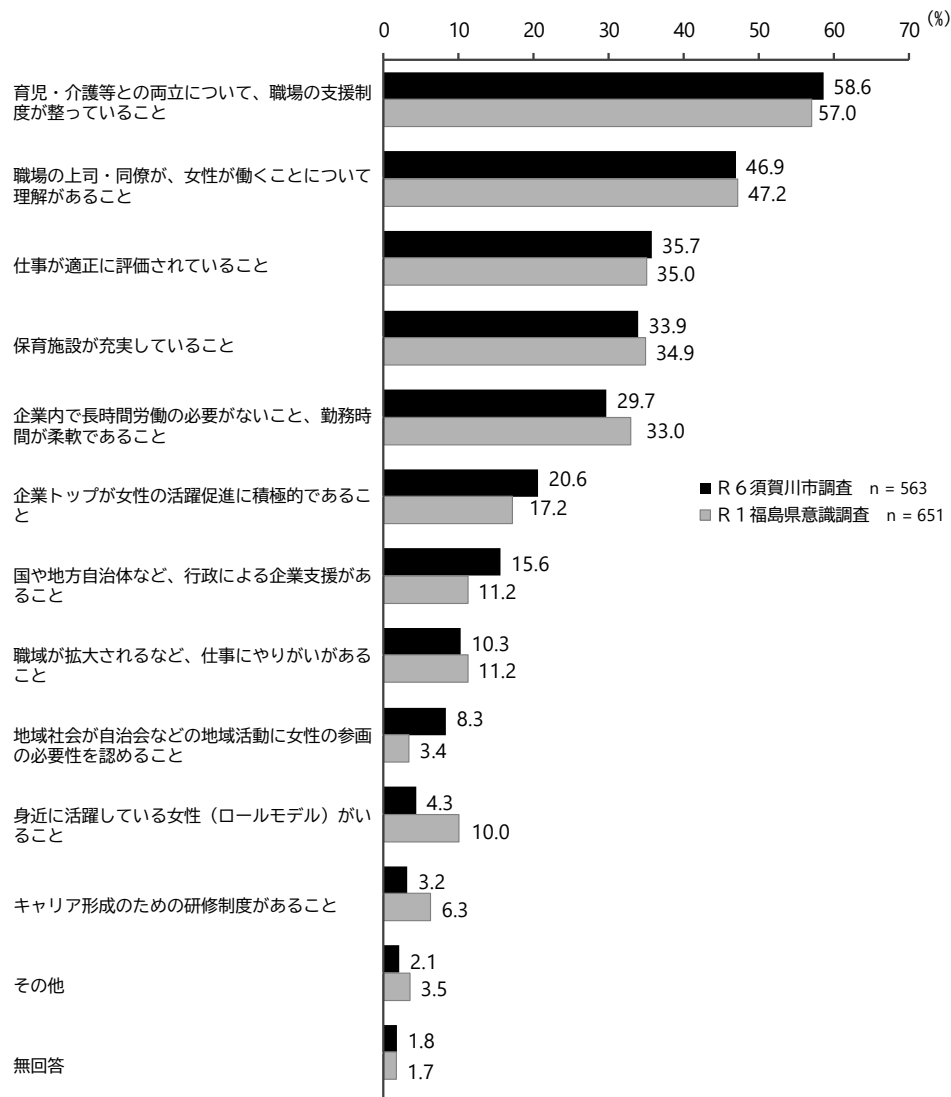
2-3 女性が活躍するために必要なこと

問 15 女性が活躍するには何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



『女性が活躍するには何が必要だと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること」（男性：58.0%、女性：59.3%）が最も多く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」（男性：46.9%、女性：47.0%）となっている。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

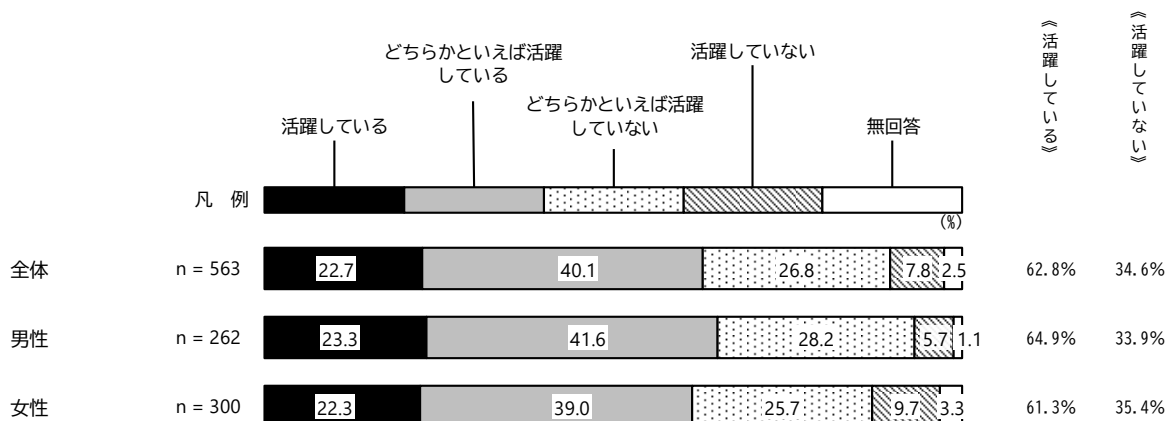


R1 福島県意識調査と比較すると、いずれの調査でも「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること」が最も多く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

2-4 あなた自身や身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍しているか

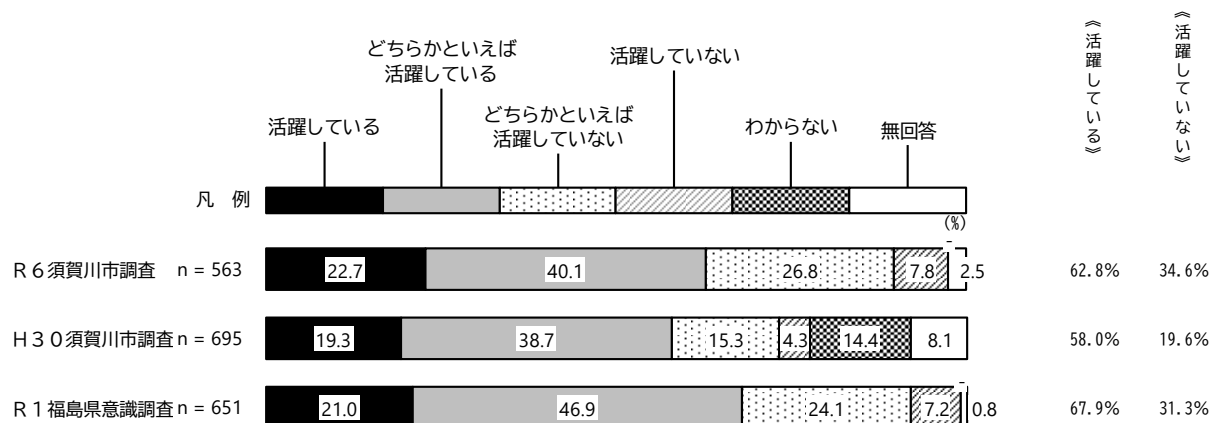
問 16 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。
(1つに○)



『あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性とも「どちらかといえば活躍している」(男性：41.6%、女性：39.0%)が最も多く、「活躍している」と「どちらかといえば活躍している」を合わせた《活躍している》(男性：64.9%、女性：61.3%)は6割を超える結果となった。

《参考》R6・H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査では「わからない」の項目がないため「－」と表している



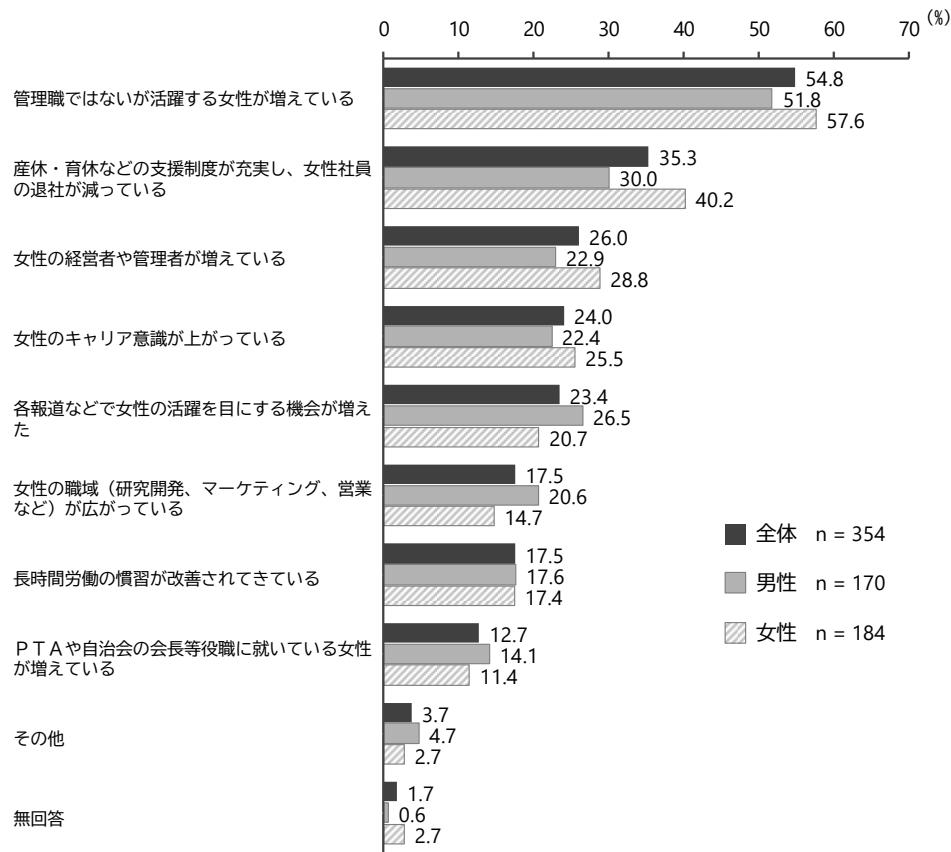
H30 須賀川市調査と比較すると、「どちらかといえば活躍している」が最も多いことに変わりはないが、「どちらかといえば活躍していない」(26.8%)が、H30 須賀川市調査より 11.5 ポイント上回っている。

R1 福島県意識調査と比較すると、《活躍している》は R6 須賀川市調査では 5.1 ポイント R1 福島県意識調査を下回っている。

2-5 活躍していると思う理由

問 17 問 16 で、「1. 活躍している」「2. どちらかといえば活躍している」とお答えの方にお尋ねします。

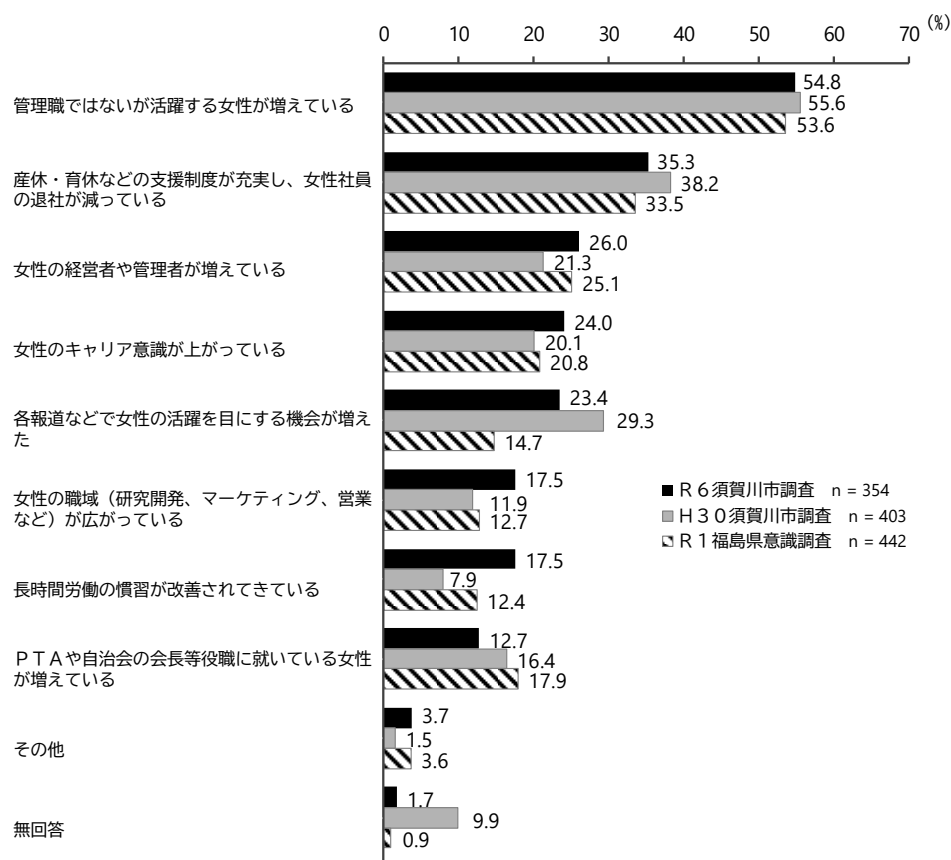
活躍していると思う理由は何ですか。(〇は3つまで)



『身近な女性が活躍していると感じている理由は何ですか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに上位2項目は「管理職ではないが活躍する女性が増えている」（男性：51.8%、女性：57.6%）、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」（男性：30.0%、女性：40.2%）となっているが、男性では「各報道などで女性の活躍を目にする機会が増えた」（26.5%）、女性では「女性の経営者や管理職が増えている」（28.8%）が3番目に多い回答となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

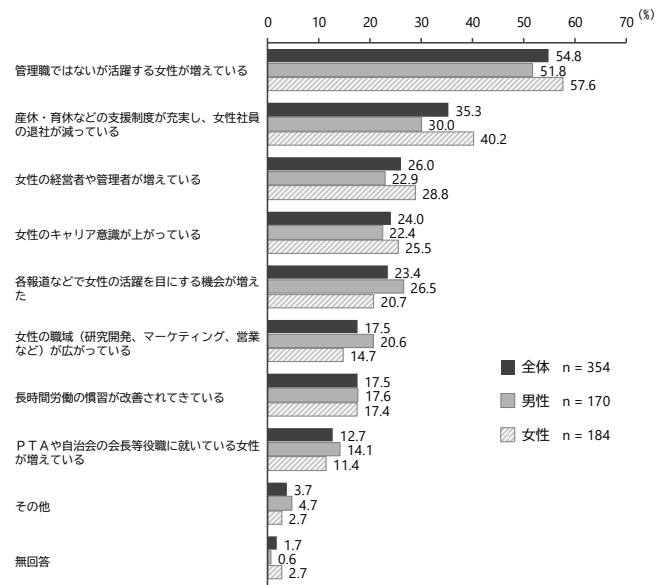
《参考》R6・H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査



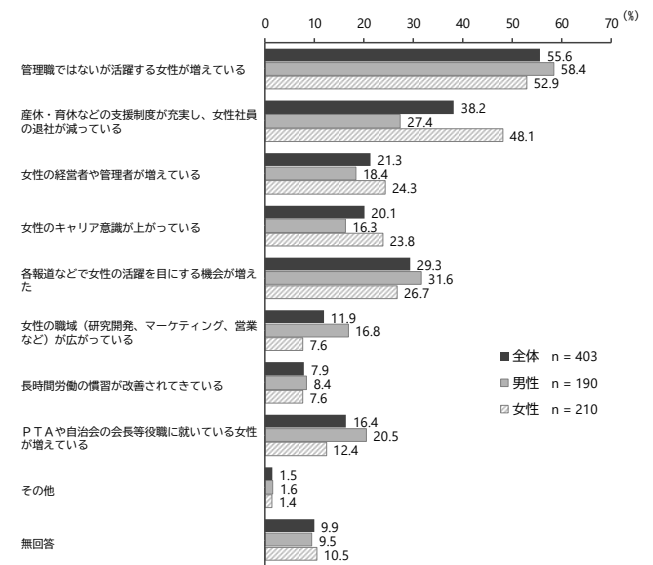
他の調査と比較すると、H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査いずれも「管理職ではないが活躍する女性が増えている」が最も多く、次いで「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」となっている。R6 須賀川市調査と R1 福島県意識調査では、「女性の経営者や管理者が増えている」が3番目に多い回答となっているが、H30 須賀川市調査では「各報道などで女性の活躍を目にする機会が増えた」が3番目となっている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査 男女別

【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



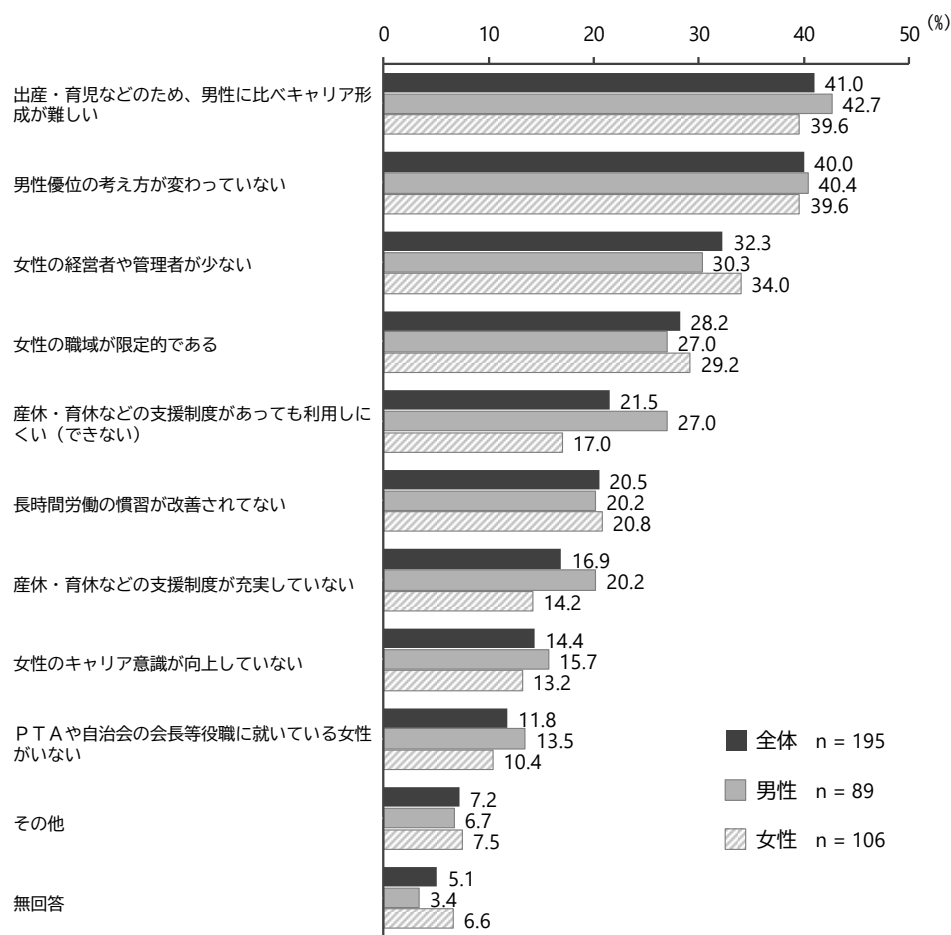
H30 須賀川市調査と男女別に比較すると、男性・女性ともに「管理職ではないが活躍する女性が増えている」が最も多くなっているが、男性の割合が、6.6 ポイント減少している。次いで男性・女性ともに「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」となっているが、女性の割合が 7.9 ポイント減少している。

Ⅲ 調査結果の分析

2-6 活躍していないと思う理由

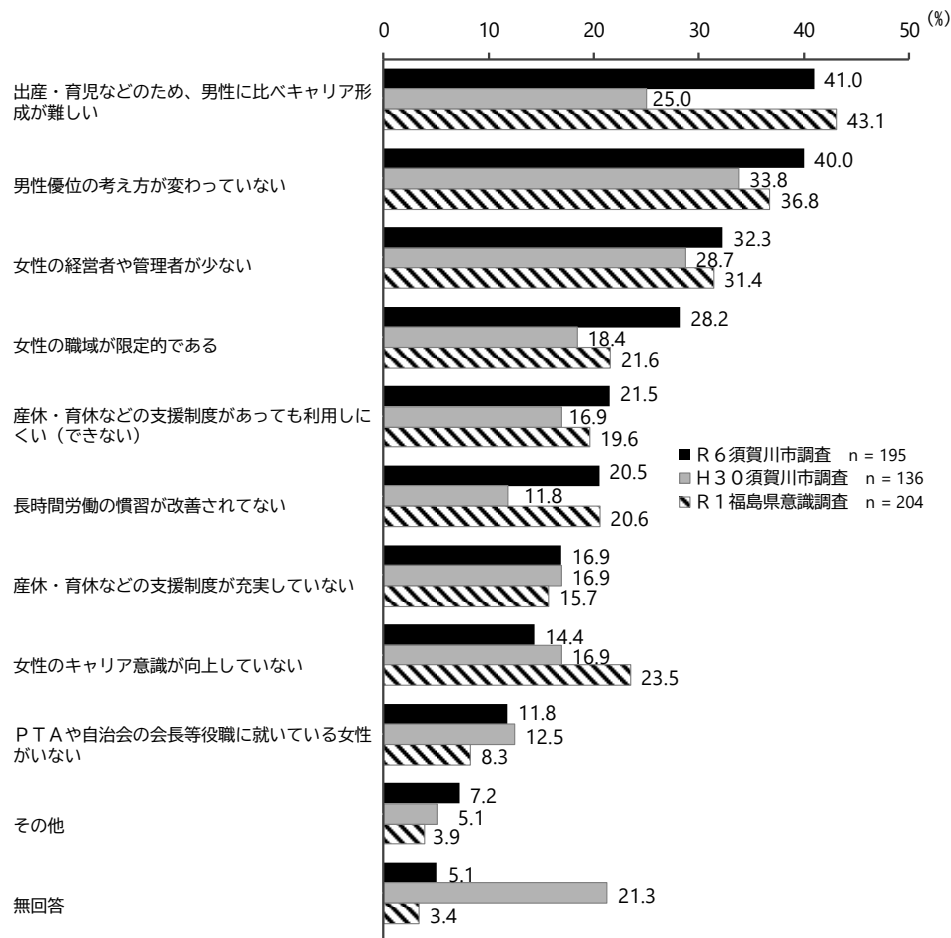
問 18 問 16 で、「3. どちらかと言えば活躍していない」「4. 活躍していない」とお答えの方にお尋ねします。

活躍していないと思う理由は何ですか。（○は3つまで）



『身近な女性が活躍していないと思う理由は何ですか。』と尋ねたところ、男性は「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」（42.7%）が最も多く、女性は「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」「男性優位の考え方が変わっていない」（ともに 39.6%）となっている。「産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい（できない）」（男性：27.0%、女性：17.0%）では、男性が女性に比べて 10.0 ポイント上回っている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

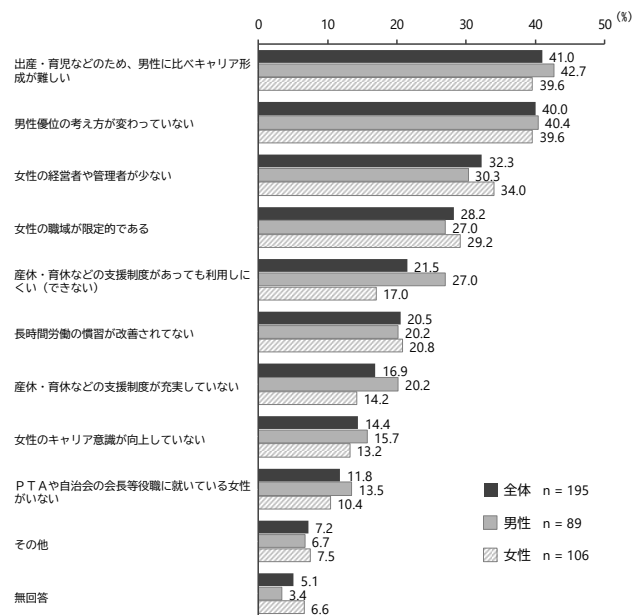


他の調査と比較すると、H30 須賀川市調査を除き「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が最も多くなっている。H30 須賀川市調査では、「男性優位の考え方が変わっていない」が最も多いものの、R6 須賀川市調査が 6.2 ポイント上回っている。また、「女性のキャリア意識が向上していない」は R1 福島県意識調査 (23.5%) と比べると、R6 須賀川市調査が 9.1 ポイント下回っている。

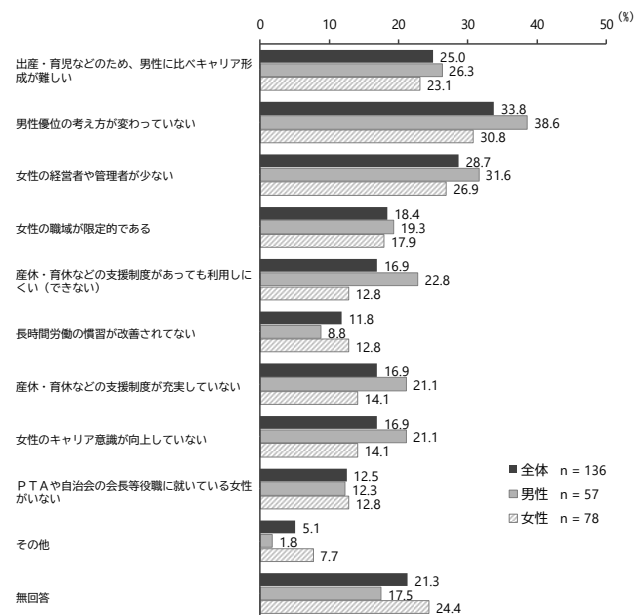
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30 須賀川市調査 男女別

【R6 須賀川市調査】



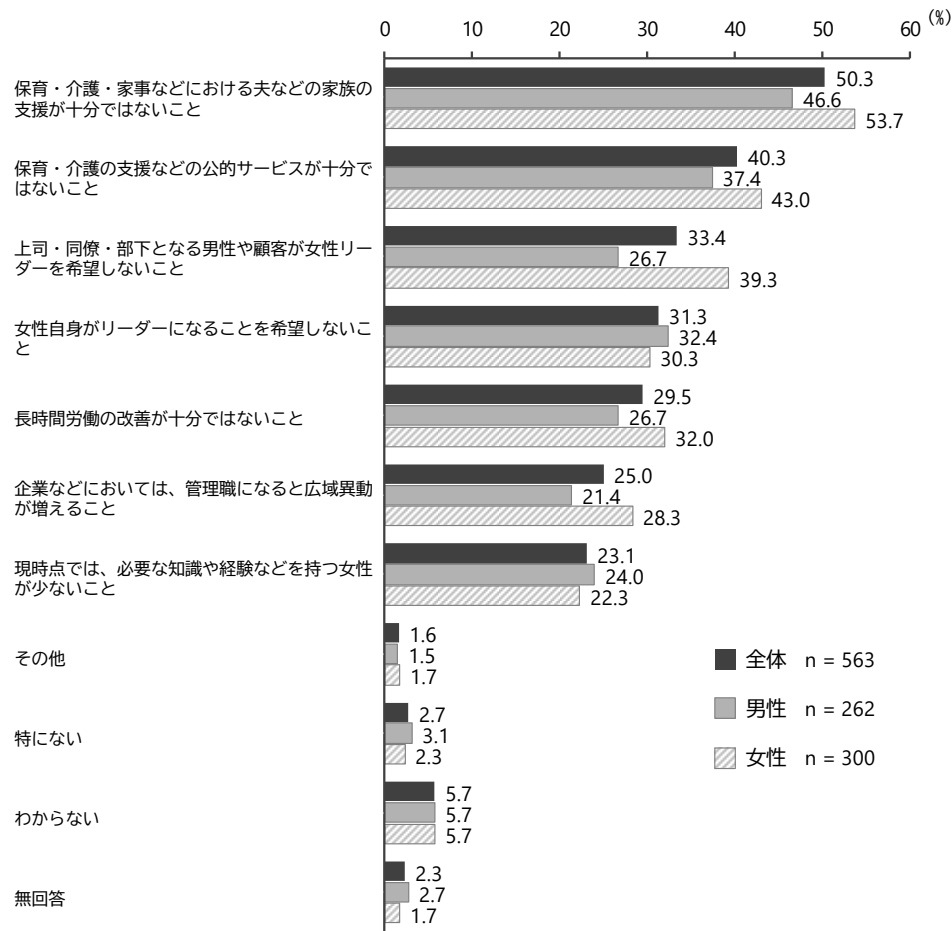
【H30 須賀川市調査】



H30 須賀川市調査と男女別に比較すると、R6 須賀川市調査では、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」（男性：42.7%、女性：39.6%）が男性で 16.4 ポイント、女性では 16.5 ポイント増加している。

2-7 各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げになるもの

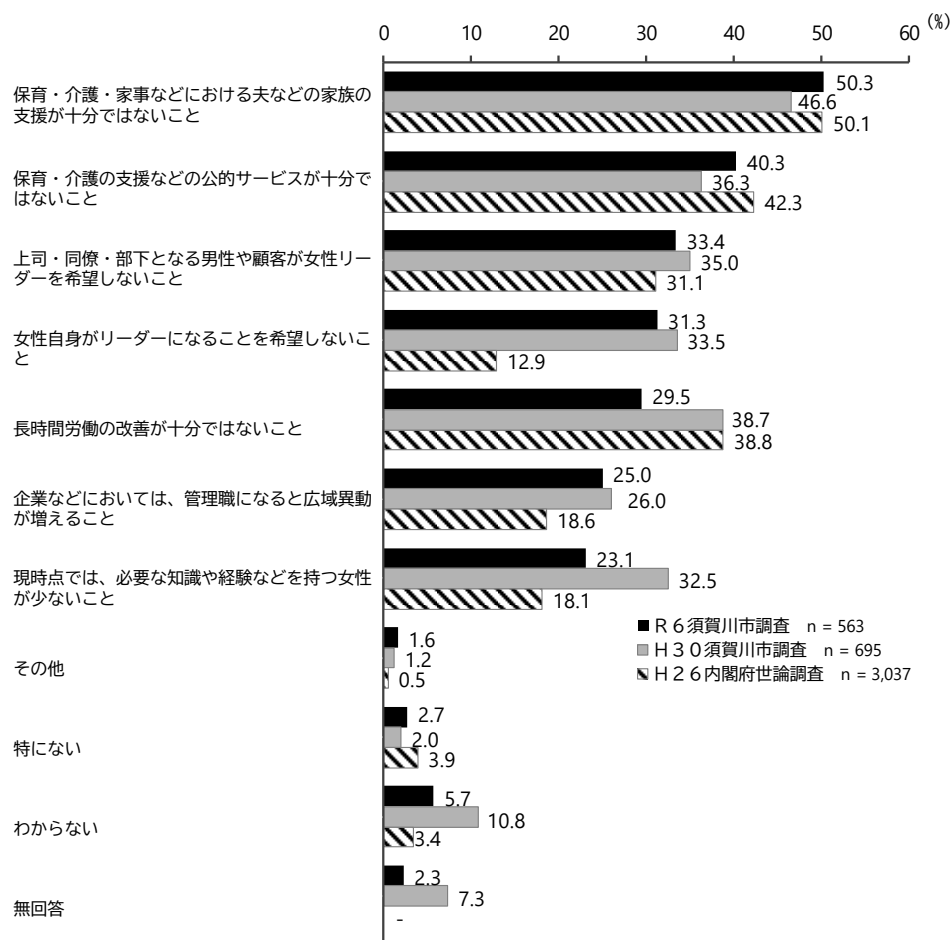
問 19 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）



『政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思えますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（男性：46.6%、女性：53.7%）が最も多く、女性が男性を7.1ポイント上回っている。次いで「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（男性：37.4%、女性：43.0%）となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30 須賀川市調査、H26 内閣府世論調査

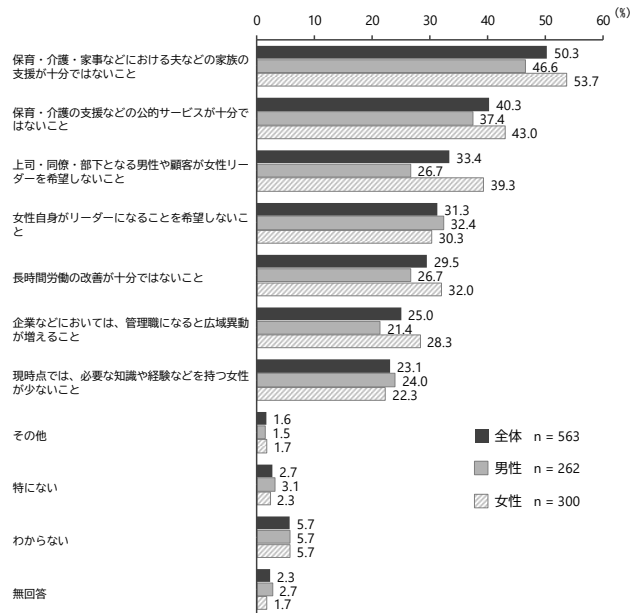


他の調査と比較すると、いずれも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も多くなっている。

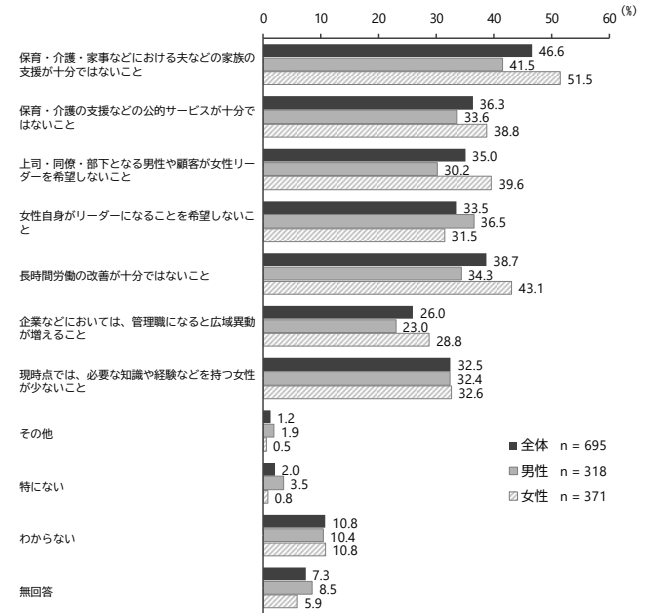
H26 内閣府調査と比較すると、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」は H26 内閣府調査では約 1 割となっているが、R6・H30 須賀川市調査では約 3 割となっている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査 男女別

【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



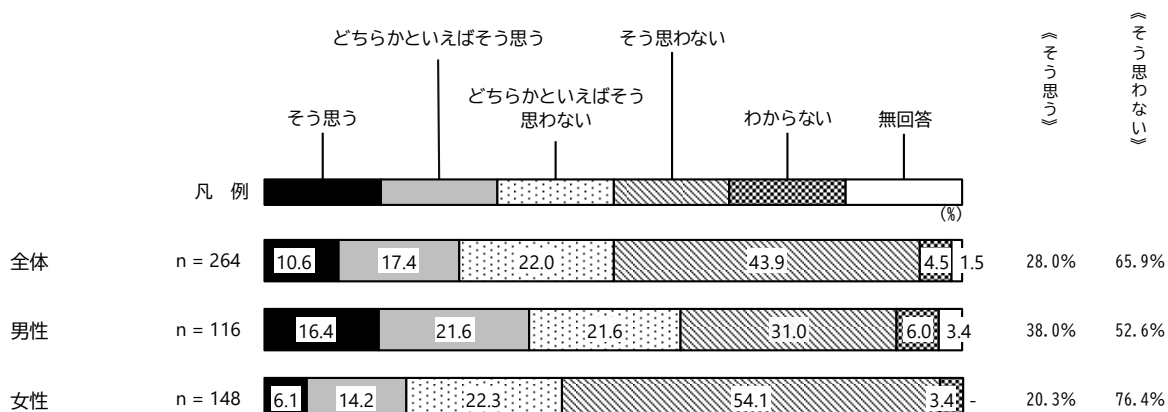
H30 須賀川市調査と男女別に比較すると、R6 須賀川市調査は H30 須賀川市調査と同様に「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（男性：46.6%、女性：53.7%）が最も多くなっている。

また、R6 須賀川市調査では、上位2項目の「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」は男性・女性ともに H30 須賀川市調査から増加したが、以降の項目は減少している。

Ⅲ 調査結果の分析

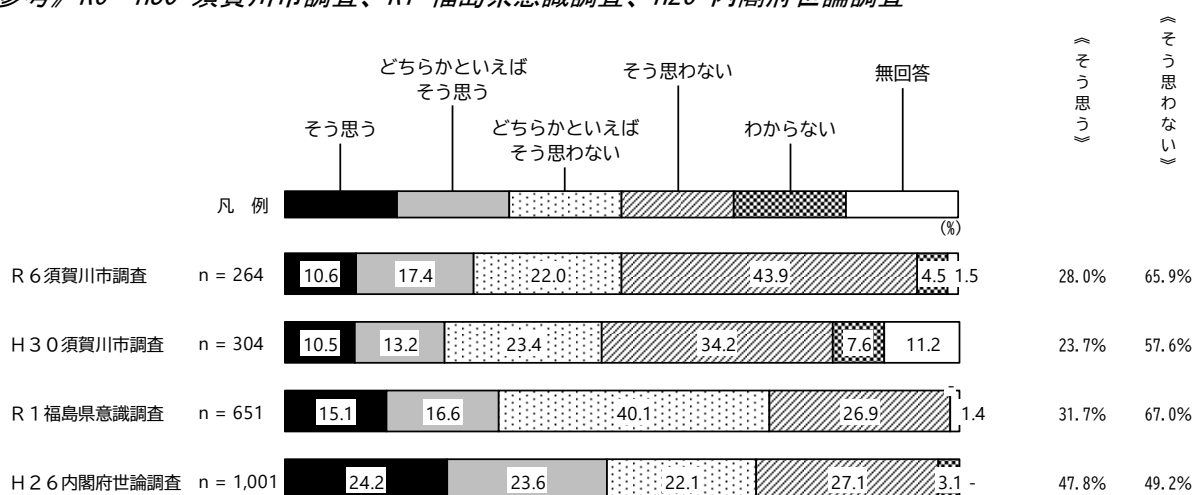
2-8 現在働いている会社などでリーダー・管理職になりたいか

問 20 問 3 で、「勤めている（4. 役員・管理職 5. 専門技術職 6. 事務職 7. 労務職 8. 販売・サービス業 9. 保安職）」とお答えの方にお尋ねします。
あなたは、現在働いている会社などでリーダー・管理職になりたいと思いますか。（1 つに○）



『あなたは、現在働いている会社などでリーダー・管理職になりたいと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性とも「そう思わない」（男性：31.0%、女性：54.1%）が最も多くなっている。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた《そう思わない》（男性：52.6%、女性：76.4%）が女性では7割を超えており、男性と比べて23.8ポイント上回っている。

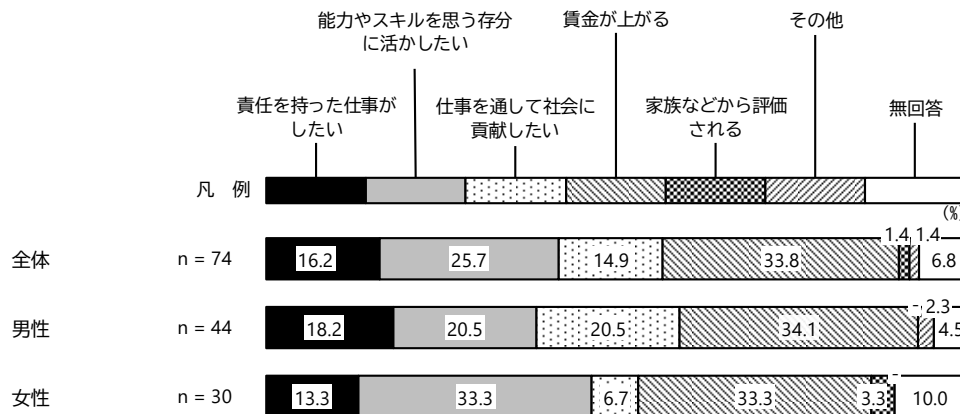
《参考》R6・H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、H26 内閣府世論調査



他の調査と比較すると、どの調査においても《そう思わない》が「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足し合わせた《そう思う》を上回っている。R6 須賀川市調査の《そう思う》の割合（28.0%）は、H26 内閣府世論調査（47.8%）と比べると、19.8ポイント下回っている。

2-9 リーダー・管理職になりたい理由

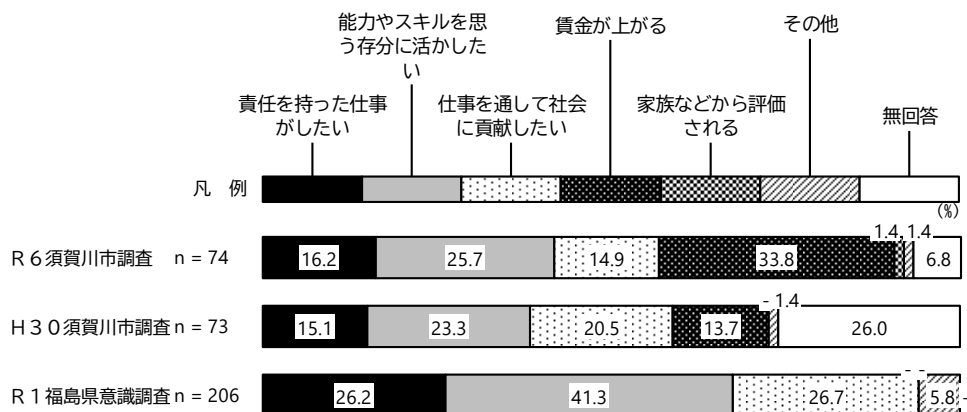
問 21 問 20 で、「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」とお答えの方にお尋ねします。
リーダー・管理職になりたい理由をお答えください。（1つに○）



『リーダー・管理職になりたい理由をお答えください。』と尋ねたところ、男性では「賃金が上がる」（34.1%）が最も多くなっている。女性では「賃金が上がる」「能力やスキルを思う存分に活かしたい」（ともに 33.3%）が最も多く、「能力やスキルを思う存分に活かしたい」は男性と比べて 12.8 ポイント上回っている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※R1 福島県意識調査では「賃金が上がる」「家族などから評価される」の項目がないため「－」と表している



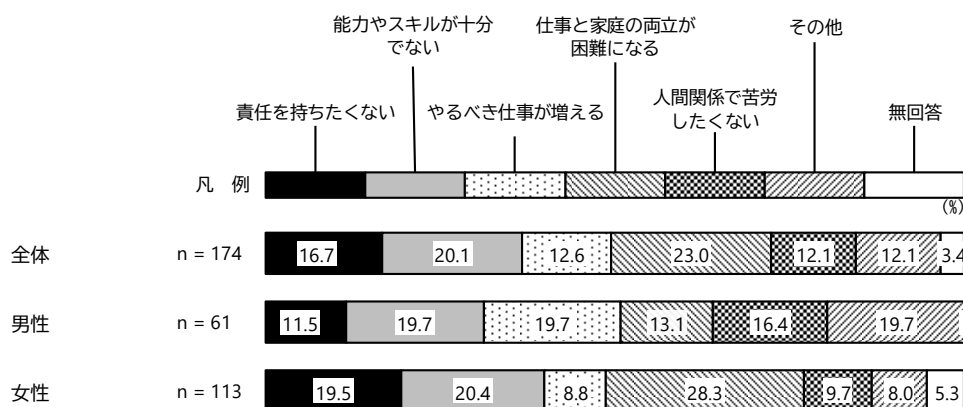
他の調査と比較すると、R6 須賀川市調査では、「賃金が上がる」が H30 須賀川市調査に比べて 20.1 ポイント上回っている。また、R6 須賀川市調査では、「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が R1 福島県意識調査に比べて 15.6 ポイント下回っている。

Ⅲ 調査結果の分析

2-10 リーダー・管理職になりたくない理由

問 22 問 20 で、「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方にお尋ねします。

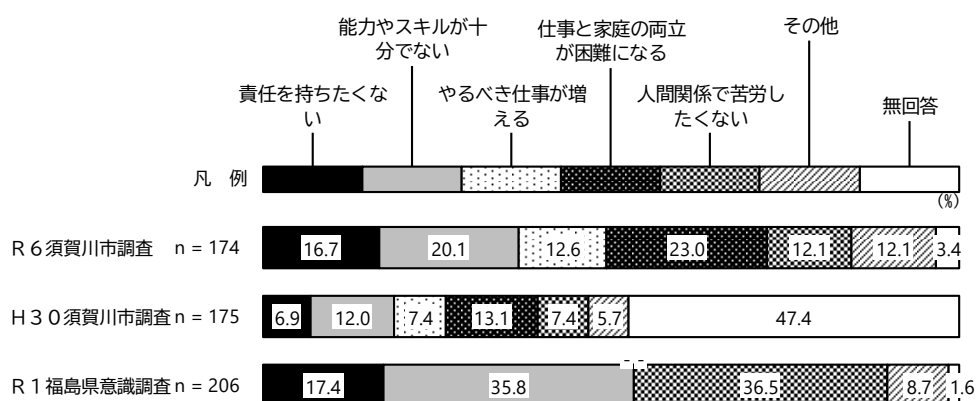
リーダー・管理職になりたくない理由をお答えください。（1つに○）



『リーダー・管理職になりたくない理由をお答えください。』と尋ねたところ、男性では、「能力やスキルが十分でない」「やるべき仕事が増える」（ともに 19.7%）が最も多くなっている。女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」（28.3%）が最も多く、男性を 15.2 ポイント上回っている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※R1 福島県意識調査では「やるべき仕事が増える」「仕事と家庭の両立が困難になる」の項目がないため「－」と表している



他の調査と比較すると、R6・H30 須賀川市調査では、ともに「人間関係で苦勞したくない」が最も多く、次いで「能力やスキルが十分でない」となっている。

3. 家庭・地域生活などに関する意識について

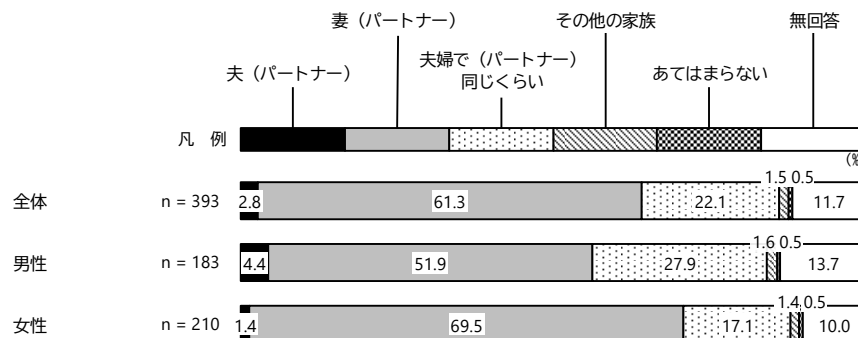
3-1 家事の役割分担

問 23 問5で、「2. 未婚だが、パートナーと暮らしている」または「3. 既婚（配偶者あり）」とお答えの方にお尋ねします。

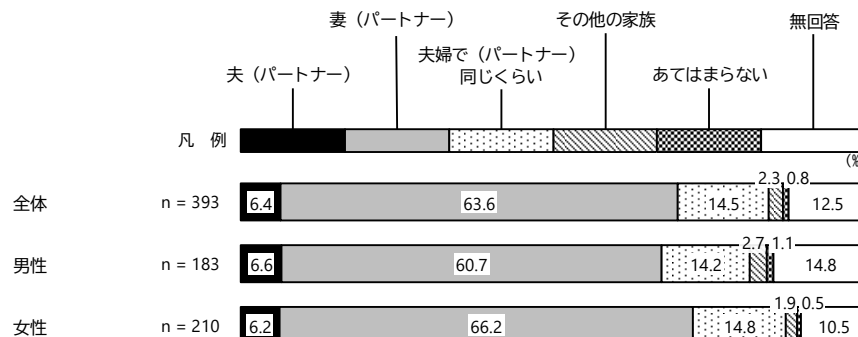
あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたが担っていますか。

（①から⑧までについて、それぞれ1つに○）

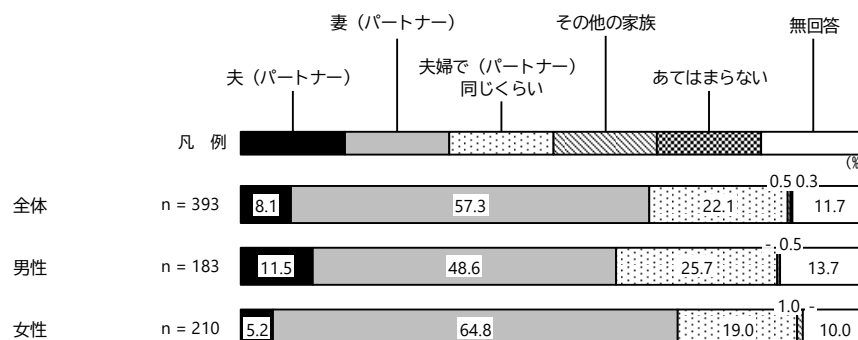
① 食事のしたく・後片付け



② 洗濯

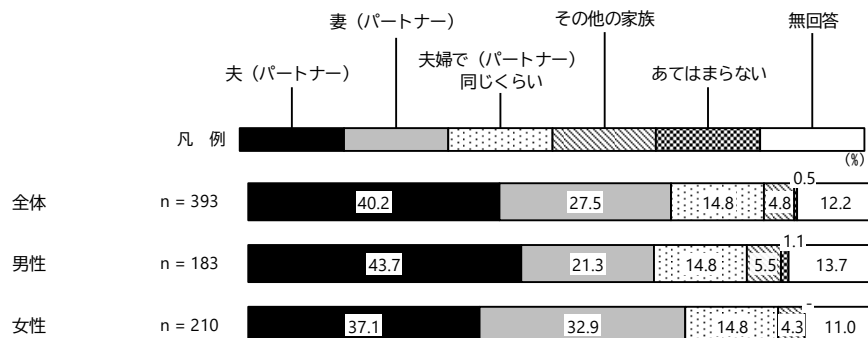


③ 部屋の掃除

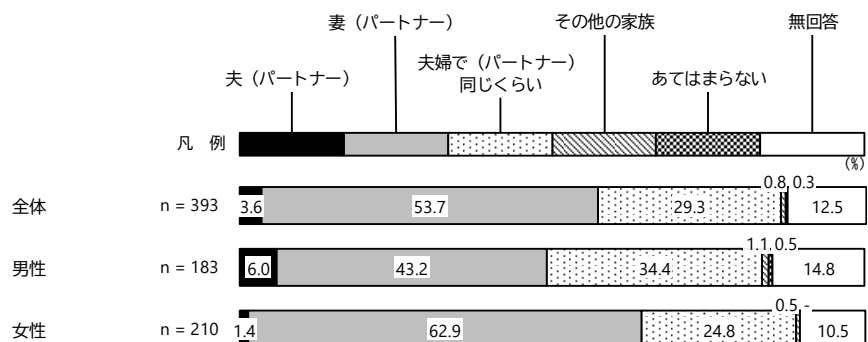


Ⅲ 調査結果の分析

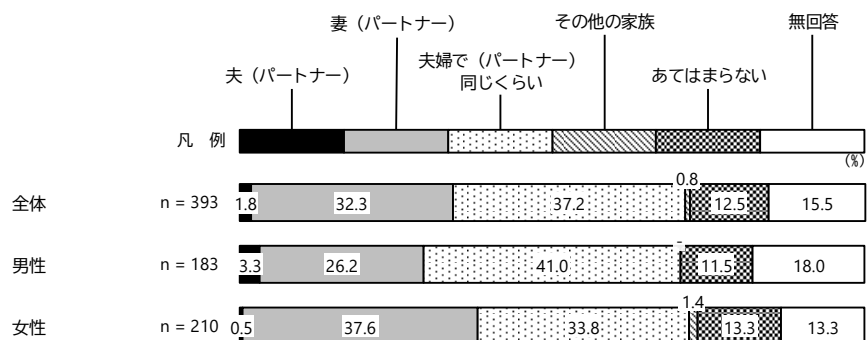
④ ごみ出し



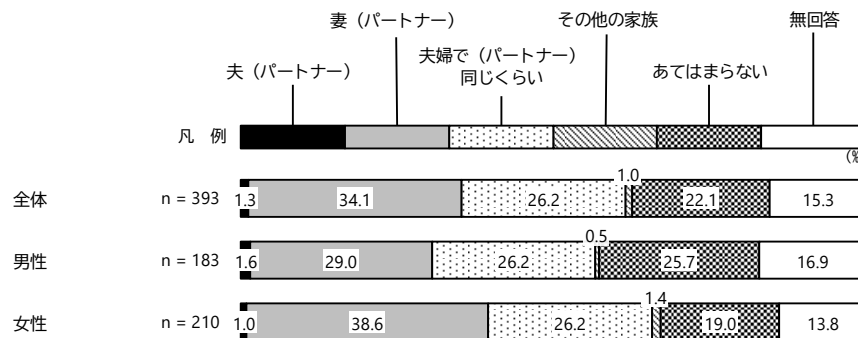
⑤ 買い物



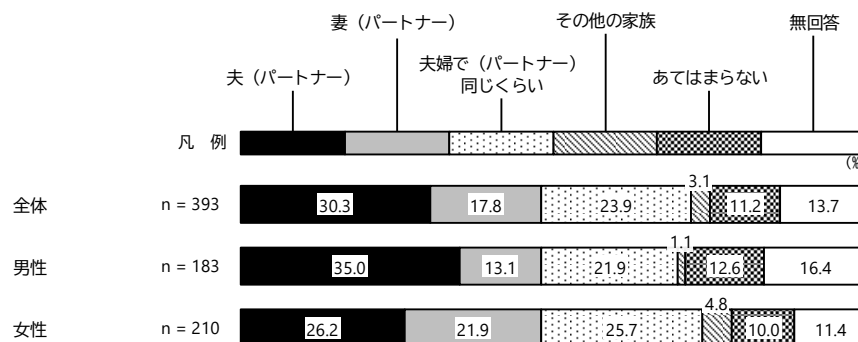
⑥ 子どものしつけ・教育



⑦ 家族の世話・介護



⑧ 地域活動



『あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたが担っていますか。』と尋ねたところ、【④ ごみ出し】、【⑧ 地域活動】以外の項目において、「妻（パートナー）」が「夫（パートナー）」を大きく上回る形となった。特に【① 食事のしたく・後片付け】、【② 洗濯】、【③ 部屋の掃除】、【⑤ 買い物】においては、40 ポイント以上の差がある。【④ ごみ出し】【⑧ 地域活動】においては、「夫（パートナー）」が「妻（パートナー）」を上回っている。

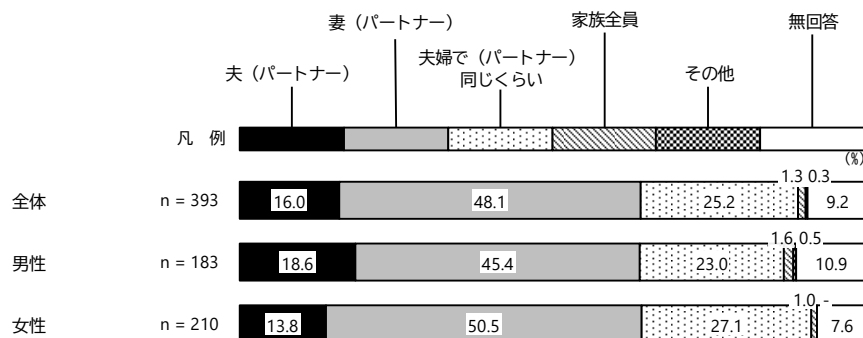
Ⅲ 調査結果の分析

3-2 家庭での主な最終決定者

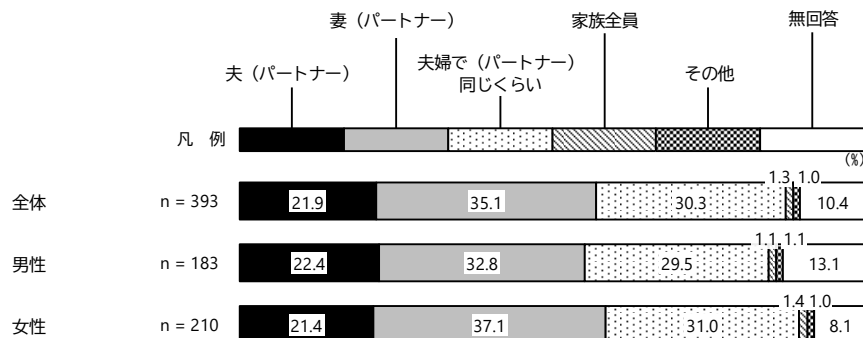
問 24 あなたの家庭では、次にあげることを最終的に決定するのは主にどなたですか。

(①から⑥までについて、それぞれ1つに○)

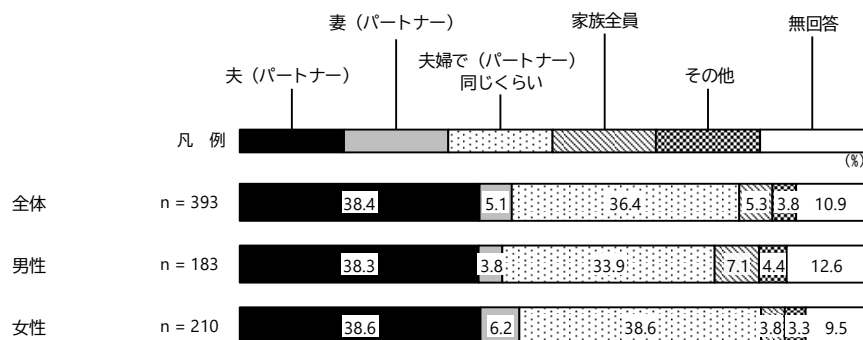
① 家計費管理



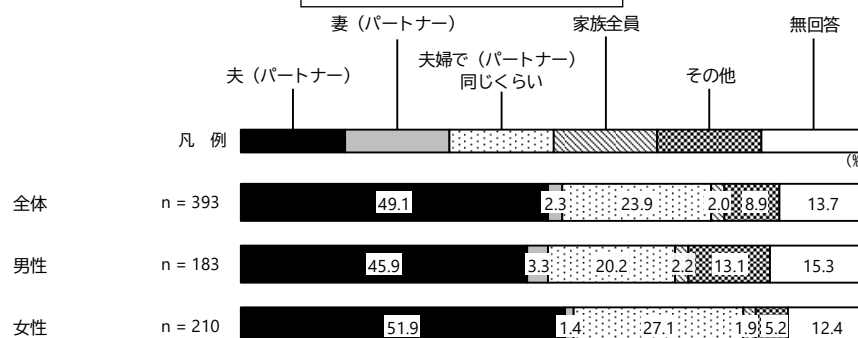
② 貯蓄、投資



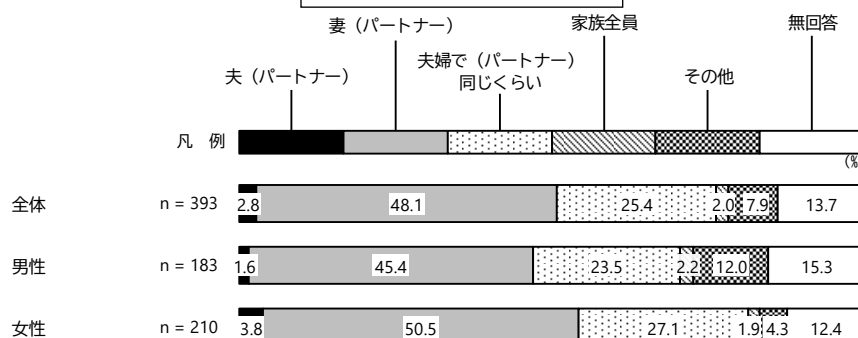
③ 土地・家屋の購入



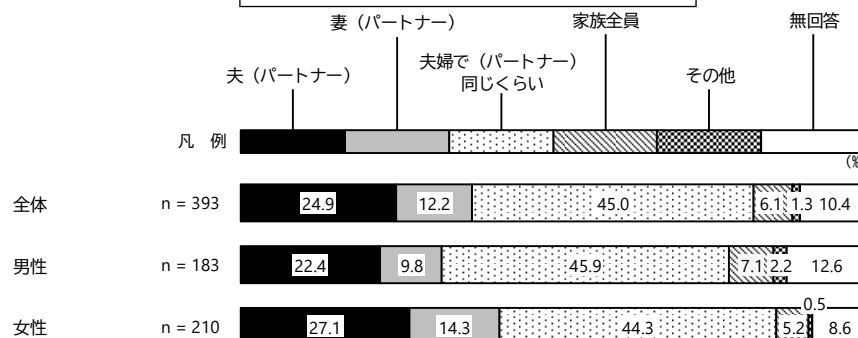
④ 夫の就職・転職



⑤ 妻の就職・転職



⑥ 家庭における全体的な決定権



『あなたの家庭では、次にあげるようなことを最終的に決定するのは主にどなたですか。』と尋ねたところ、

【① 家計費管理】については、男性・女性ともに「妻 (パートナー)」(男性：45.4%、女性：50.5%)が多くなっている。

【② 貯蓄、投資】についても、男性・女性ともに「妻 (パートナー)」(男性：32.8%、女性：37.1%)が多くなっている。

【③ 土地・家屋の購入】については、男性では「夫 (パートナー)」(38.3%)が最も多く、女性では「夫 (パートナー)」(38.6%)が最も多くなっている。

【④ 夫の就職・転職】と【⑤ 妻の就職・転職】については、それぞれ自分自身で決定している割合が高く、性別間での差はあまり見られない。

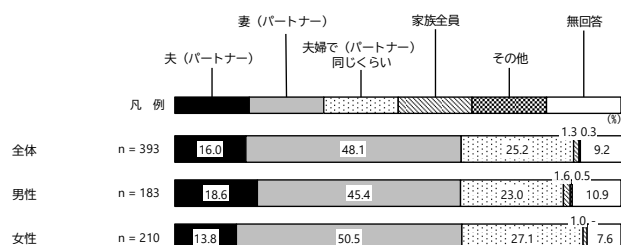
【⑥ 家庭における全体的な実権】については、男性・女性ともに「夫婦で (パートナー) 同じくらい」(男性：45.9%、女性：44.3%)が最も多い。

Ⅲ 調査結果の分析

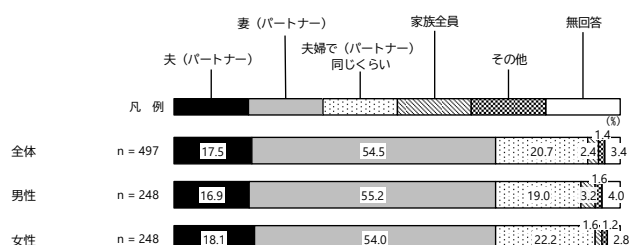
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

① 家計費管理

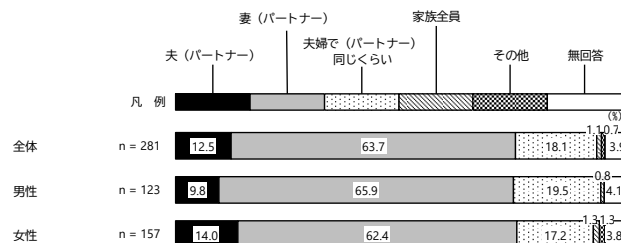
【R6 須賀川市調査】



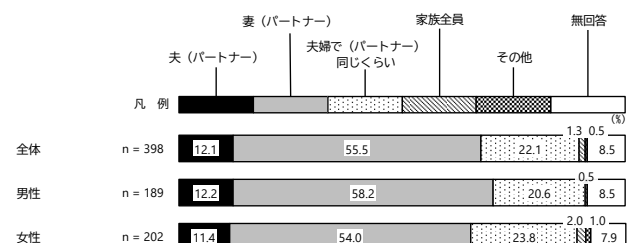
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

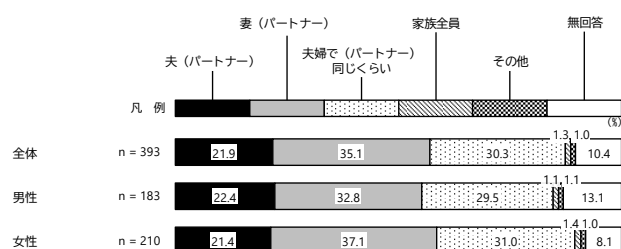


【H20 須賀川市調査】

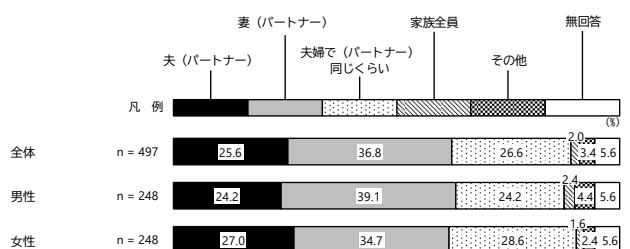


② 貯蓄、投資

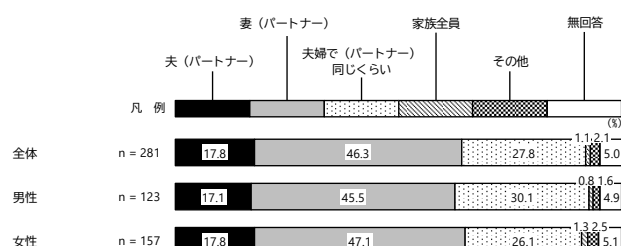
【R6 須賀川市調査】



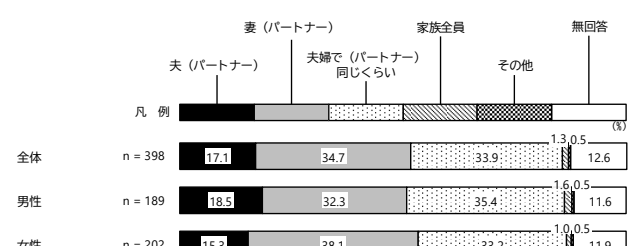
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

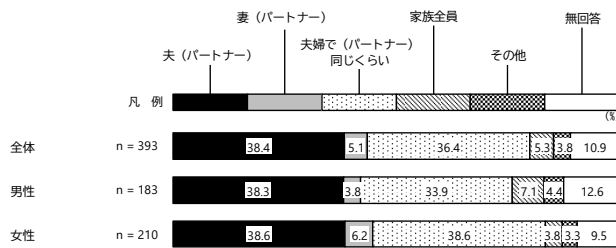


【H20 須賀川市調査】

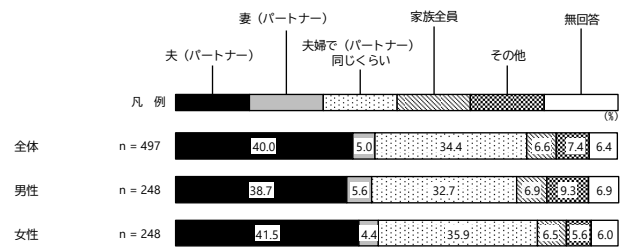


③ 土地・家屋の購入

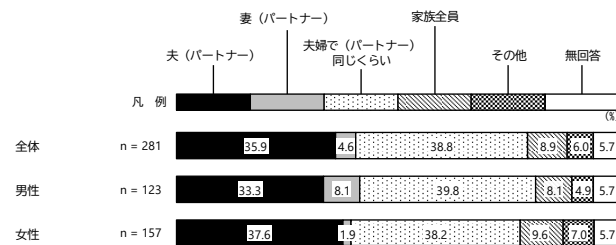
【R6 須賀川市調査】



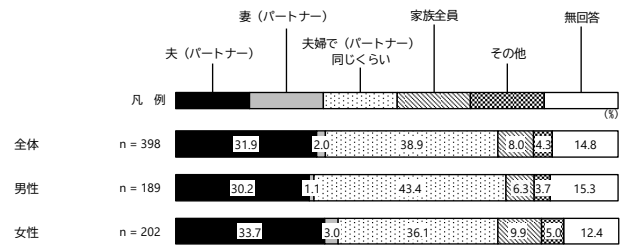
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

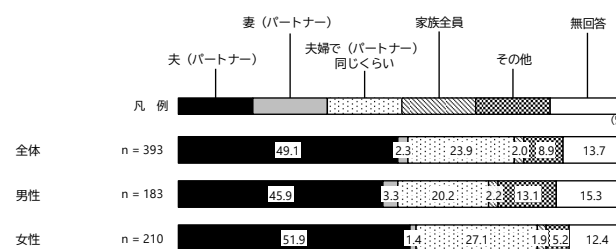


【H20 須賀川市調査】

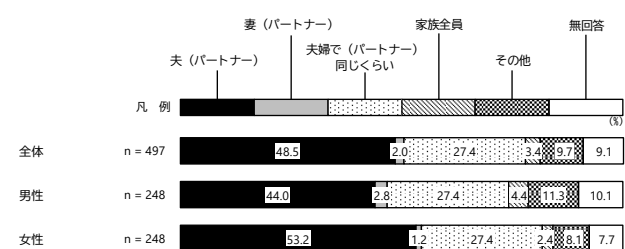


④ 夫の就職・転職

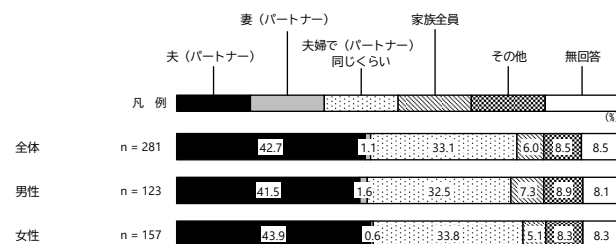
【R6 須賀川市調査】



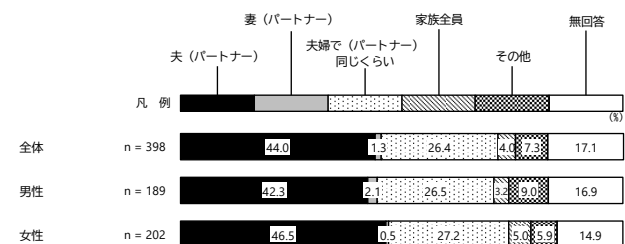
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



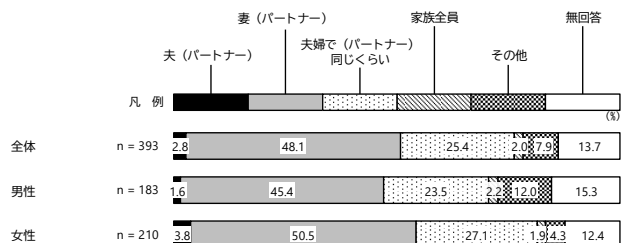
【H20 須賀川市調査】



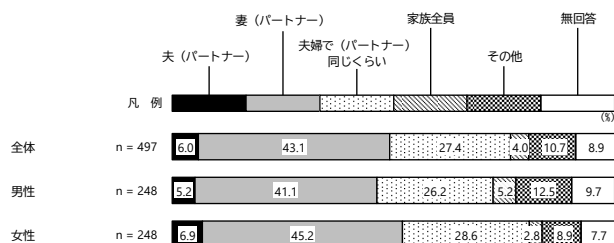
Ⅲ 調査結果の分析

⑤ 妻の就職・転職

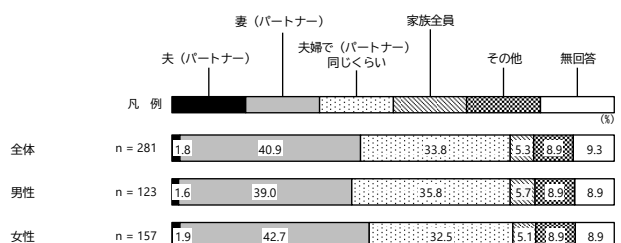
【R6 須賀川市調査】



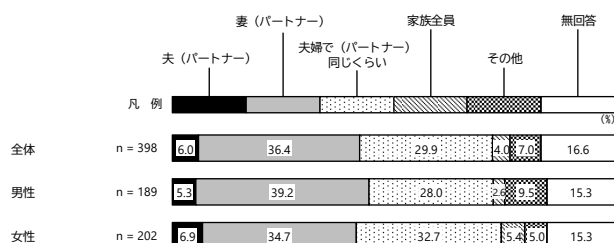
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

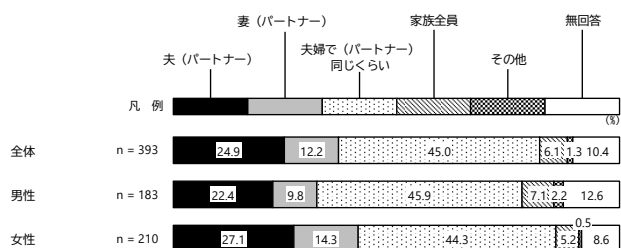


【H20 須賀川市調査】

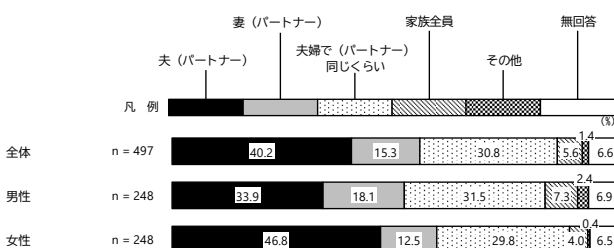


⑥ 家庭における全体的な決定権

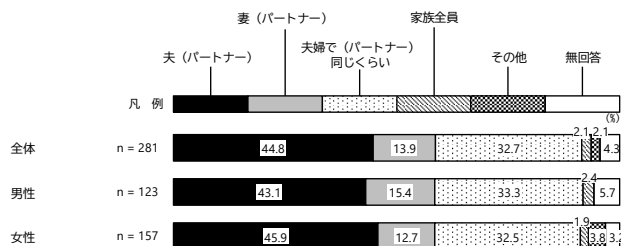
【R6 須賀川市調査】



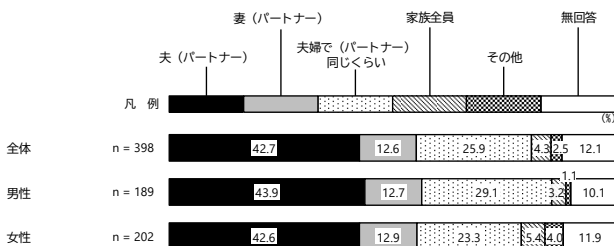
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】



以前の調査と男女別に比較すると、

【① 家計費管理】については、男性・女性ともに「妻（パートナー）」（男性：55.2%、女性：54.0%）が多くなっている。男性・女性とも「妻（パートナー）」が減少傾向にある。R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、「夫婦で（パートナー）同じくらい」が女性で 4.9 ポイント増加している。

【② 貯蓄、投資】について、R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、「妻（パートナー）」が男性で 6.3 ポイント減少し、女性で 2.4 ポイント増加している。

【③ 土地・家屋の購入】については、H25 須賀川市調査から、女性では「妻（パートナー）」が増加傾向にある。男性・女性ともに「夫（パートナー）」は減少し、「夫婦で（パートナー）同じくらい」が増加している。

【④ 夫の就職・転職】と【⑤ 妻の就職・転職】については、これまでの調査と同様に自分自身で決定しているという回答が多い。

【⑥ 家庭における全体的な決定権】について、R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、男性・女性とも「夫婦（パートナー）」が 10 ポイント以上増加した。

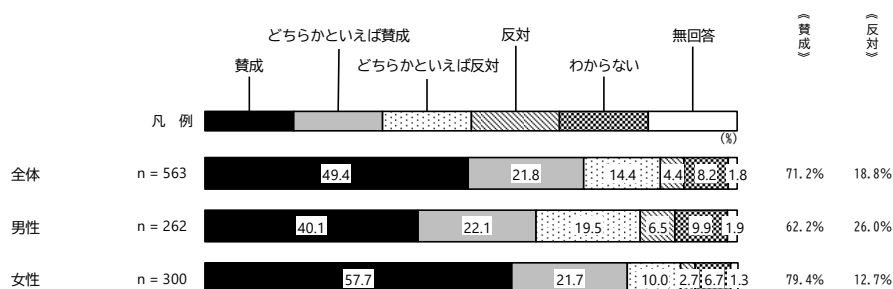
Ⅲ 調査結果の分析

3-3 結婚観について

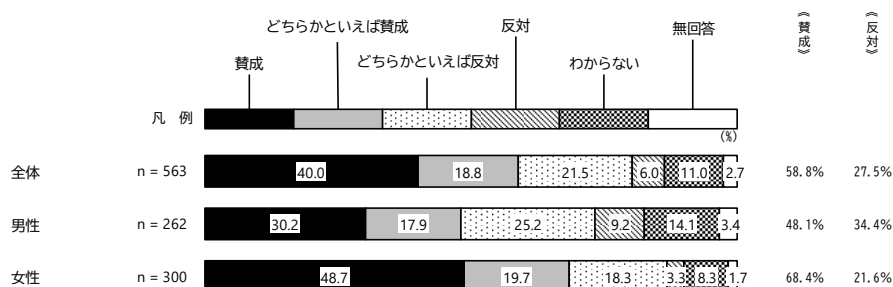
問 25 次にあげる結婚に対する考えについて、あなたはどのように思いますか。

(①から③までについて、それぞれ1つに○)

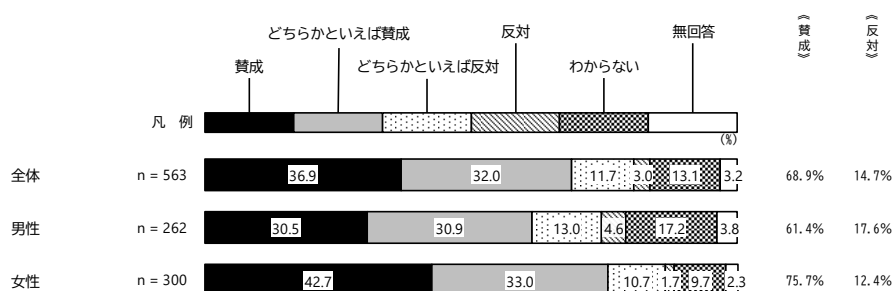
① 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい



② 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



③ 結婚してもお互いに満足できないときは、離婚すればよい



『次にあげる結婚に対する考えについて、あなたはごどう思いますか。』と3つの項目について尋ねた。

【① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】について、男性・女性ともに「賛成」（男性：40.1%、女性：57.7%）が最も多くなっているが、女性が17.6ポイント上回る形となっている。

【② 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】については、男性・女性ともに「賛成」（男性：30.2%、女性：48.7%）が最も多くなっているが、女性が男性を18.5ポイント上回っている。

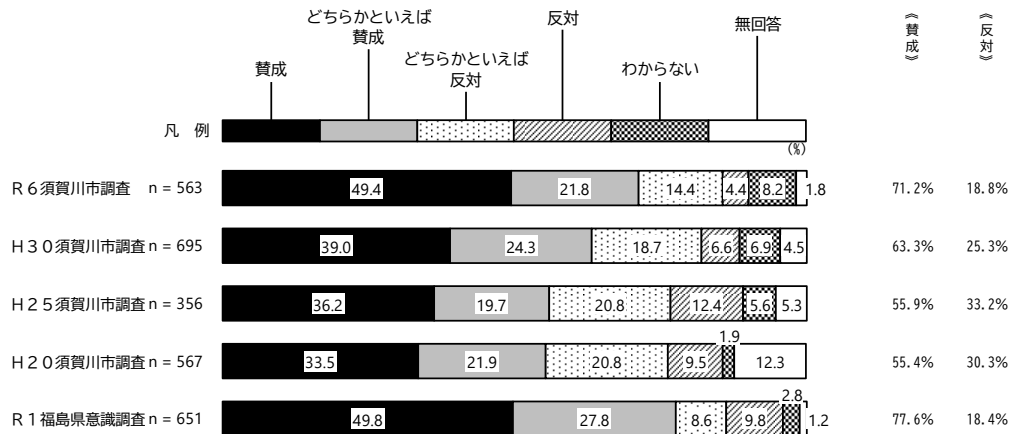
【③ 結婚してもお互いに満足できないときは離婚すればよい】について、男性では「どちらかといえば賛成」が30.9%と最も多く、女性では「賛成」が42.7%と最も多くなっている。「反対」と「どちらかといえば反対」を足し合わせた《反対》が男性・女性ともに2割を下回っている。

Ⅲ 調査結果の分析

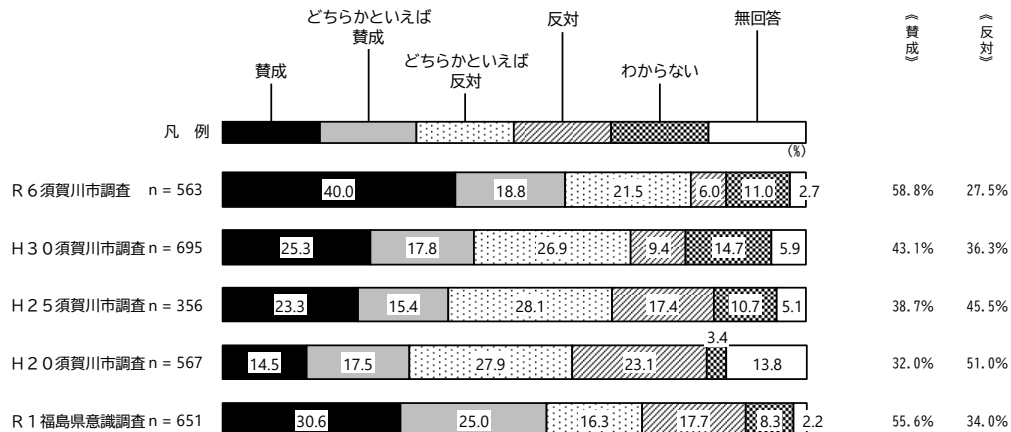
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※H20 須賀川市調査は「その他」の選択肢があるが、他調査では設定していないため、この項目を「わからない」に含む

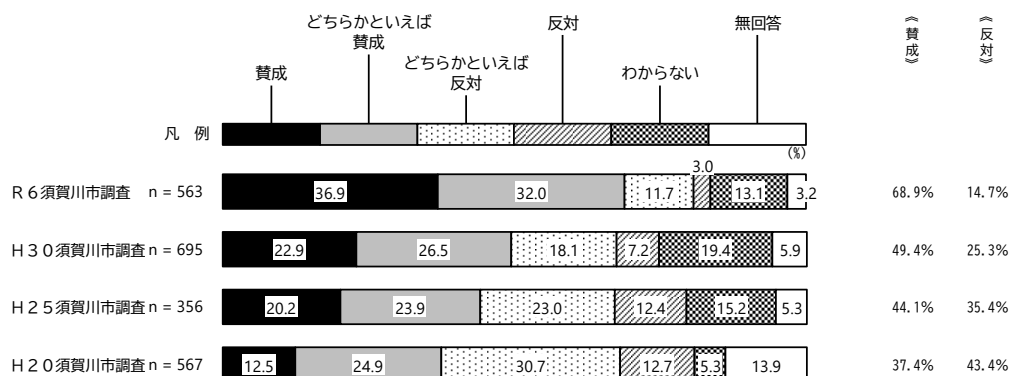
① 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい



② 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



③ 結婚してもお互いに満足できないときは、離婚すればよい



※ 【③ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい】は R1 福島県意識調査の設問がなく、参考掲載なし

他の調査と比較すると、

【① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】について、《賛成》は年々増加傾向にあるものの、R1 福島県意識調査と比較すると、《賛成》は 6.4 ポイント下回っている。

【② 結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない】については、H25 須賀川市調査以前は《反対》が《賛成》を上回っていたが、H30 須賀川市調査以降においては逆転し、R6 須賀川市調査の《賛成》は H30 須賀川市調査を 19.5 ポイント上回っている。

【③ 結婚してもお互いに満足できないときは離婚すればよい】については、H25 須賀川市調査から《賛成》と《反対》の割合が逆転し、以降《賛成》の割合が増加傾向にある。

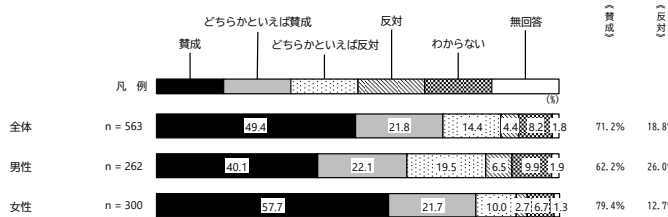
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

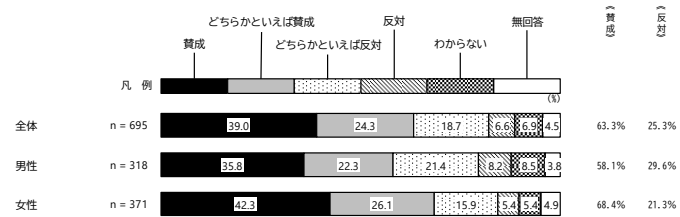
※H20 須賀川市調査は「わからない」ではなく「その他」の選択肢を設定している。

① 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい

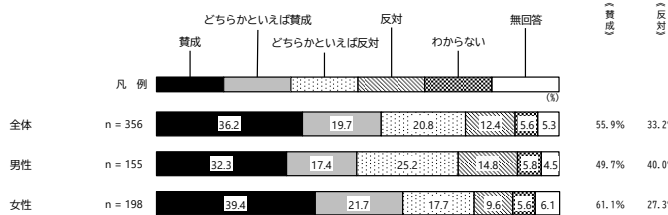
【R6 須賀川市調査】



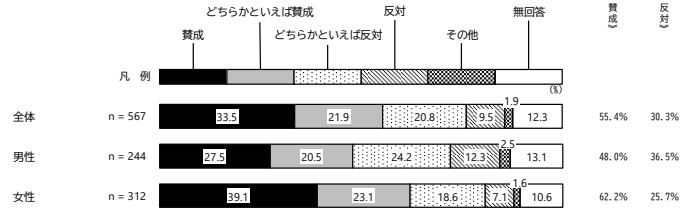
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

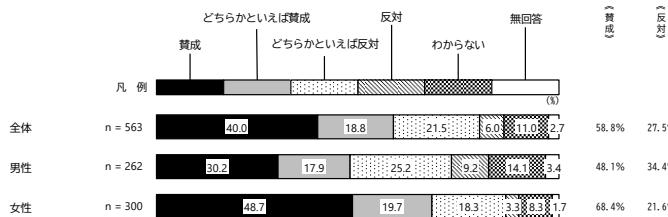


【H20 須賀川市調査】

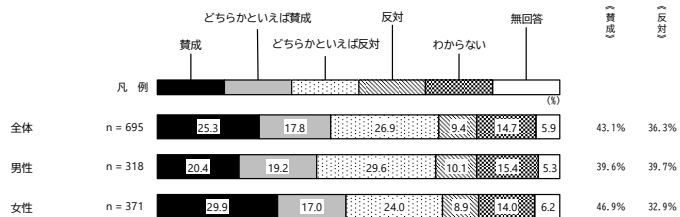


② 結婚して必ずしも子どもをもつ必要はない

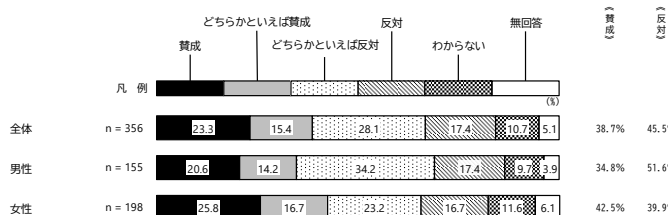
【R6 須賀川市調査】



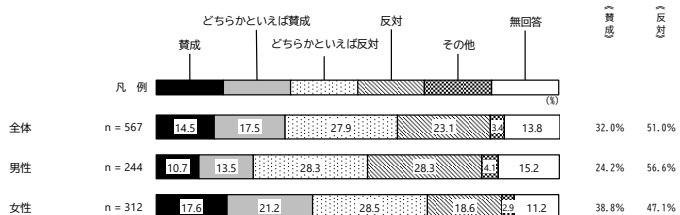
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

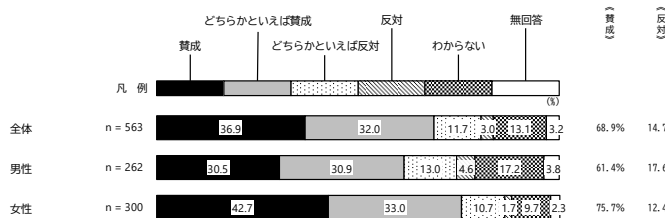


【H20 須賀川市調査】

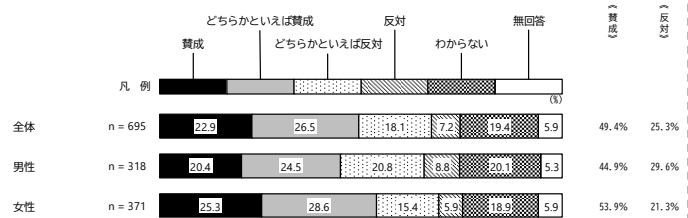


③ 結婚してもお互いに満足できないときは、離婚すればよい

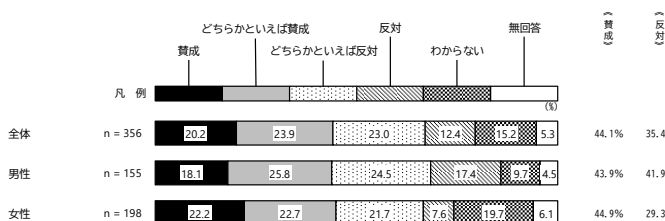
【R6 須賀川市調査】



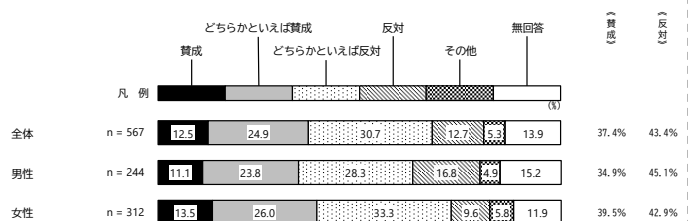
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】



以前の調査と男女別に比較すると、

【① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】については、R6 須賀川市調査では、男性・女性とも《賛成》（男性：62.2%、女性：79.4%）の割合が半数以上となっている。H30 須賀川市調査と比べて、《賛成》は男性で 4.1 ポイント、女性で 11.0 ポイント増加となっている。

【② 結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない】について、R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、《賛成》が男性で 8.5 ポイント、女性で 21.5 ポイント増加している。

【③ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい】について、R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、《賛成》は男性で 16.5 ポイント、女性で 21.8 ポイント増加している。

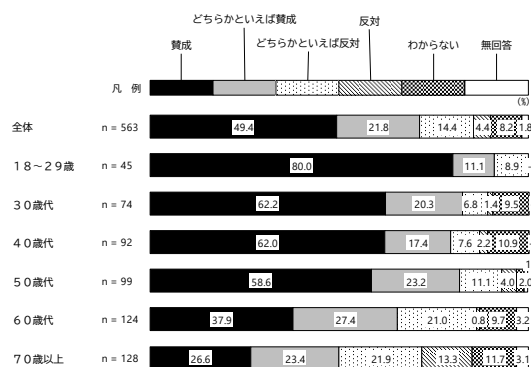
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 年齢別

※H20 須賀川市調査は「わからない」ではなく「その他」の選択肢を設定している。

① 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい

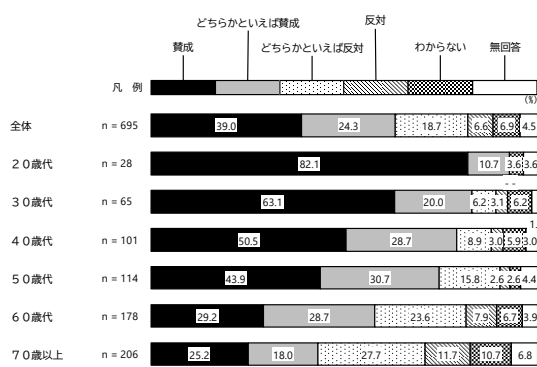
【R6 須賀川市調査】



(賛成) (反対)

71.2% 18.8%
91.1% 8.9%
82.5% 8.2%
79.4% 9.8%
81.8% 15.1%
65.3% 21.8%
50.0% 35.2%

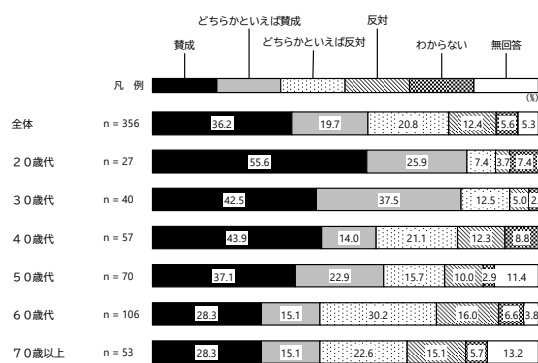
【H30 須賀川市調査】



(賛成) (反対)

63.3% 25.3%
92.8% 0.0%
83.1% 9.3%
79.2% 11.9%
74.6% 18.4%
57.9% 31.5%
43.2% 39.4%

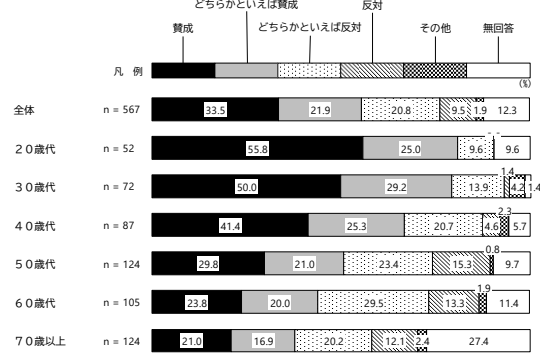
【H25 須賀川市調査】



(賛成) (反対)

55.9% 33.2%
81.5% 11.1%
80.0% 17.5%
57.9% 33.4%
60.0% 25.7%
43.4% 46.2%
43.4% 37.7%

【H20 須賀川市調査】

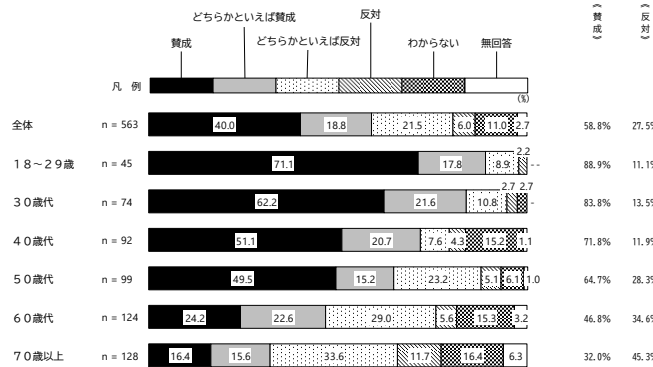


(賛成) (反対)

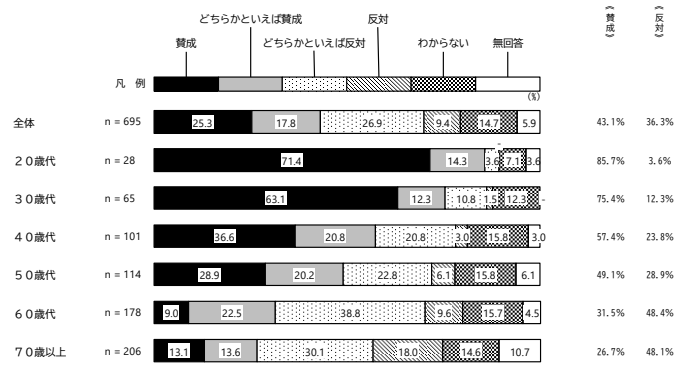
55.4% 30.3%
80.8% 9.6%
79.2% 15.3%
66.7% 25.3%
50.8% 38.7%
43.8% 42.8%
37.9% 32.3%

② 結婚して必ずしも子どもをもつ必要はない

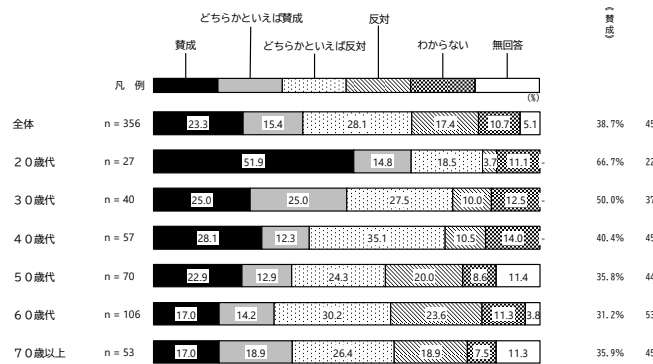
【R6 須賀川市調査】



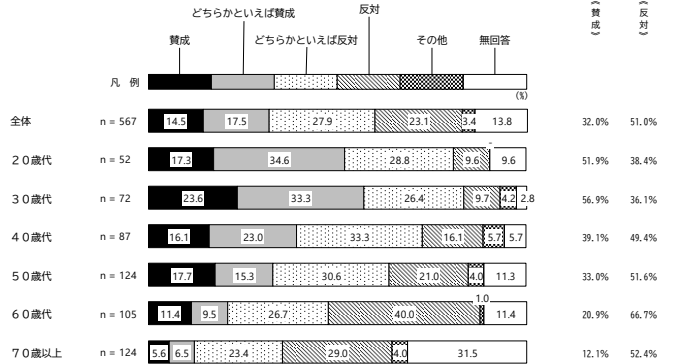
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



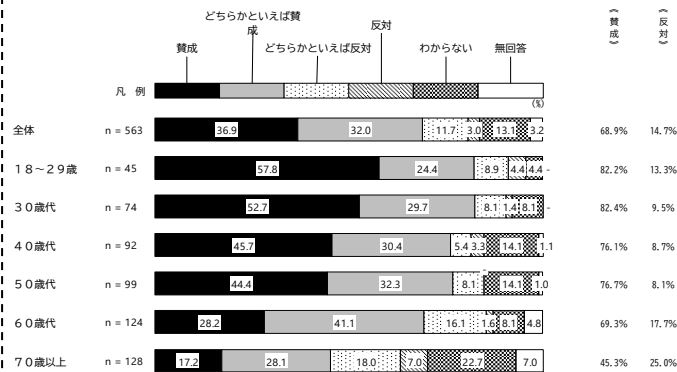
【H20 須賀川市調査】



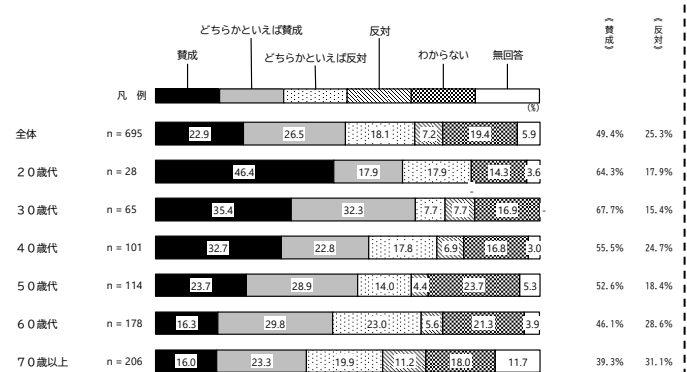
Ⅲ 調査結果の分析

③ 結婚してもお互いに満足できないときは、離婚すればよい

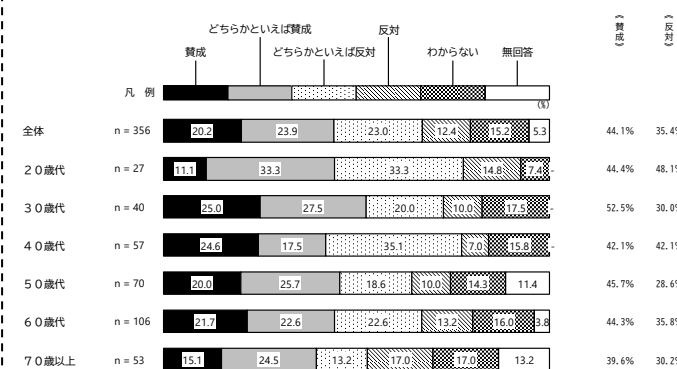
【R6 須賀川市調査】



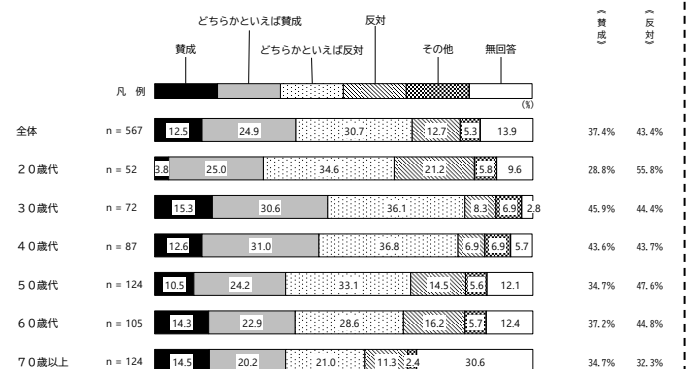
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】



以前の調査と年齢別に比較すると、

【① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】については、R6 須賀川市調査では、すべての年代で《賛成》が《反対》を上回っており、かつ半数を超えている。年代が下がるにつれて《賛成》の割合が高くなる傾向にある。

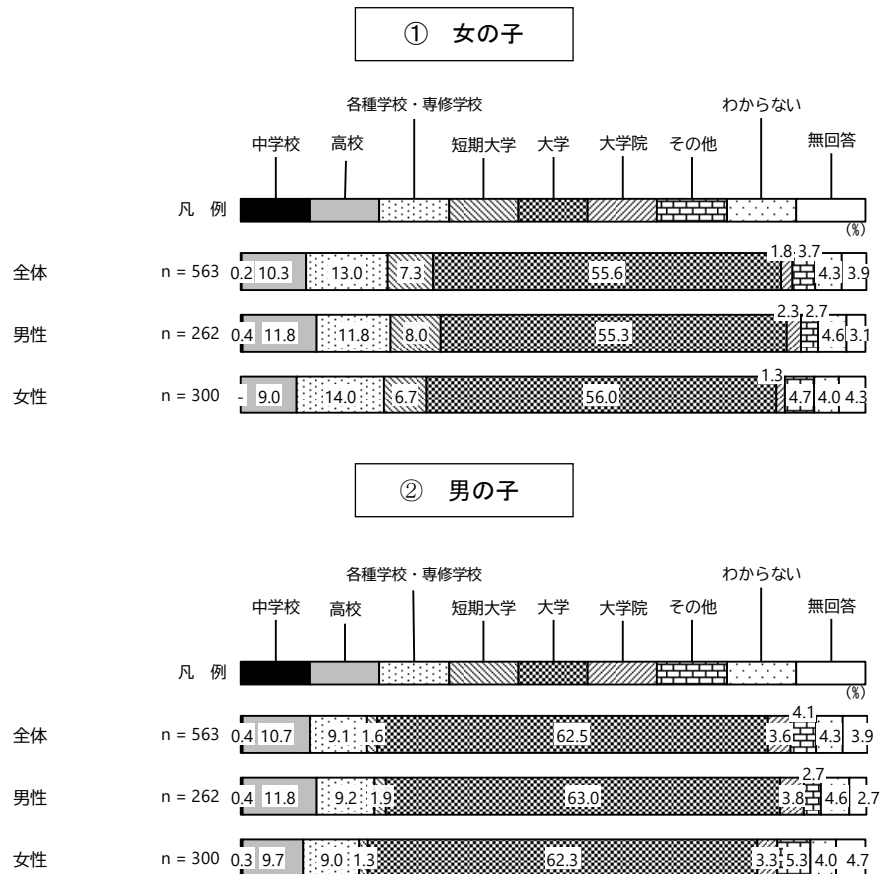
【② 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】について、R6 須賀川市調査では、18~29 歳から 50 歳代で《賛成》が半数以上を占めているが、70 歳代以上では《反対》が《賛成》を上回っている。しかし、すべての年代で《賛成》が年々増加傾向にある。

【③ 結婚してもお互いに満足できないときは離婚すればよい】について、どの年代でも《賛成》が《反対》を上回っている。H30 須賀川市調査と比べると、すべての年代で《賛成》と《反対》の差が大きくなっている。

3-4 子どもに受けさせたい教育程度

問 26 あなたは、子どもにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがいない場合も（既に卒業した場合も）いると仮定して、現在の親としての考えや希望をお答えください。

（①から②までについて、それぞれ1つに○）



『あなたは、子供にどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。』と尋ねたところ、【① 女の子】・【② 男の子】どちらの場合も、「大学」が最も多いという点では変わりがないが、【② 男の子】の場合では【① 女の子】の場合を6.9ポイント上回っている。また、「短期大学」は、【② 男の子】の場合に比べて【① 女の子】の場合が5.7ポイント上回っている。

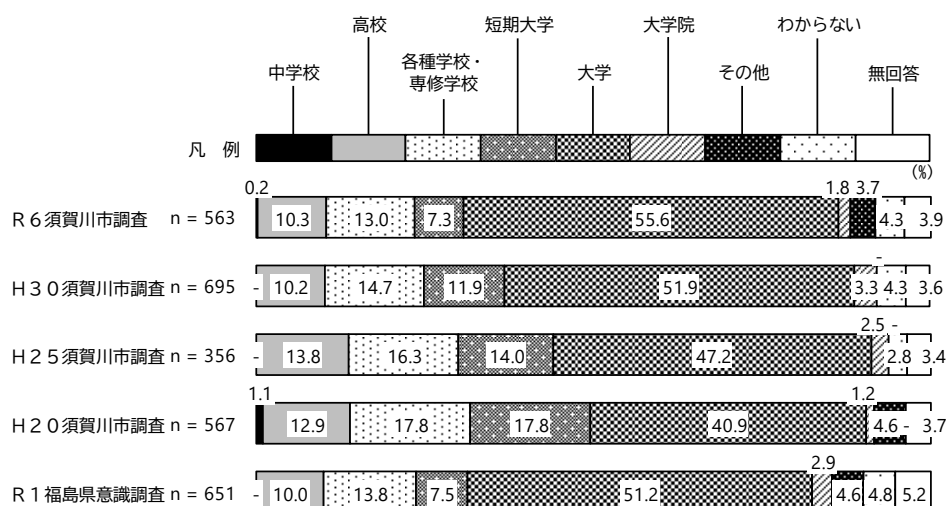
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

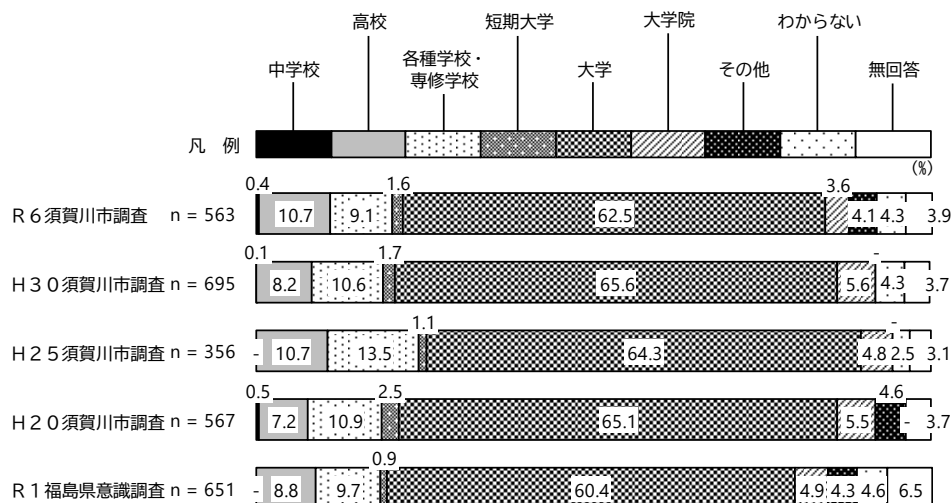
※H30・25 須賀川市調査では「その他」の項目がないため「－」と表している

※H20 須賀川市調査では、「その他」と「わからない」が合算されているため、「その他」にまとめている

① 女の子



② 男の子



他の調査と比較すると、

【① 女の子】については、すべての調査で「大学」との回答が最も多く、その割合も増加傾向にある。

【② 男の子】についても、すべての調査で「大学」との回答が最も多くなっている。

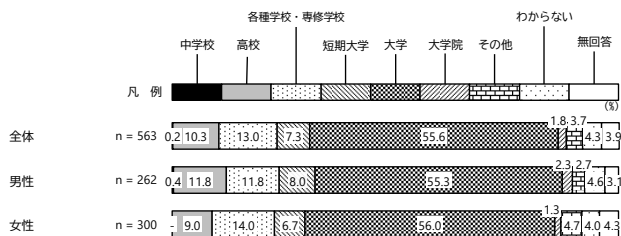
《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査 男女別

※H30・25 須賀川市調査では「その他」の項目がないため「－」と表している

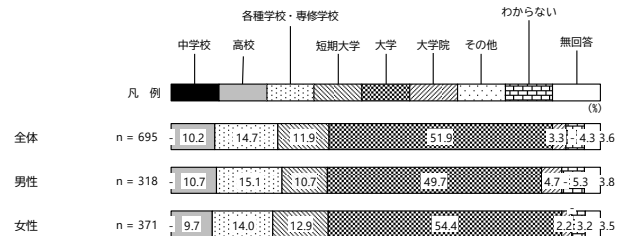
※H20 須賀川市調査では、「わからない」の項目がないため「－」と表している

① 女の子

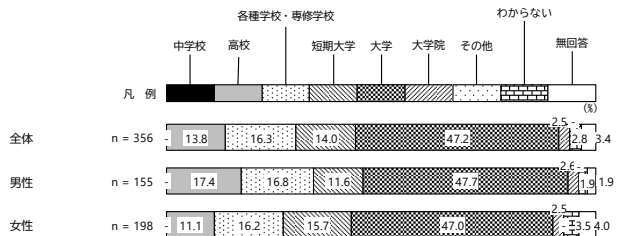
【R6 須賀川市調査】



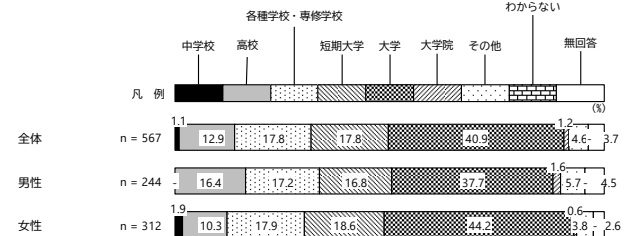
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

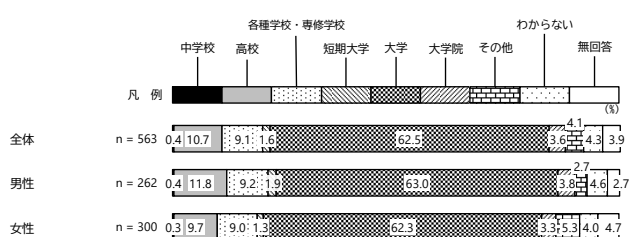


【H20 須賀川市調査】



② 男の子

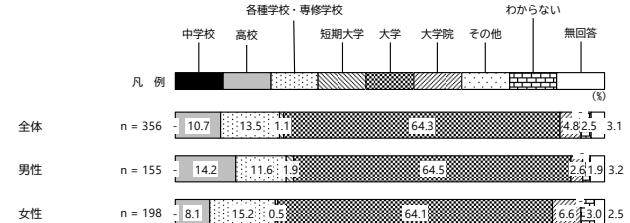
【R6 須賀川市調査】



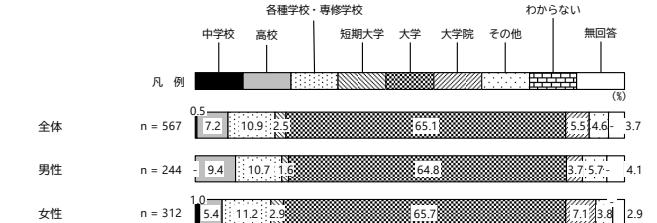
【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】



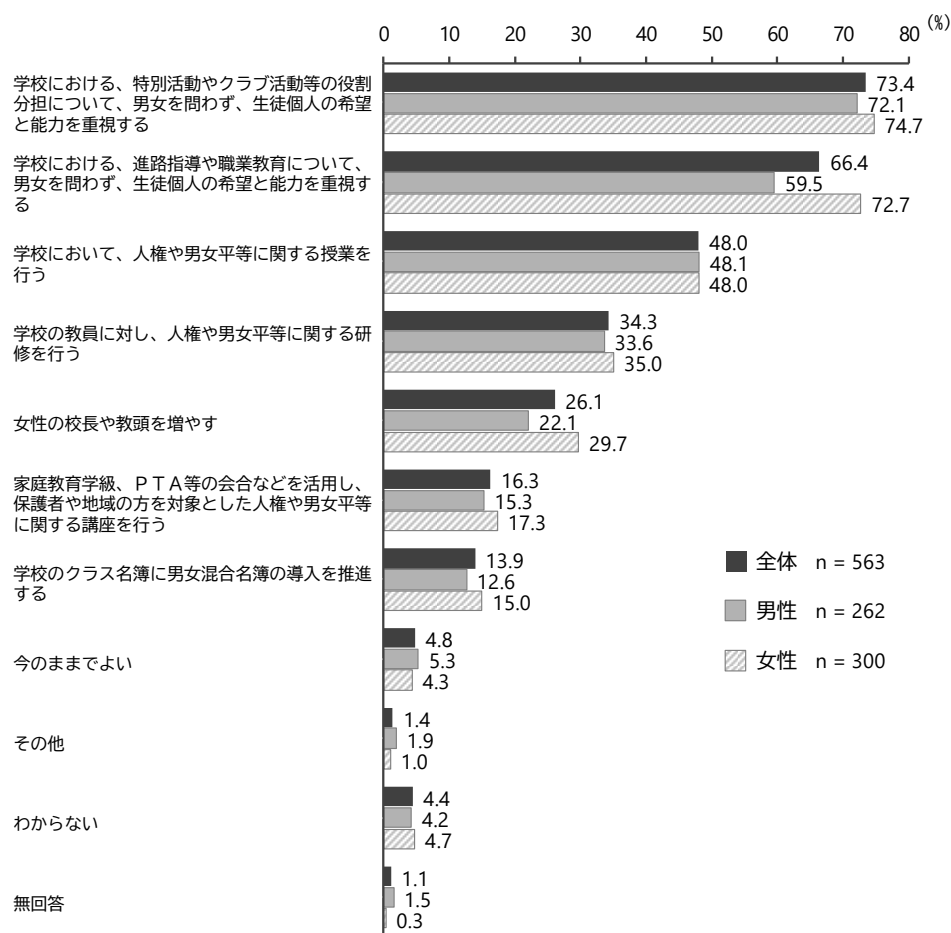
以前の調査と男女別に比較すると、

【① 女の子】の教育の程度について、R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、「大学」が男性で 5.6 ポイント、女性で 1.6 ポイント増加している。【② 男の子】について、「大学」が男性・女性とも 6 割を超えている。

Ⅲ 調査結果の分析

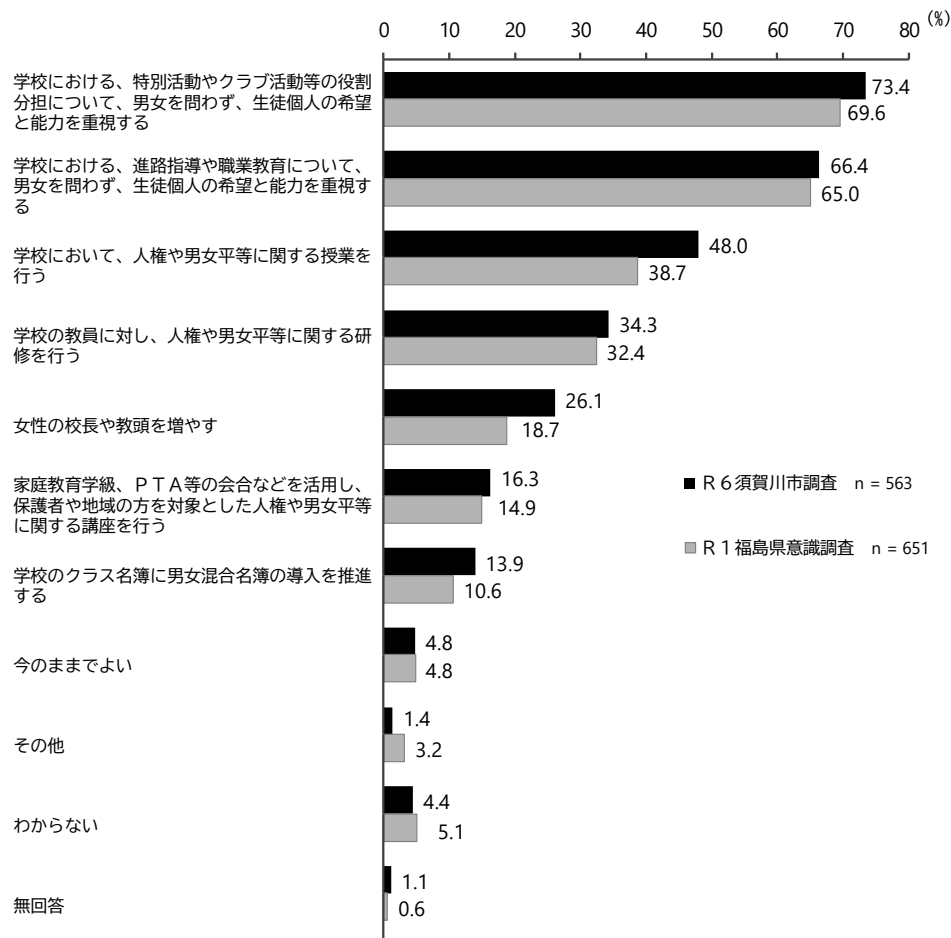
3-5 家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育のため必要なこと

問 27 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



『次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(男性：72.1%、女性：74.7%)が最も多く、次いで「学校における、進路相談や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(男性：59.5%、女性：72.7%)となっている。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査



R1 福島県意識調査と比較すると、「その他」「わからない」以外の回答が R6 須賀川市調査では上回っている。特に「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」と「学校における、進路相談や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」は2調査とも半数を超えている。

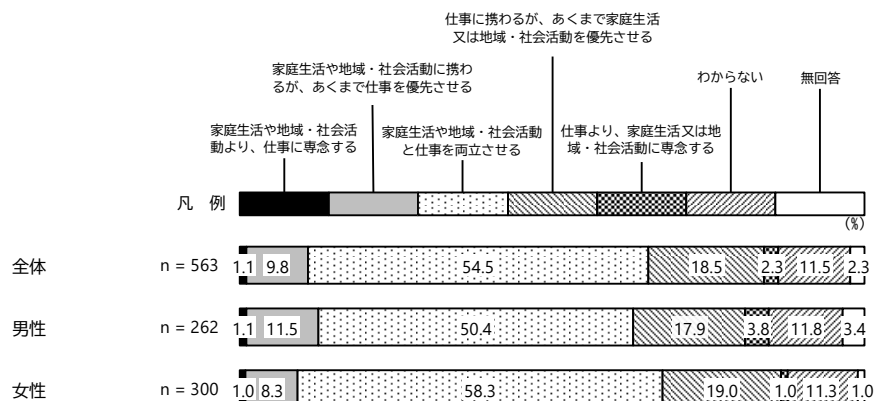
Ⅲ 調査結果の分析

3-6 女性・男性の生き方について

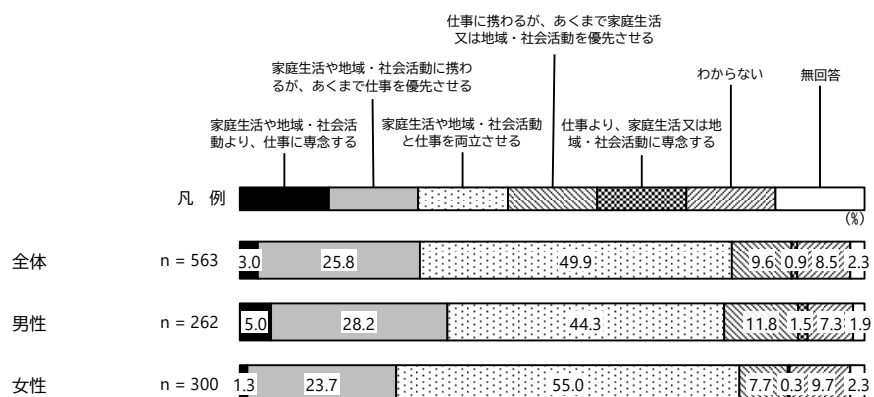
問 28 次にあげる女性や男性の生き方として、あなたが望ましいと思うものはどれですか。

(①から②までについて、それぞれ1つに○)

① 女性の生き方について



② 男性の生き方について



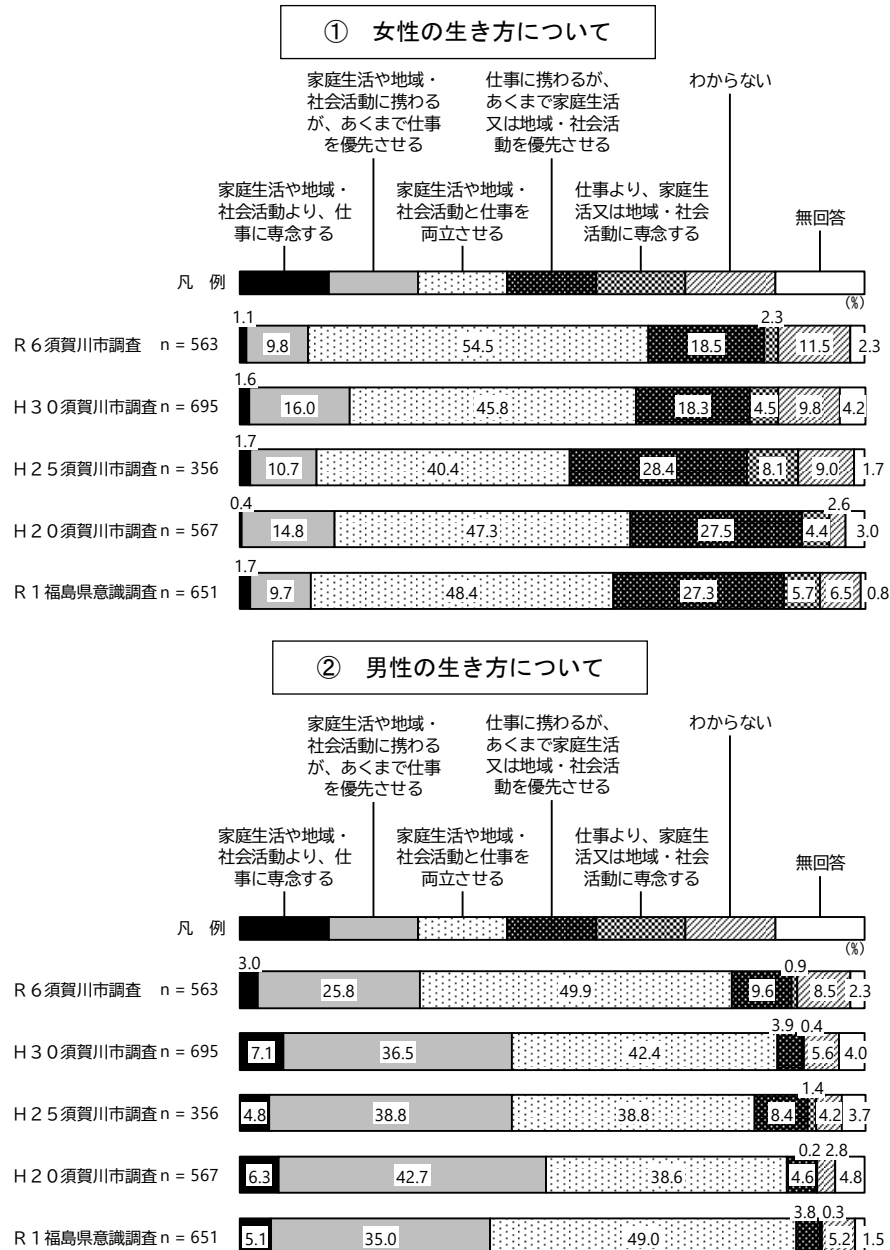
『次にあげる女性や男性の生き方として、あなたが望ましいと思うものはどれですか。』と尋ねたところ、

【① 女性の生き方について】は、男性・女性ともに「家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる」(男性：50.4%、女性：58.3%)が最も多く、次いで「仕事に携わるが、家庭生活又は地域・社会活動を優先させる」(男性：17.9%、女性：19.0%)となっている。

【② 男性の生き方について】も、男性・女性ともに「家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる」(男性：44.3%、女性：55.0%)が最も多くなっている。次いで、【① 女性の生き方について】とは異なり、「家庭生活や地域・社会活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる」(男性：28.2%、女性：23.7%)が多くなっている。

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※H20 須賀川市調査では「その他」の選択肢があるが、他調査では設定していないため、この項目を「わからない」に含む



他の調査と比較すると、

【① 女性の生き方について】は、いずれの調査も「家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる」が最も多い。「仕事に携わるが、あくまで家庭生活又は地域・社会活動を優先させる」と「仕事より、家庭生活又は地域・社会活動に専念する」を足し合わせた《家庭生活又は地域・社会活動を優先》はH25 須賀川市調査から年々減少傾向にある。

【② 男性の生き方について】は、「家庭生活や地域・社会活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる」がH20 須賀川市調査から減少傾向にある一方、「家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる」が増加傾向にある。

以前の調査と男女別に比較すると、

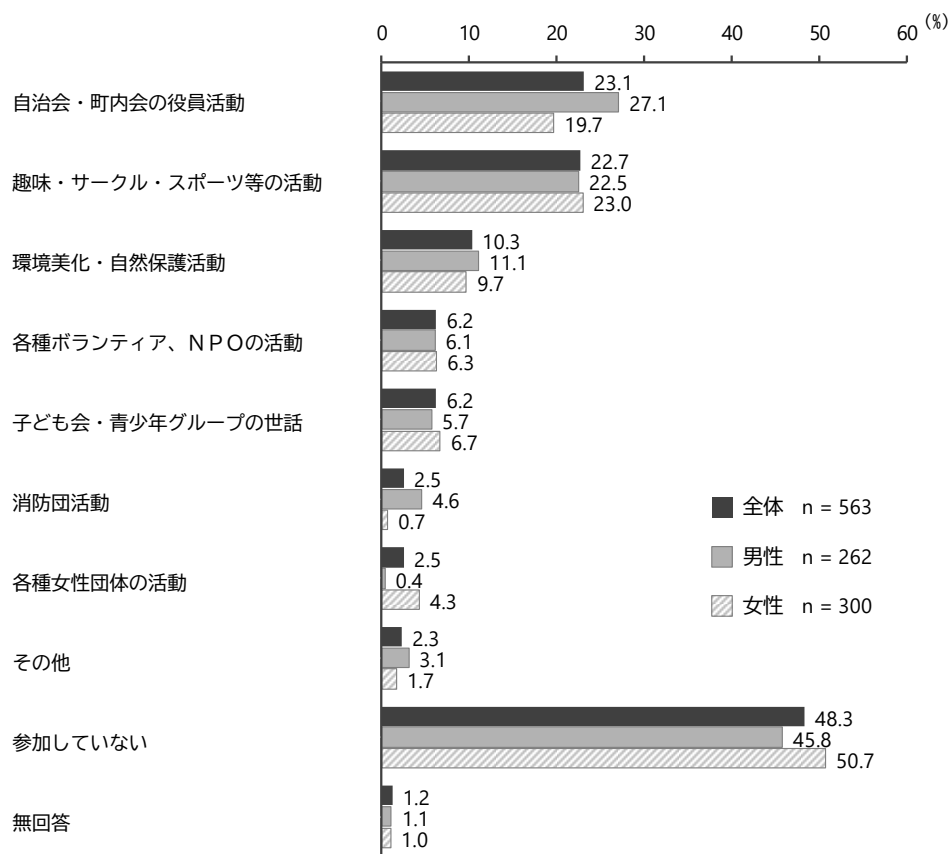
【① 女性の生き方について】は、R6 須賀川市調査では H30 須賀川市調査と比べて、「家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる」が、男性で 8.6 ポイント、女性で 9.0 ポイント増加している。また「仕事より、家庭生活又は地域・社会活動に専念する」は男性で 6.3 ポイント減少したが女性では 1.7 ポイント増加した。

【② 男性の生き方について】は、H25 須賀川市調査の女性では「家庭生活や地域・社会活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる」が最も多かったが減少傾向にあり、H30 須賀川市調査からは「家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる」が上回り、増加傾向にある。

Ⅲ 調査結果の分析

3-7 参加している地域・社会活動

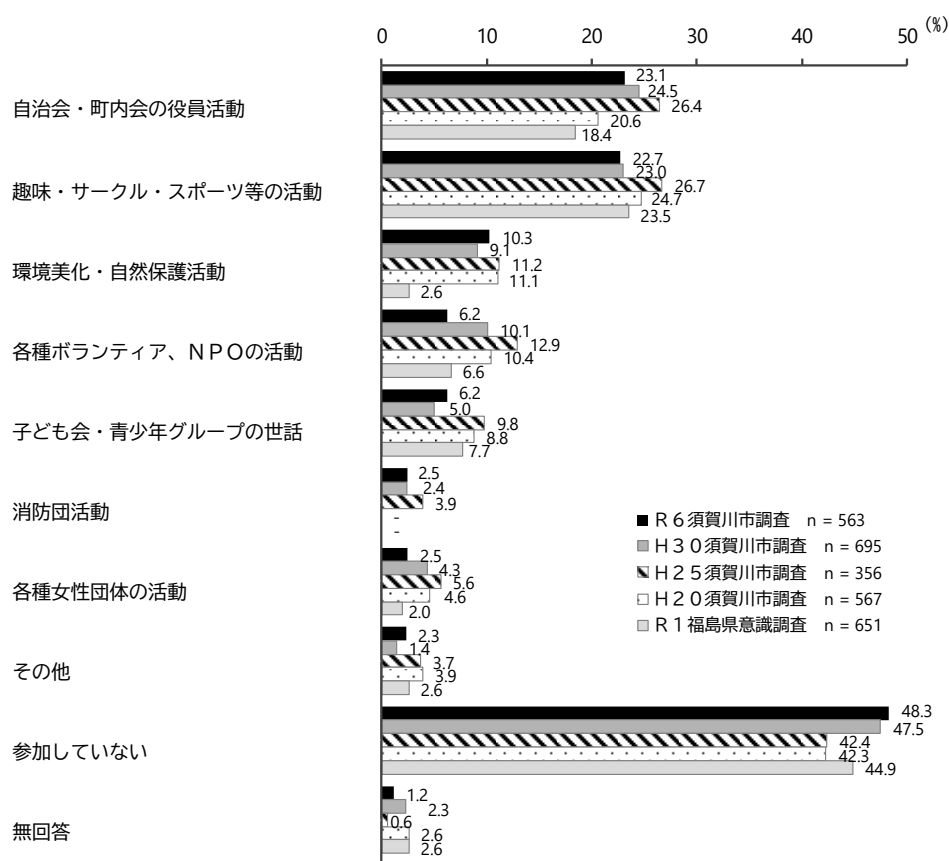
問 29 次にあげる地域・社会活動について、あなたが参加しているものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)



『次にあげる地域・社会活動について、あなたが参加しているものはありますか。』と尋ねたところ、「自治会・町内会の役員活動」(男性：27.1%、女性：19.7%)が全体としては最も多く、男性では女性を7.4ポイント上回っている。「参加していない」は、男性で45.8%、女性で50.7%となっている。

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※H20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査では「消防団活動」の項目がないため「－」と表している

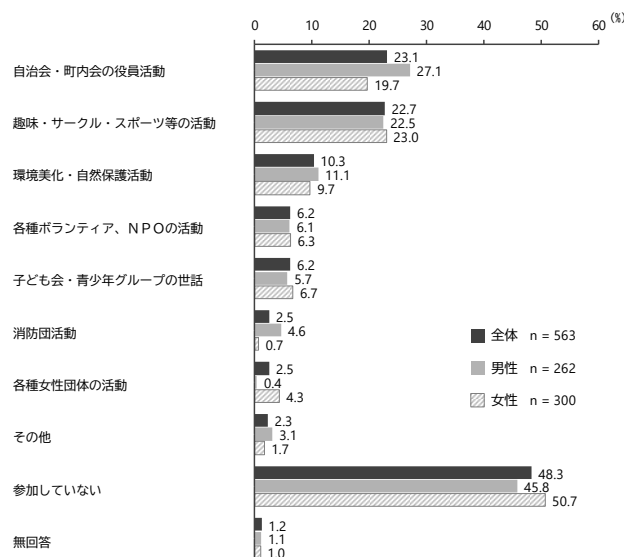


他の調査と比較すると、R6・H30 須賀川市調査では、「自治会・町内会の役員活動」が最も多くなっているが、H25・20 須賀川市調査では「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が最も多く、近年の順位変動はあるもののこの2項目が上位を占めている。一方で、いずれの調査でも「参加していない」が最も多く、増加傾向にある。

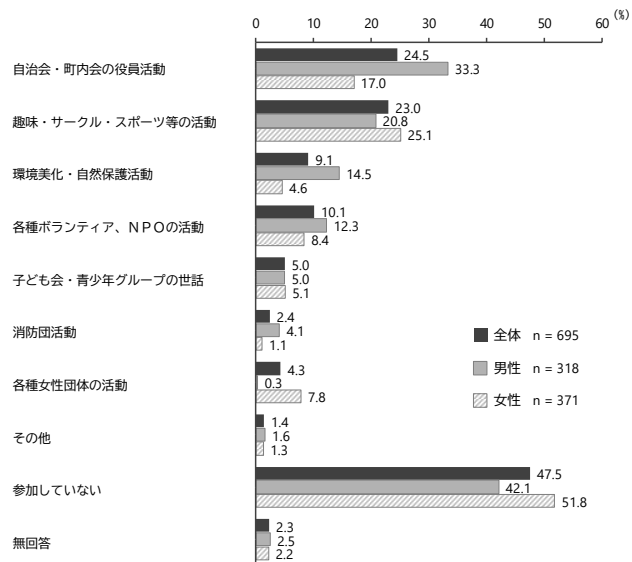
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25 須賀川市調査 男女別

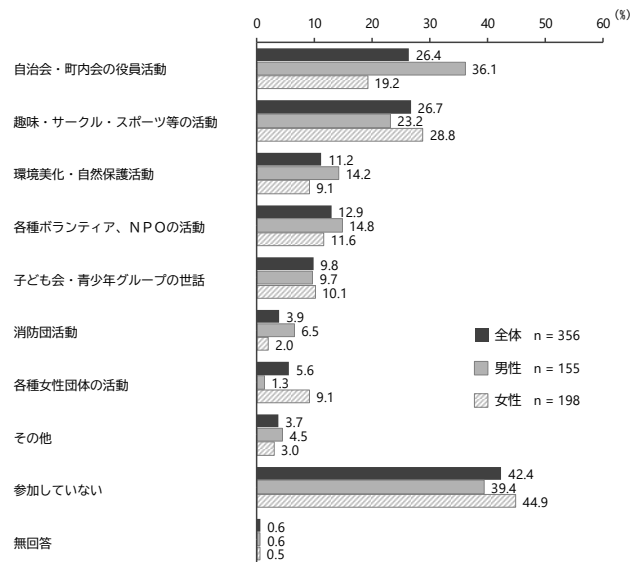
【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

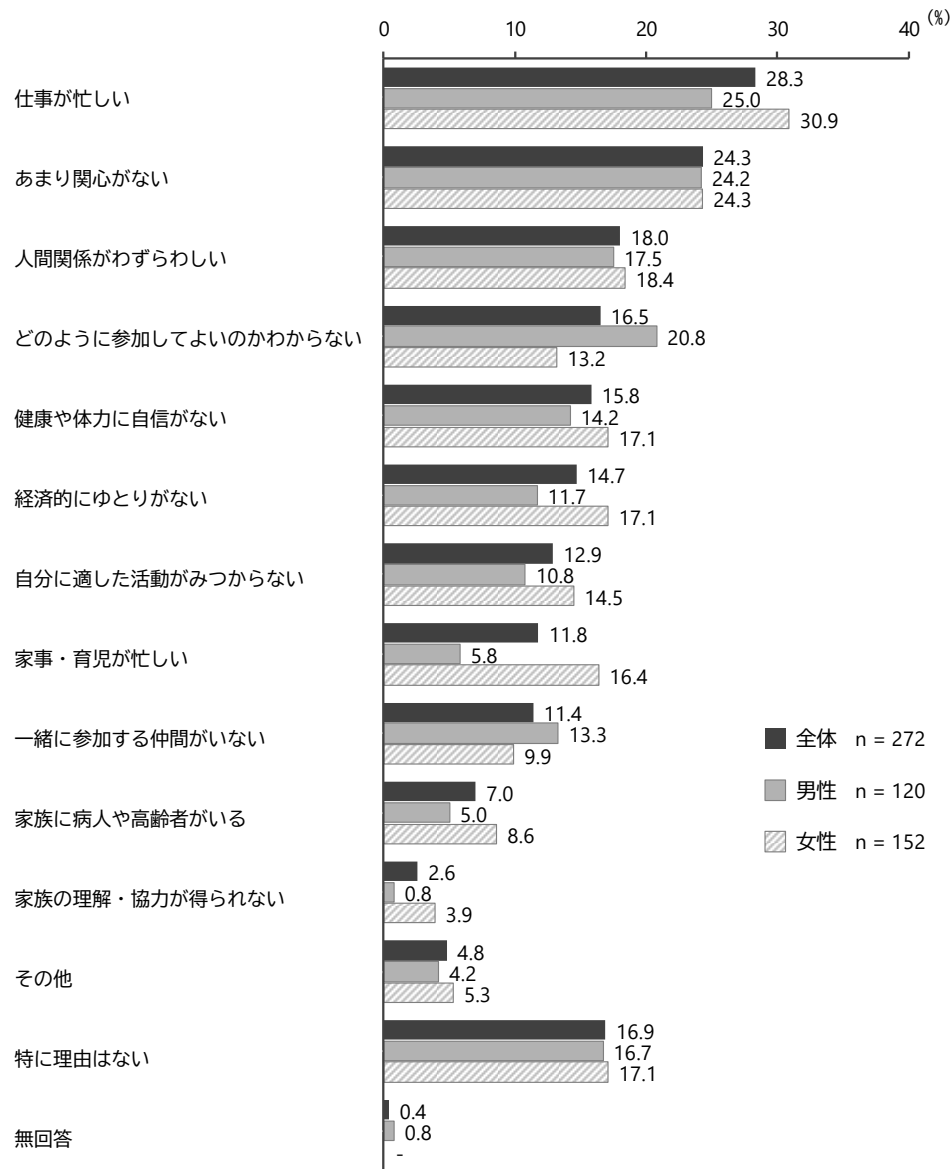


以前の調査と男女別で比較すると、いずれの調査でも男性は「自治会・町内会の役員活動」が最も多く、女性は「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が最も多くなっている。H30 須賀川市調査と比べると、R6 須賀川市調査の「自治会・町内会の役員活動」は女性で 2.7 ポイント増加し、「趣味・サークル・スポーツ等の活動」は男性で 1.7 ポイント増加した。

3-8 地域・社会活動に参加していない理由

問 30 問 29 で、「9. 参加していない」とお答えの方にお尋ねします。

地域・社会活動に参加していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

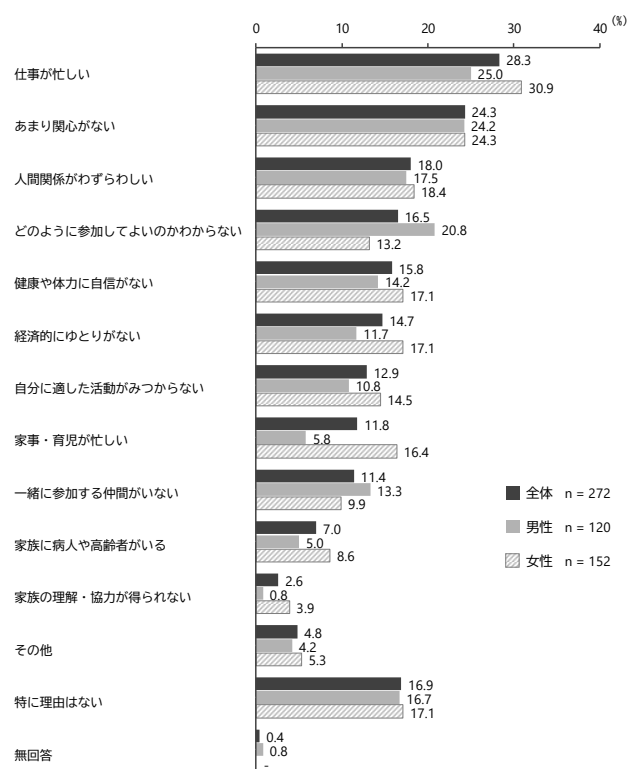


『地域・社会活動に参加していない理由はなぜですか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「仕事が忙しい」(男性：25.0%、女性：30.9%)が最も多く、次いで、「あまり関心がない」(男性：24.2%、女性：24.3%)となっている。

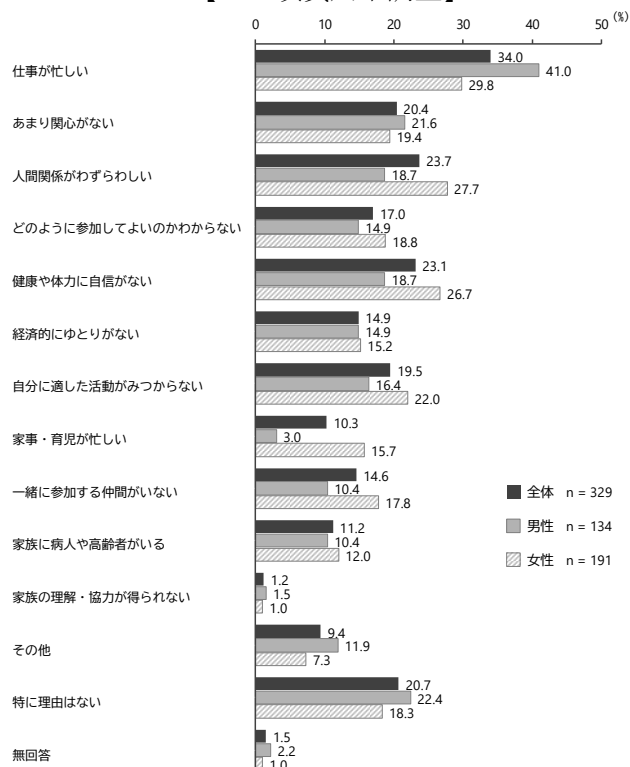
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25 須賀川市調査 男女別

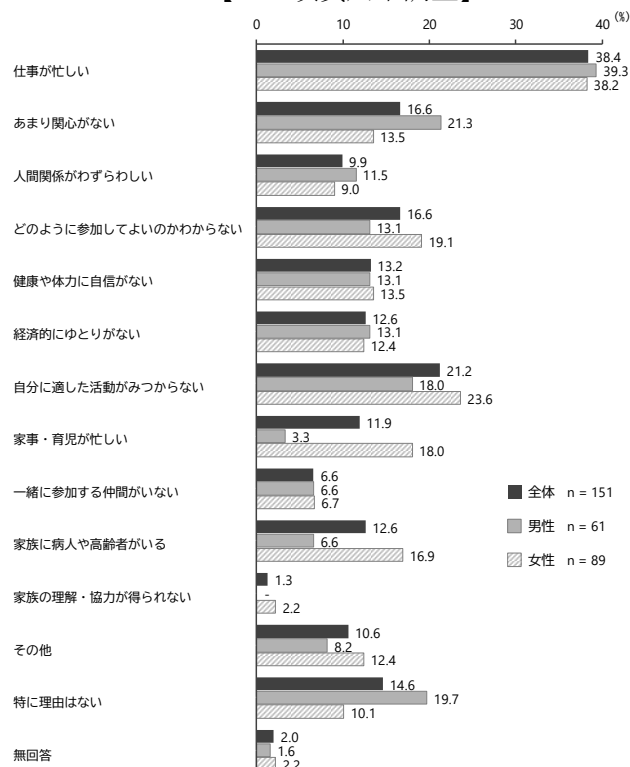
【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



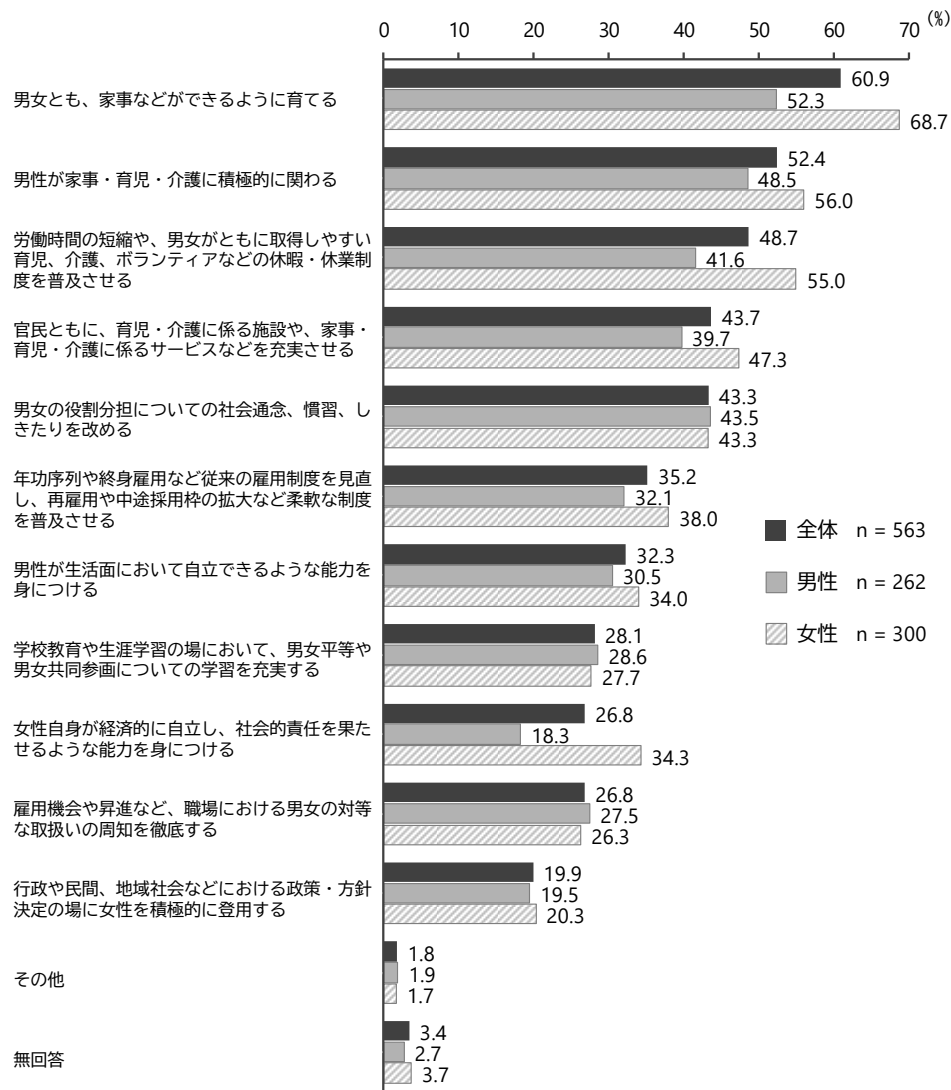
【H25 須賀川市調査】



H30 須賀川市調査と性別で比較すると、依然として「仕事が忙しい」が最も多くなっているが、R6 須賀川市調査では男性で 16.0 ポイント減少している。

3-9 女性と男性がともに仕事、家事、介護、地域・社会活動等に積極的に参加するために必要なこと

問 31 今後、女性と男性がともに仕事、家事、介護、地域・社会活動などに積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

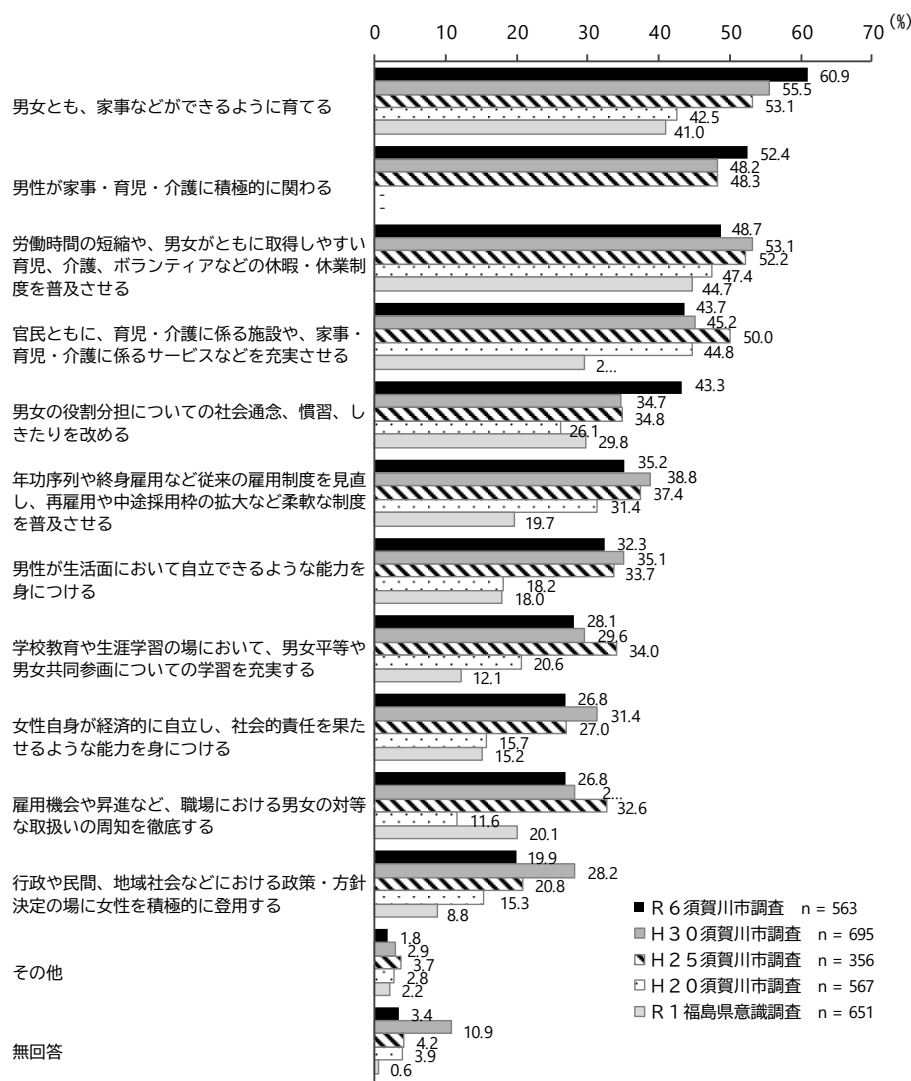


『今後、女性と男性がともに仕事、家事、介護、地域・社会活動などに積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「男女とも、家事などができるように育てる」（男性：52.3%、女性：68.7%）が最も多く、次いで「男性が家事・育児・介護に積極的に関わる」（男性：48.5%、女性：56.0%）となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25・20 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※H20、R1 福島県意識調査では「男性が家事・育児・介護に積極的に関わる」の項目がないため「－」と表している

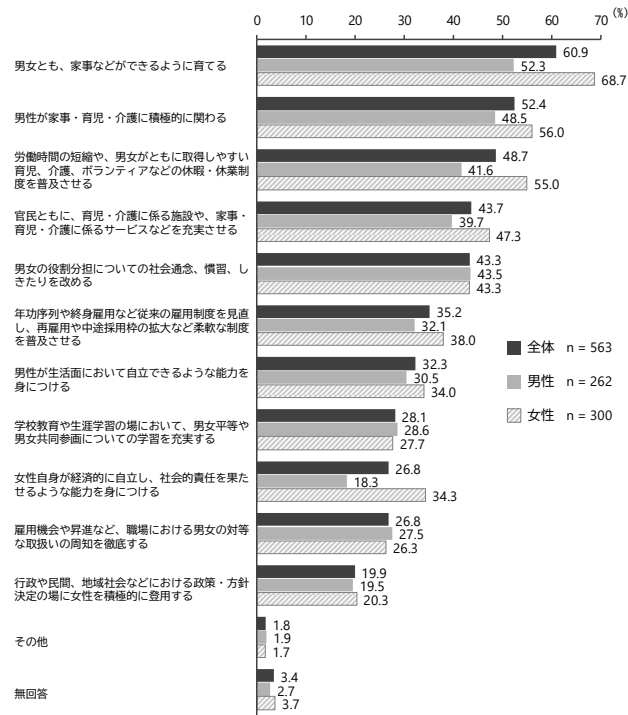


他の調査と比較すると、R6 須賀川市調査と H30 須賀川市調査では順位の違いはあるものの、「男女とも、家事などができるように育てる」、「男性が家事・育児・介護に積極的に関わる」、「労働時間の短縮や、男女がともに取得しやすい育児、介護、ボランティアなどの休暇・休業制度を普及させる」が上位を占めている。

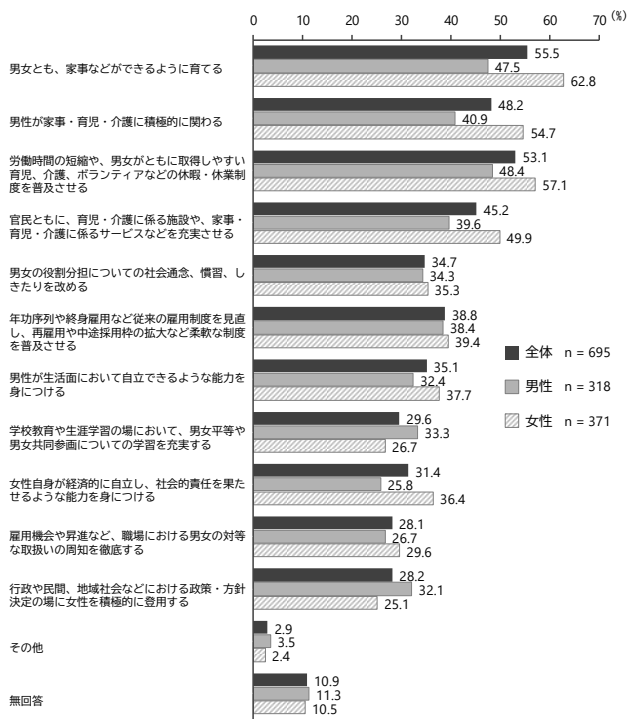
また、「男女とも、家事などができるように育てる」は年々増加傾向にある。

《参考》R6・H30・25 須賀川市調査 男女別

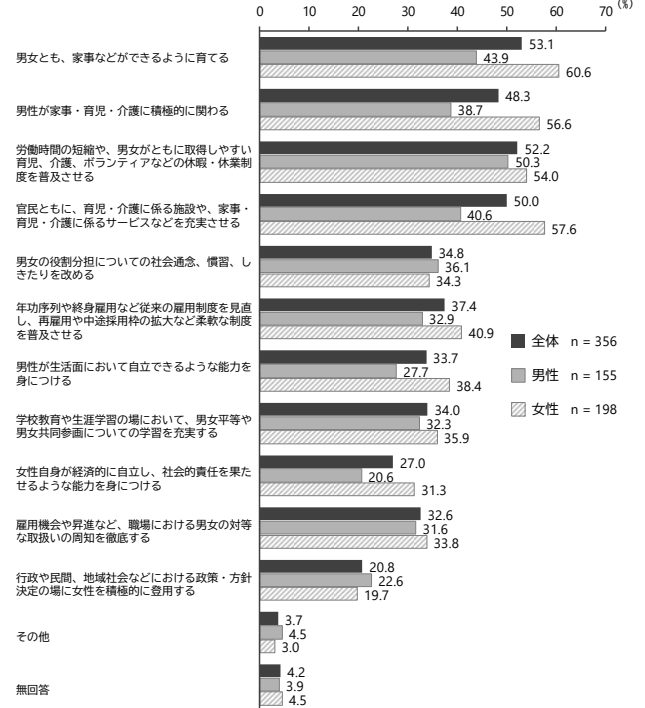
【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】

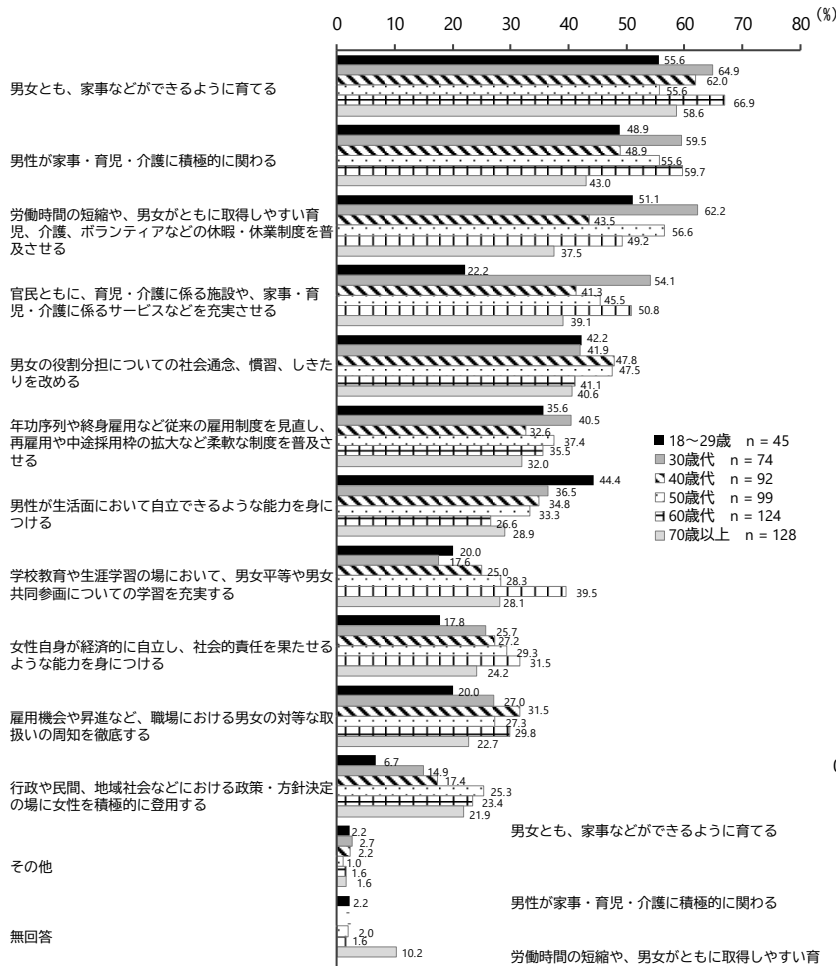


H30 須賀川市調査と性別で比較すると、上位2項目は男性・女性ともに増加傾向にあり、「男女とも家事などができるように育てる」は男性で4.8ポイント、女性で5.9ポイント増加している。「男性が家事・育児・介護に積極的に関わる」に関しても男性で7.6ポイント、女性で1.3ポイント増加している。

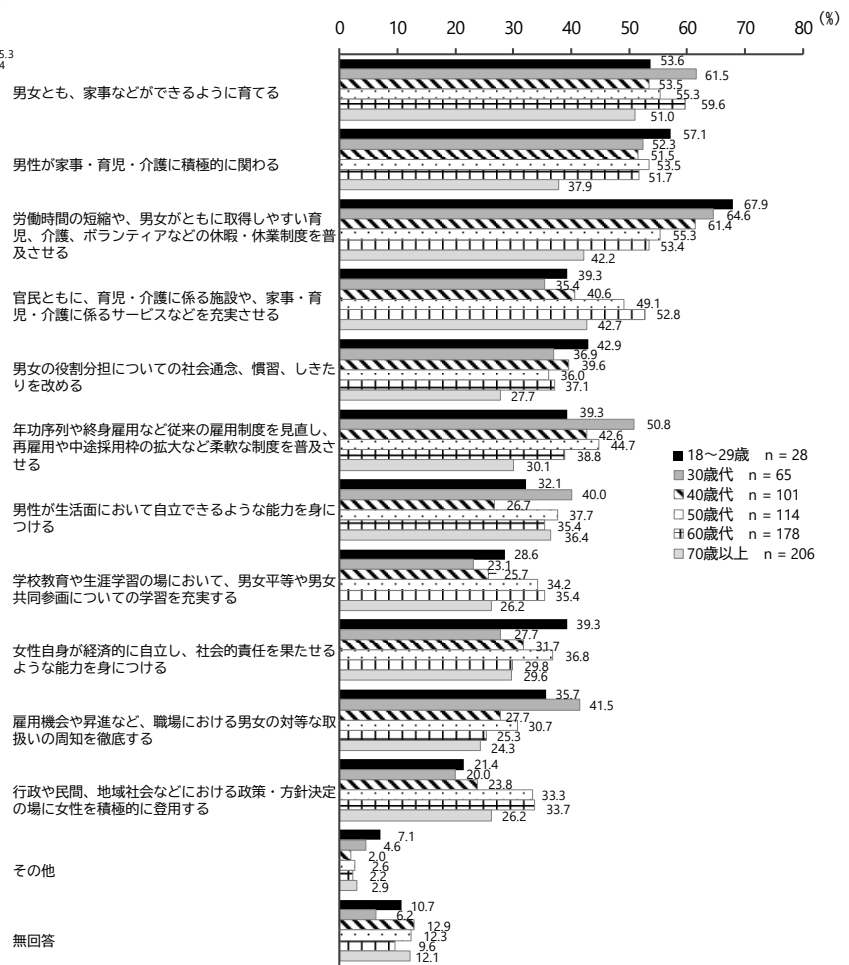
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30 須賀川市調査 年齢別

【R6 須賀川市調査】

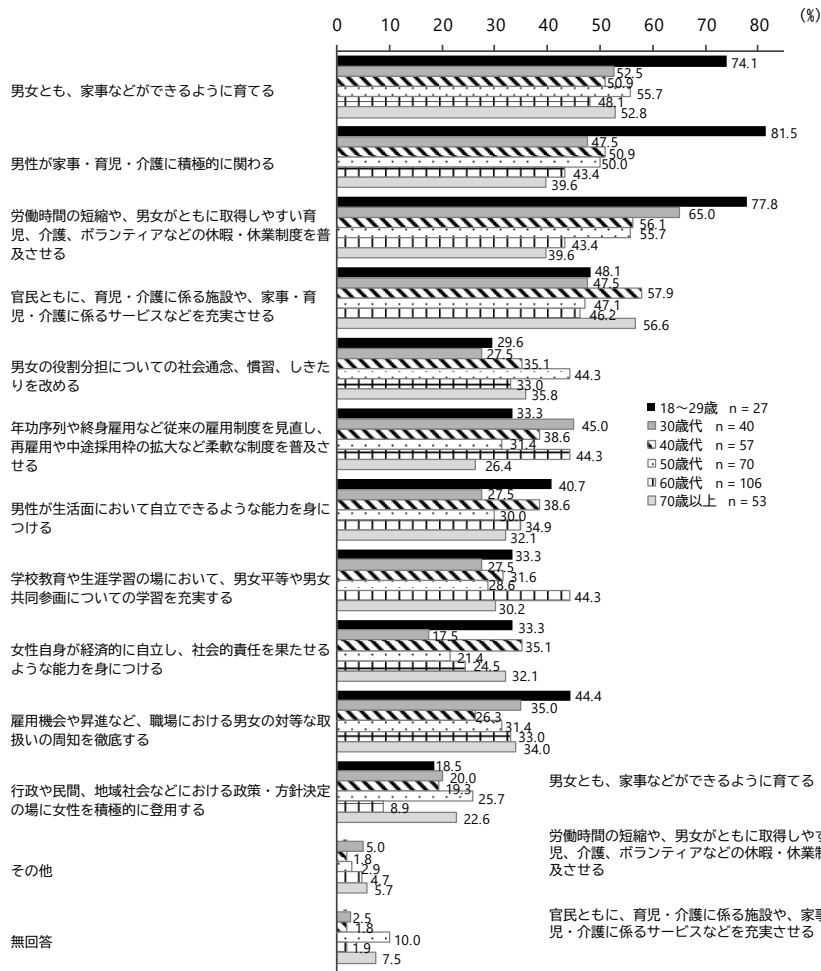


【H30 須賀川市調査】

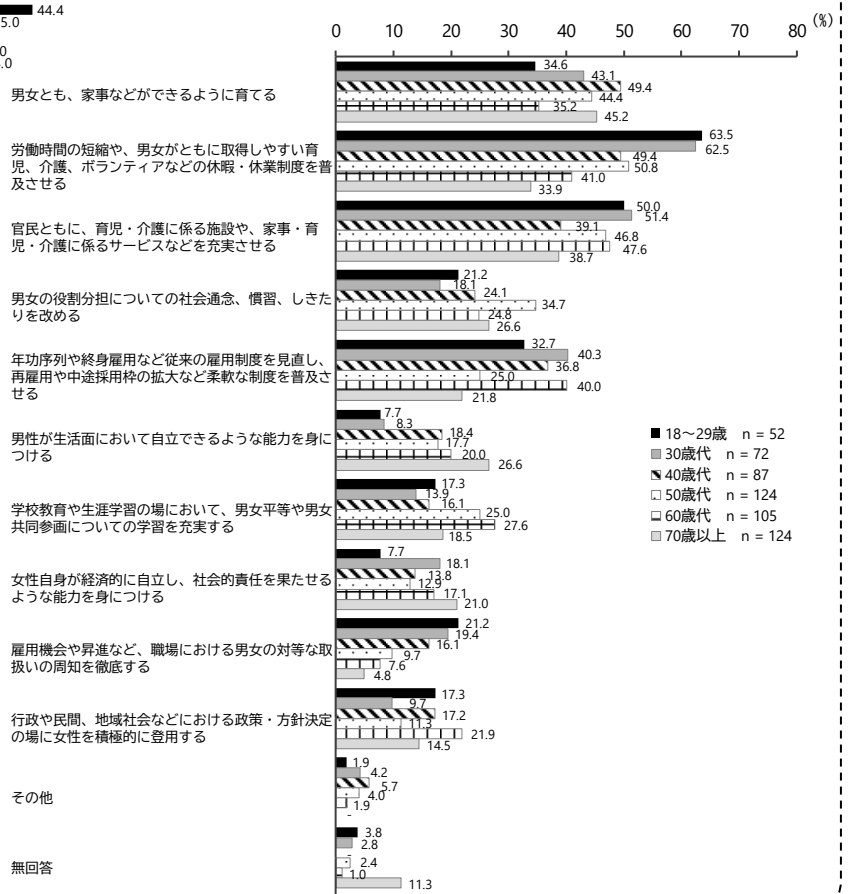


《参考》H25・H20 須賀川市調査 年齢別

【H25 須賀川市調査】



【H20 須賀川市調査】

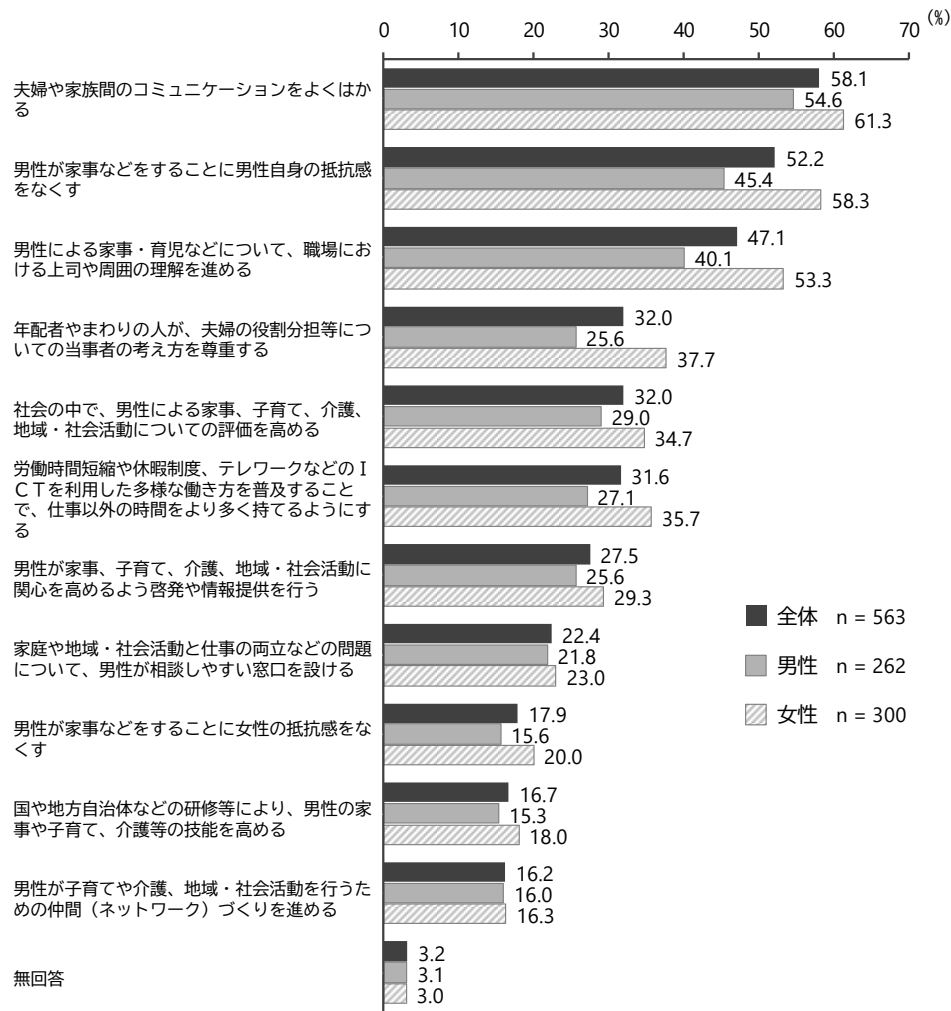


Ⅲ 調査結果の分析

以前の調査と年齢別に比較すると、R6 須賀川市調査では、「労働時間の短縮や、男女がともに取得しやすい育児、介護、ボランティアなどの休暇・休業制度を普及させる」、「男性が家事・育児・介護に積極的に関わる」で18～29歳、30歳代からの積極的な回答が目立つ。R6 須賀川市調査では、「男女とも、家事などができるように育てる」はすべての年代で半数を超えている。

3-10 男性が家事、子育て、介護、地域・社会活動に積極的に参加していくために必要なこと

問 32 今後、男性が家事、子育て、介護、地域・社会活動に積極的に参加していくためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



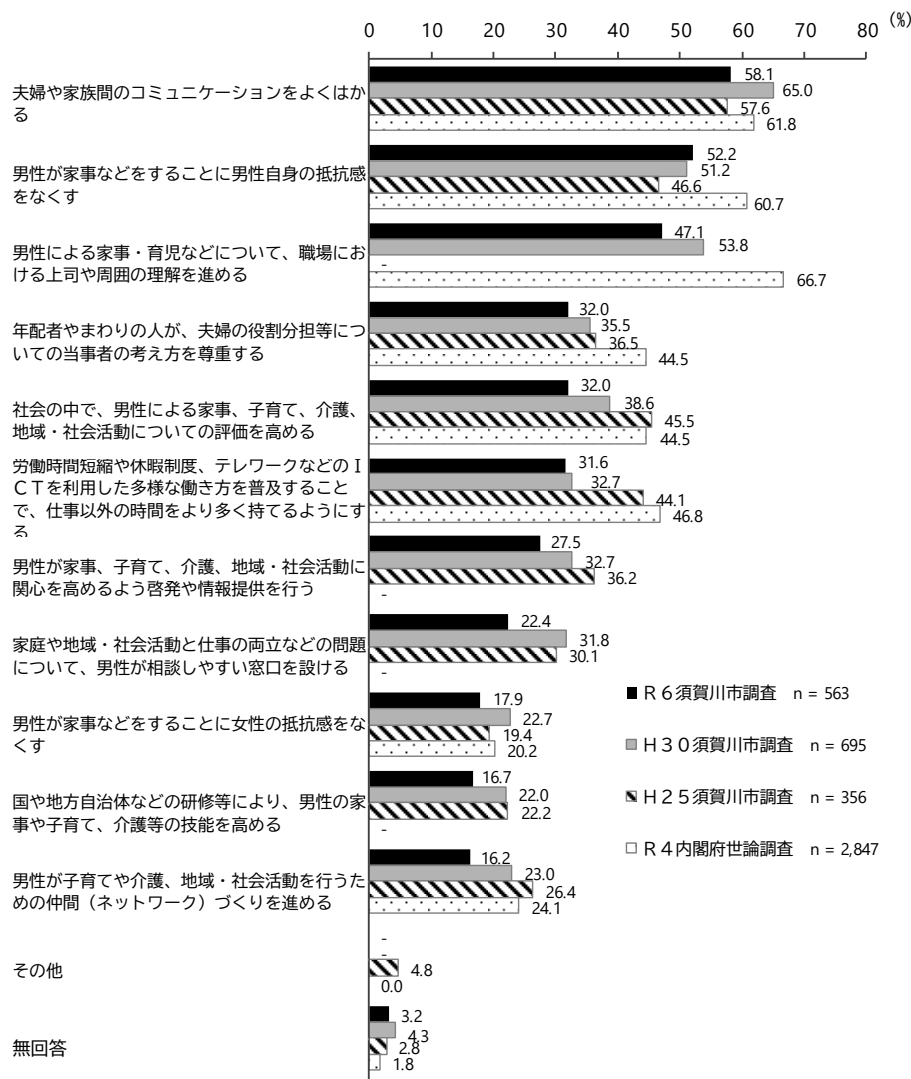
『今後、男性が家事、子育て、介護、地域・社会活動に積極的に参加していくためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」（男性：54.6%、女性：61.3%）が最も多い。次いで、「男性が家事などをするに男性自身の抵抗感をなくす」（男性：45.4%、女性：58.3%）となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30・25 須賀川市調査、R4 内閣府世論調査

※H30・R6 須賀川市調査では「その他」の項目がないため「－」と表している

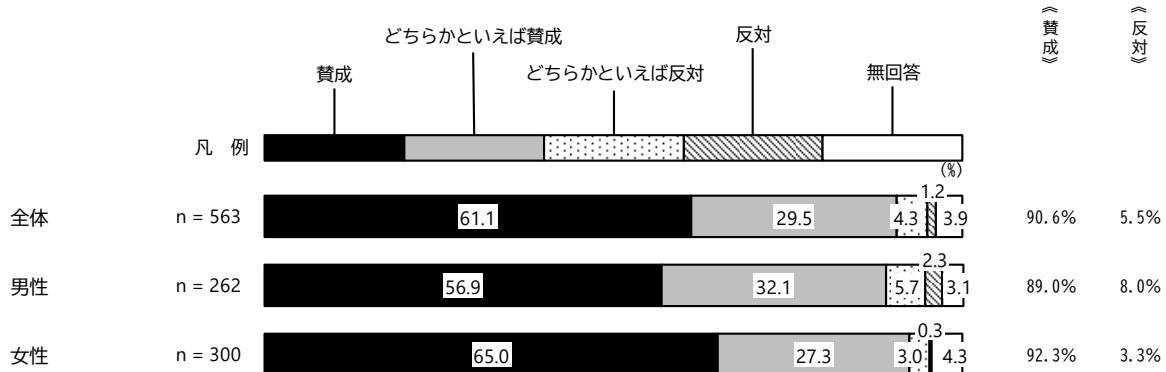
※H25 須賀川市調査では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」の項目がないため「－」と表している



他の調査と比較すると、R4 内閣府調査を除き、いずれの調査でも「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」が最も多くなっている。R4 内閣府世論調査のみ「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を求める」（66.7%）が最も多くなっている。

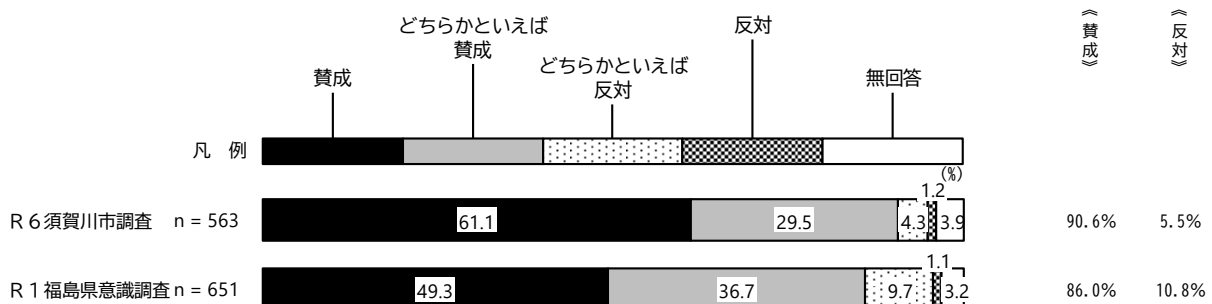
3-11 男性の育児休暇取得について

問 33 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。(1つに○)



『男性の育児休暇取得についてどう思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「賛成」と「どちらかといえば賛成」を足し合わせた《賛成》(男性：89.0%、女性：92.3%)が約9割を占めている。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査



R1 福島県意識調査と比較すると、《賛成》(R6 須賀川市調査：90.6%、R1 福島県意識調査：86.0%)の割合が多数を占めることに変わりはないが、4.6 ポイント R6 須賀川市調査が上回っている。

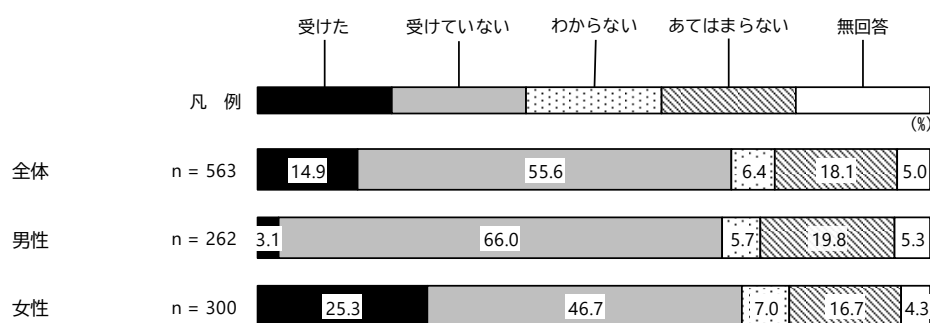
4. 男女間の暴力に関する意識について

4-1 ハラスメントや暴力等の被害について

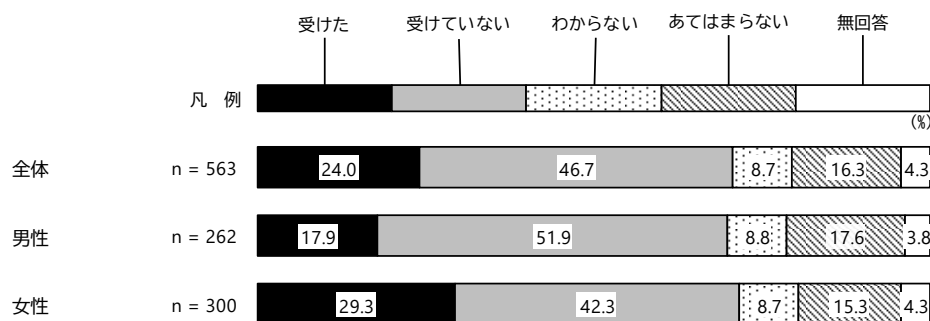
問 34 あなたは、次にあげる被害を異性から受けた事がありますか。

(①から⑤までについて、それぞれ1つに○)

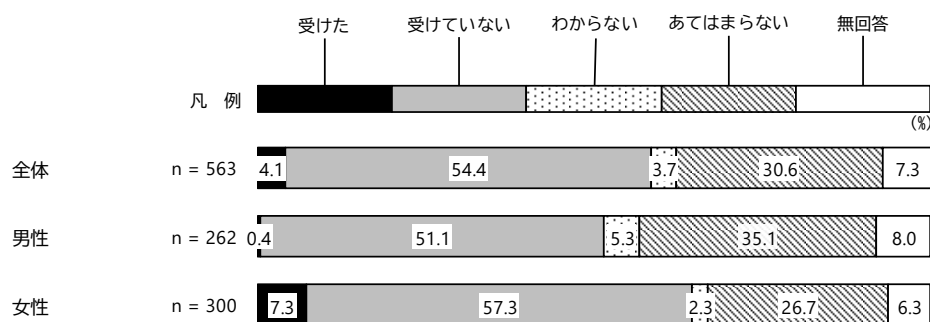
① セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



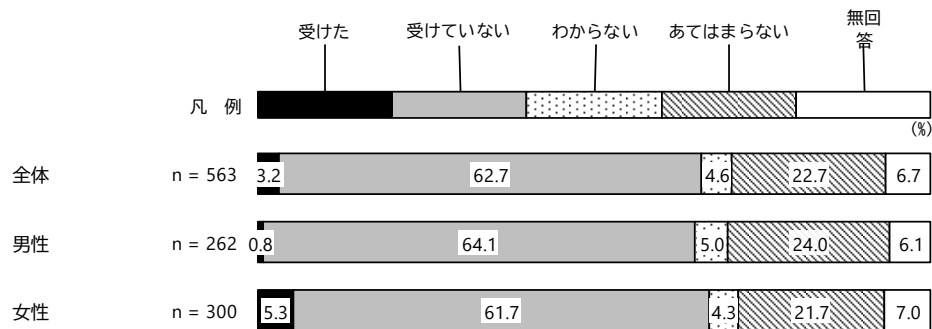
② パワーハラスメント（パワハラ）



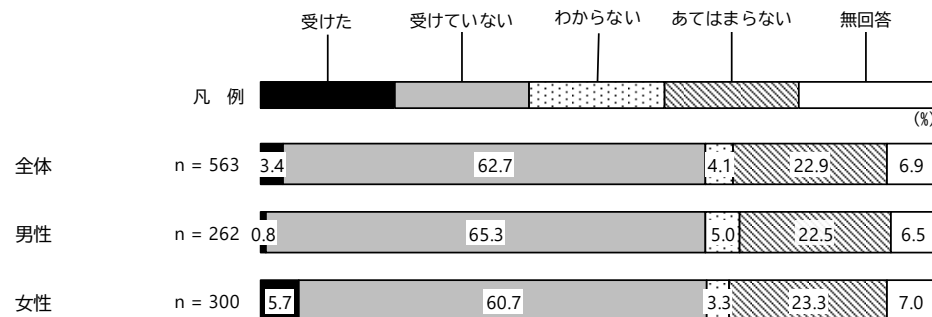
③ マタニティ・ハラスメント（マタハラ）



④ ドメスティック・バイオレンス（DV）



⑤ ストーカー



※1 セクシュアル・ハラスメント

他の者を不快にさせる性的な言動。性的嫌がらせ。

※2 パワーハラスメント

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為。

※3 マタニティ・ハラスメント

妊娠・出産・育休などを理由とする、解雇・雇い止め・降格などの不利益な取扱いを行うこと。

※4 ドメスティック・バイオレンス

夫婦・恋人・パートナーからの暴力。

※5 ストーカー

同一の者に対しつきまとい等を繰り返して行う行為。

Ⅲ 調査結果の分析

『あなたは、異性から被害を受けた事がありますか。』と5つの項目について尋ねたところ、

【① セクシュアル・ハラスメント】については、「受けていない」（男性：66.0%、女性：46.7%）と最も多くなっている。一方、「受けた」（男性：3.1%、女性：25.3%）では22.2ポイント女性が上回っている。

【② パワーハラスメント】については、「受けた」（男性：17.9%、女性：29.3%）が他の項目と比べて多くなっている。

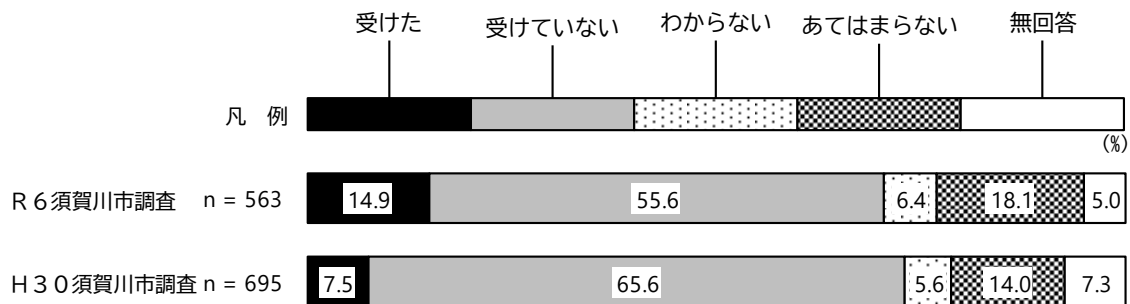
【③ マタニティ・ハラスメント】については、「受けた」（男性：0.4%、女性：7.3%）では6.9ポイント女性が上回っている。

【④ ドメスティック・バイオレンス】については、男性・女性ともに「受けていない」（男性：64.1%、女性：61.7%）が6割を超えている。「受けた」（男性：0.8%、女性：5.3%）では4.5ポイント女性が上回っている。

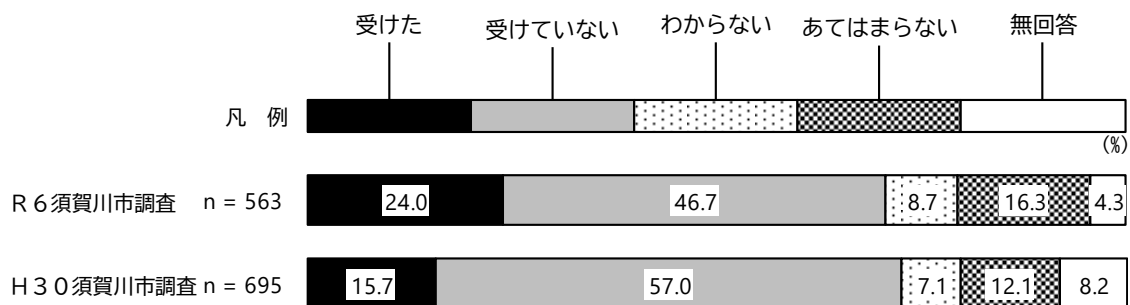
【⑤ ストーカー】については、「受けていない」（男性：65.3%、女性：60.7%）が6割を超えている。「受けた」（男性：0.8%、女性：5.7%）では4.9ポイント女性が上回っている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査

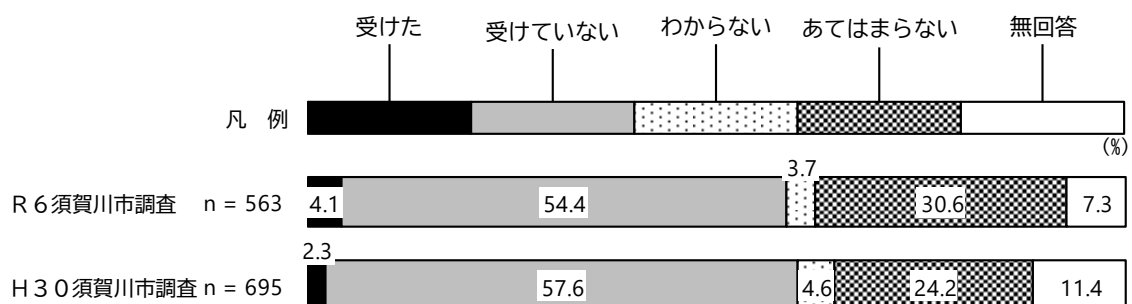
② セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



② パワーハラスメント（パワハラ）

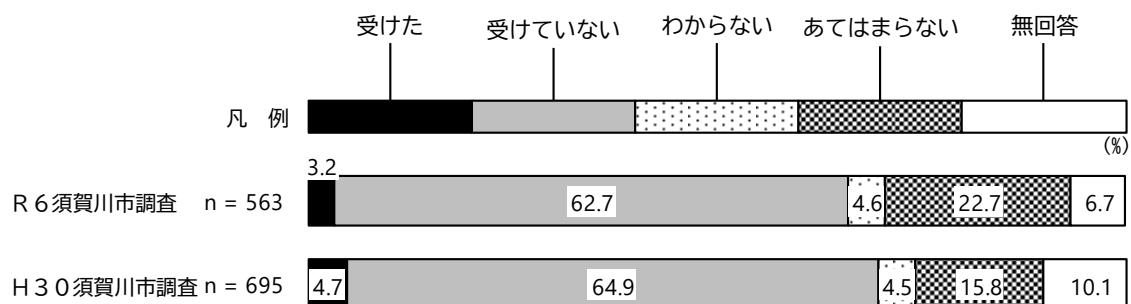


③ マタニティ・ハラスメント（マタハラ）

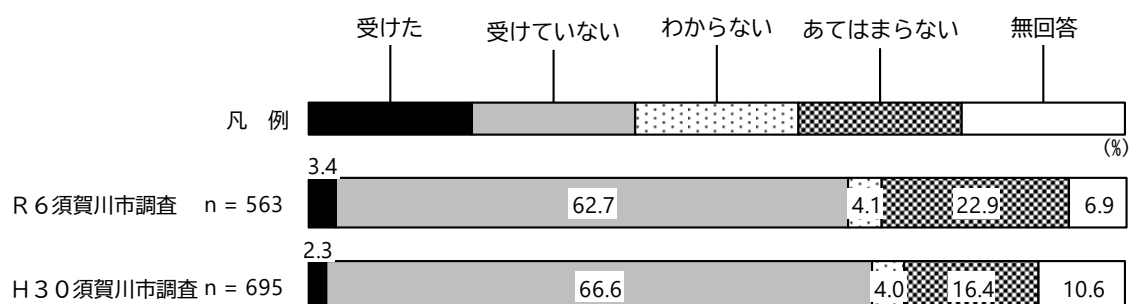


Ⅲ 調査結果の分析

④ ドメスティック・バイオレンス（DV）



⑤ ストーカー



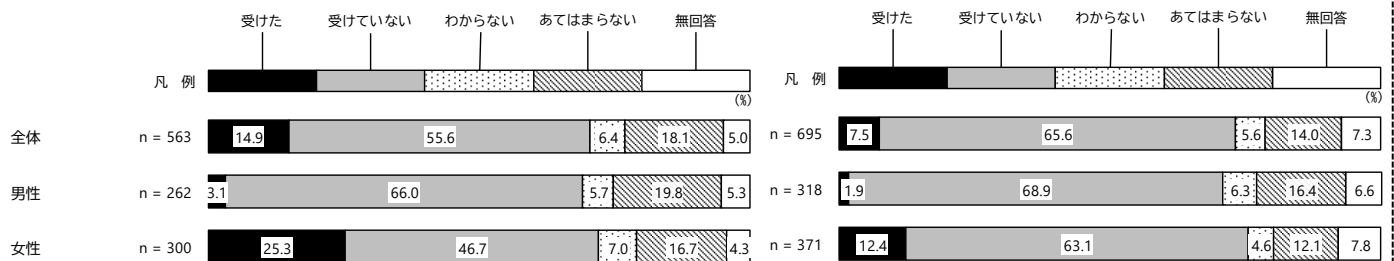
H30 須賀川市調査と比較すると、【④ ドメスティック・バイオレンス】を除き、すべての項目で「受けた」は H30 須賀川市調査を上回っている。

《参考》R6・H30 須賀川市調査 男女別

① セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

【R6 須賀川市調査】

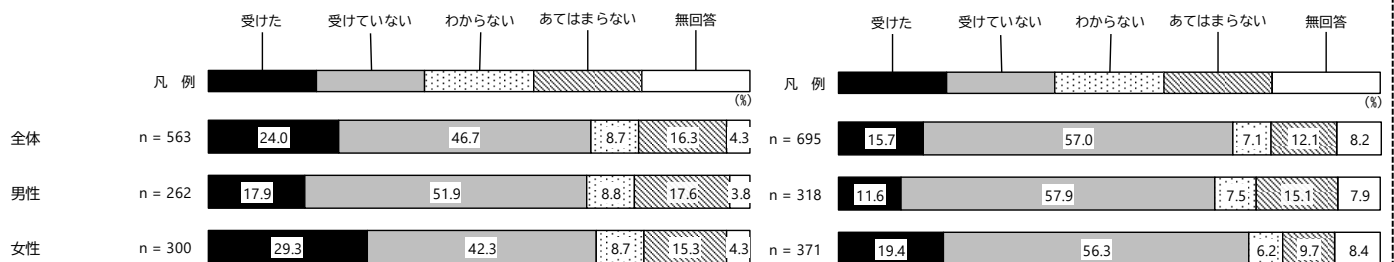
【H30 須賀川市調査】



② パワー・ハラスメント（パワハラ）

【R6 須賀川市調査】

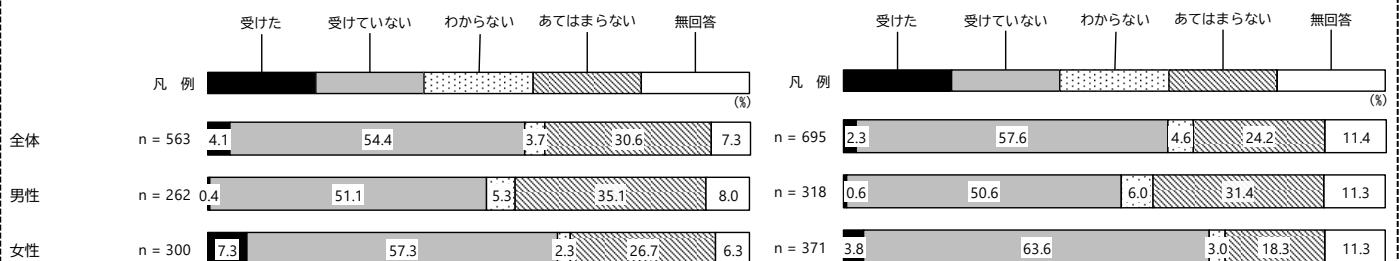
【H30 須賀川市調査】



③ マタニティ・ハラスメント（マタハラ）

【R6 須賀川市調査】

【H30 須賀川市調査】

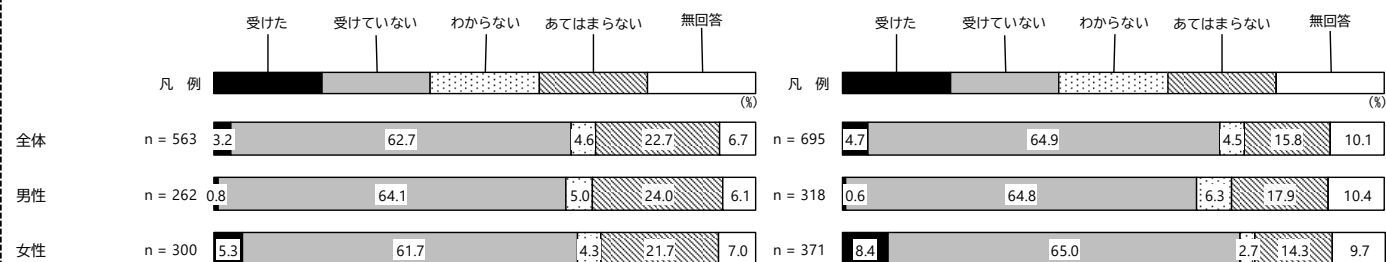


Ⅲ 調査結果の分析

④ ドメスティック・バイオレンス（DV）

【R6 須賀川市調査】

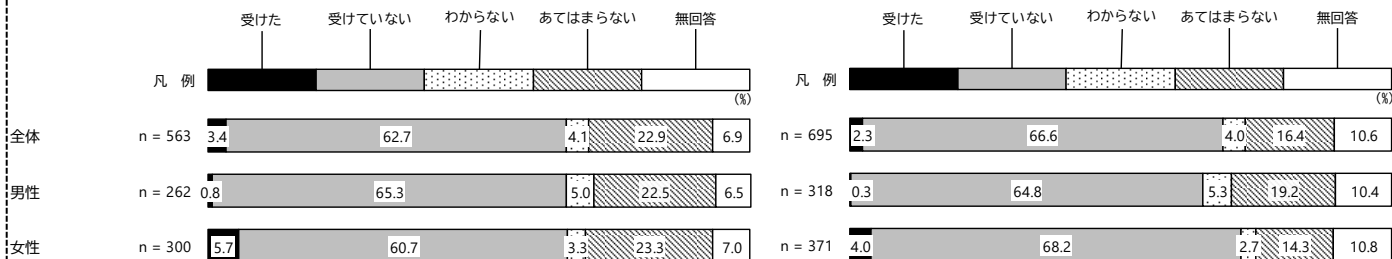
【H30 須賀川市調査】



⑤ ストーカー

【R6 須賀川市調査】

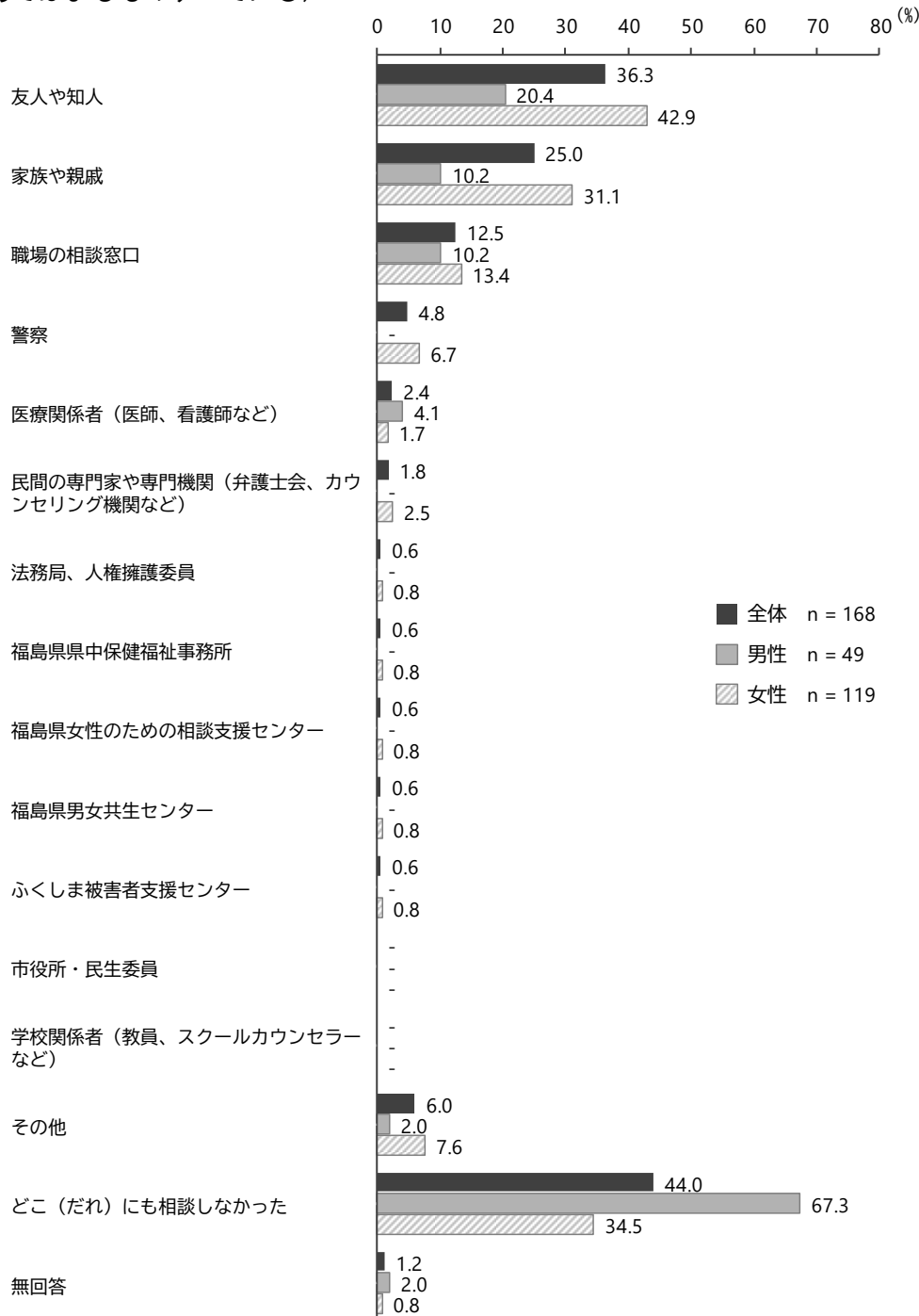
【H30 須賀川市調査】



H30 須賀川市調査と男女別で比較すると、【③ マタニティ・ハラスメント】【④ ドメスティック・バイオレンス】を除きすべての項目で男性・女性ともに「受けた」の回答が H30 須賀川市調査を上回っている。

4-2 受けた被害の相談先

問 35 問 34 で、いずれかの行為で、1つでも「1. 受けた」とお答えの方にお尋ねします。
あなたは、受けた被害について、どこ（どなた）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

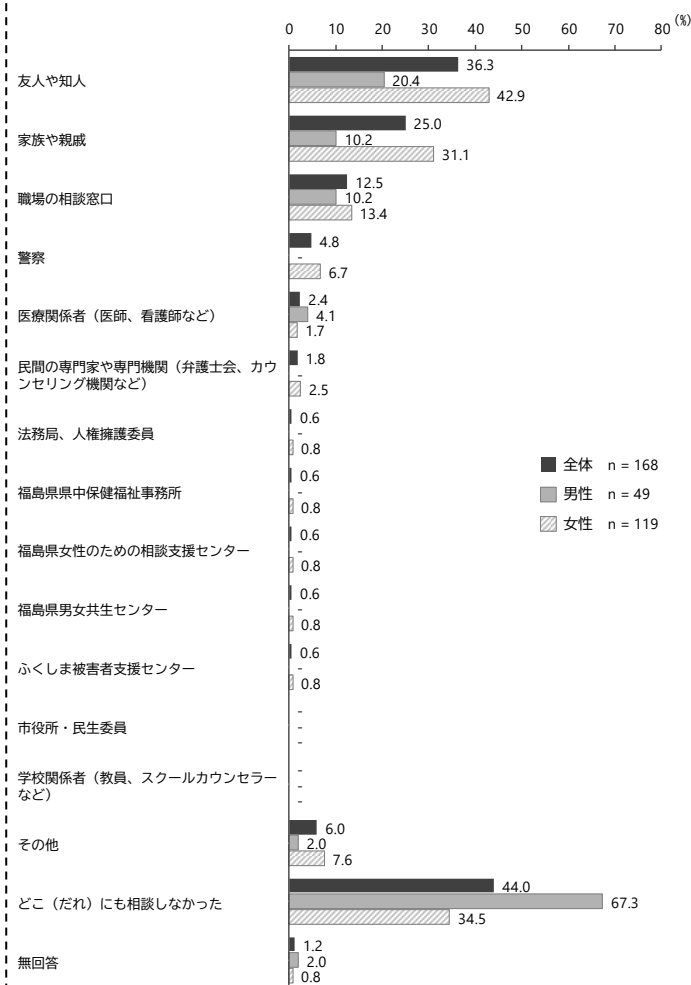


『あなたは、受けた被害について、どこ（どなた）に相談しましたか。』と尋ねたところ、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」（67.3%）、女性は「友人や知人」（42.9%）が最も多くなっている。性別間での順位に相違はあるが、どちらも相談先は「友人や知人」（男性：20.4%、女性：42.9%）、「家族や親戚」（男性：10.2%、女性：31.1%）、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（男性：67.3%、女性：34.5%）が上位となっている。

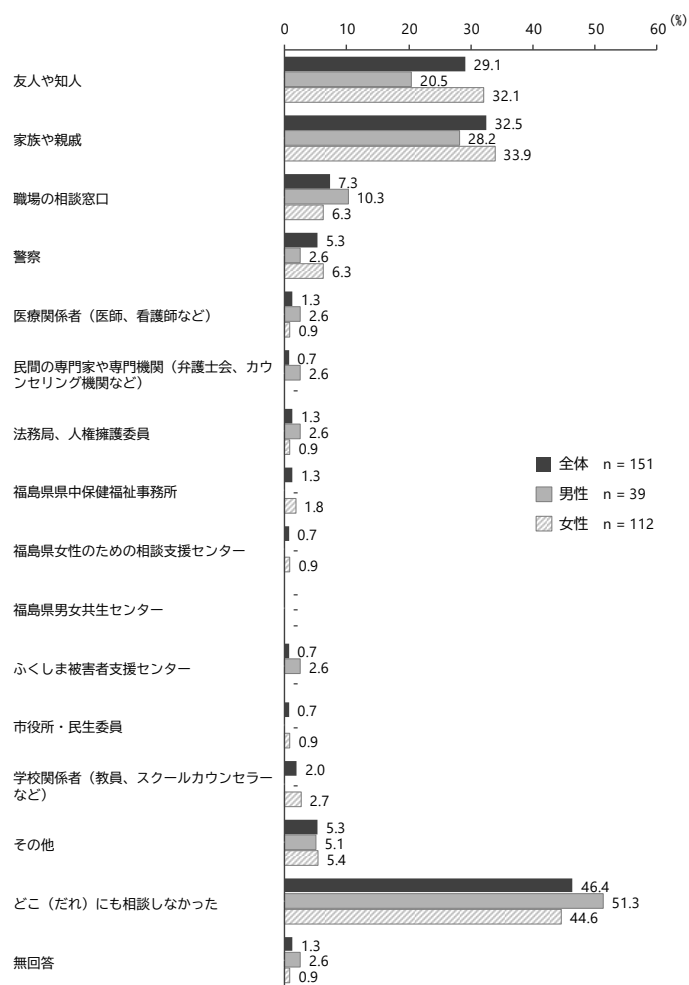
Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6・H30 須賀川市調査 男女別

【R6 須賀川市調査】



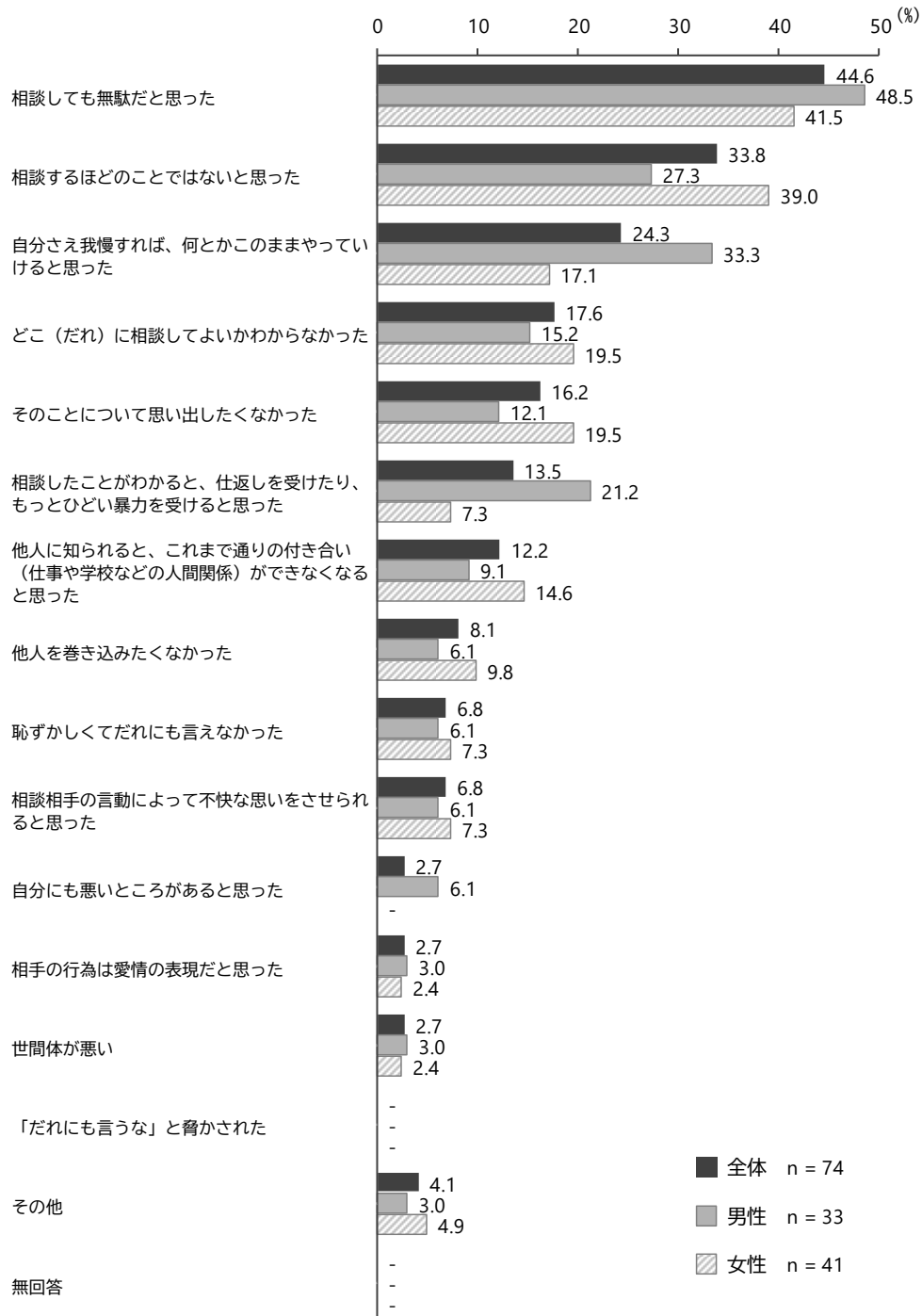
【H30 須賀川市調査】



H30 須賀川市調査と男女別で比較すると、「家族や親戚」は男性で 18.0 ポイント、女性で 2.8 ポイント減少している。また「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性で 16.0 ポイント増加しているのに対し、女性は 10.1 ポイント減少している。

4-3 相談しなかった理由

問 36 問 35 で、「15. どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えの方にお尋ねします。
相談しなかった理由をお尋ねします。（あてはまるものすべてに○）

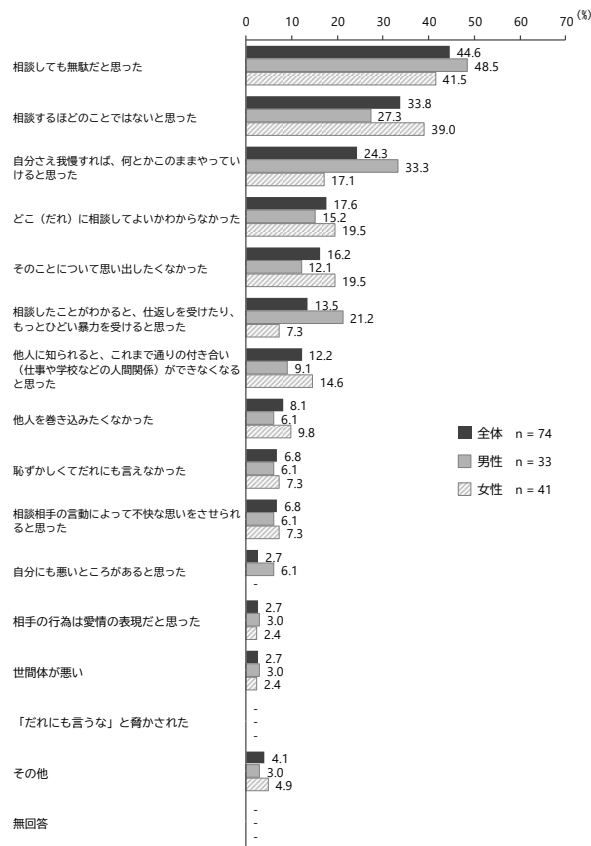


Ⅲ 調査結果の分析

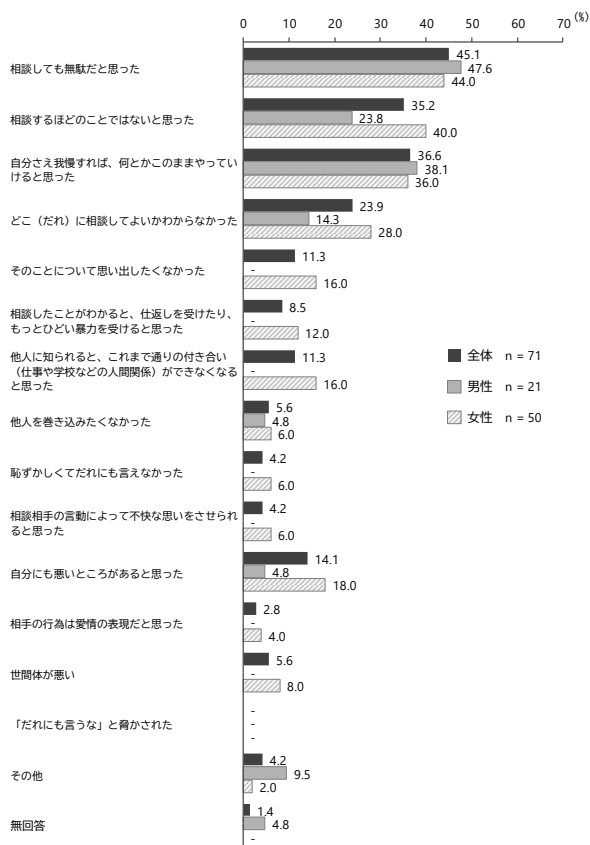
『相談しなかった理由』を尋ねたところ、男性・女性ともに「相談しても無駄だと思った」（男性：48.5%、女性：41.5%）が最も多い。次いで、男性では「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った」（33.3%）だが、女性では「相談するほどのことでもないと思った」（39.0%）となっている。「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った」（男性：33.3%、女性：17.1%）では、男性が女性に比べて16.2ポイント上回っている。同様に、「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った」（男性：21.2%、女性：7.3%）でも男性が女性に比べて13.9ポイント上回っている。一方、「相談するほどのことでもないと思った」（男性：27.3%、女性：39.0%）では、女性が男性に比べて11.7ポイント上回っている。

《参考》R6・H30・25 須賀川市調査 男女別

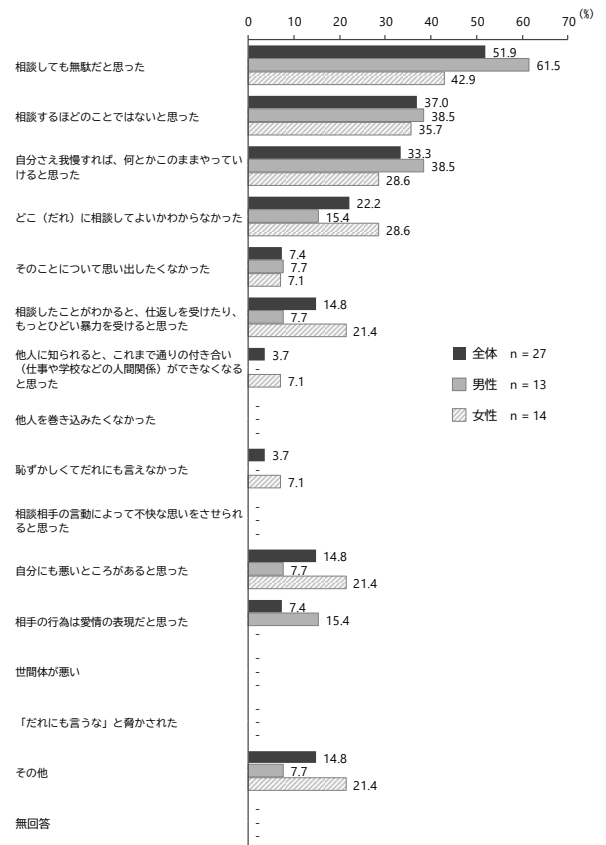
【R6 須賀川市調査】



【H30 須賀川市調査】



【H25 須賀川市調査】



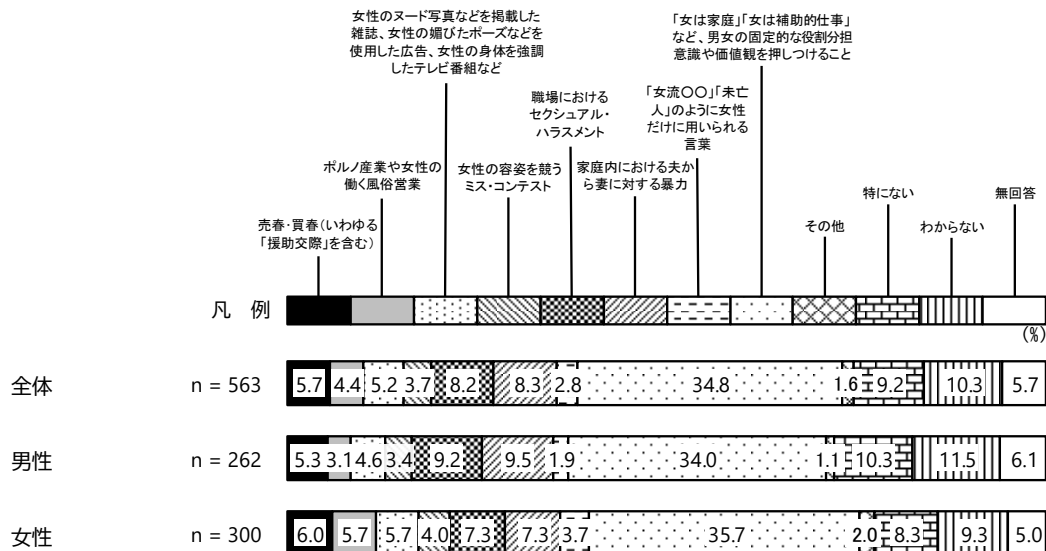
Ⅲ 調査結果の分析

H30 須賀川市調査と男女別で比較すると、「相談しても無駄だと思った」は男性で 0.9 ポイント増加し、女性で 2.5 ポイント減少している。また、「相談するほどのことでもないと思った」は男性で 3.5 ポイント増加している。

5. 人権に関する意義について

5-1 女性の人権が尊重されていないと感じること

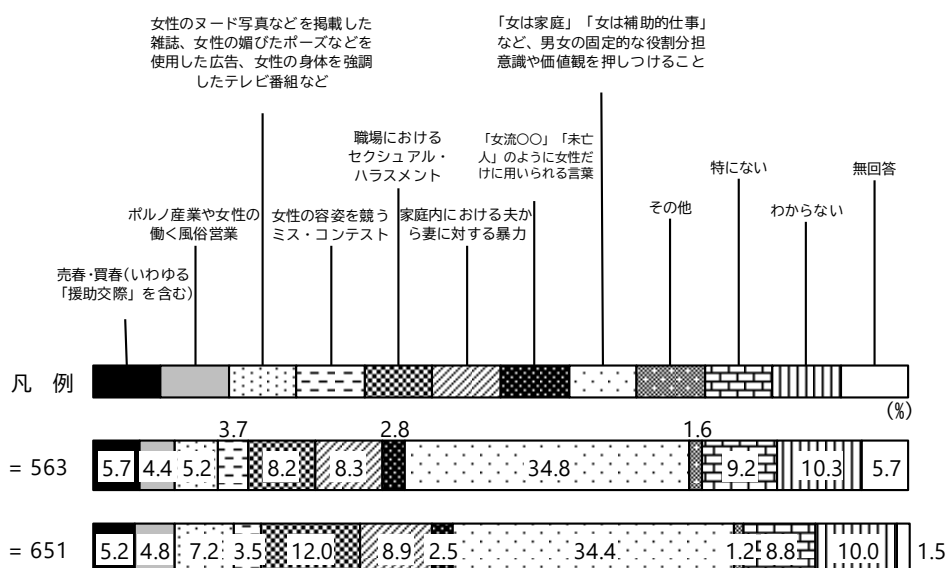
問 37 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中から選んでください。（1つに○）



『女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること（男性：34.0%、女性：35.7%）が最も多く、次いで「家庭内における夫から妻に対する暴力」（男性：9.5%、女性：7.3%）となっており、女性では「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」も同順となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

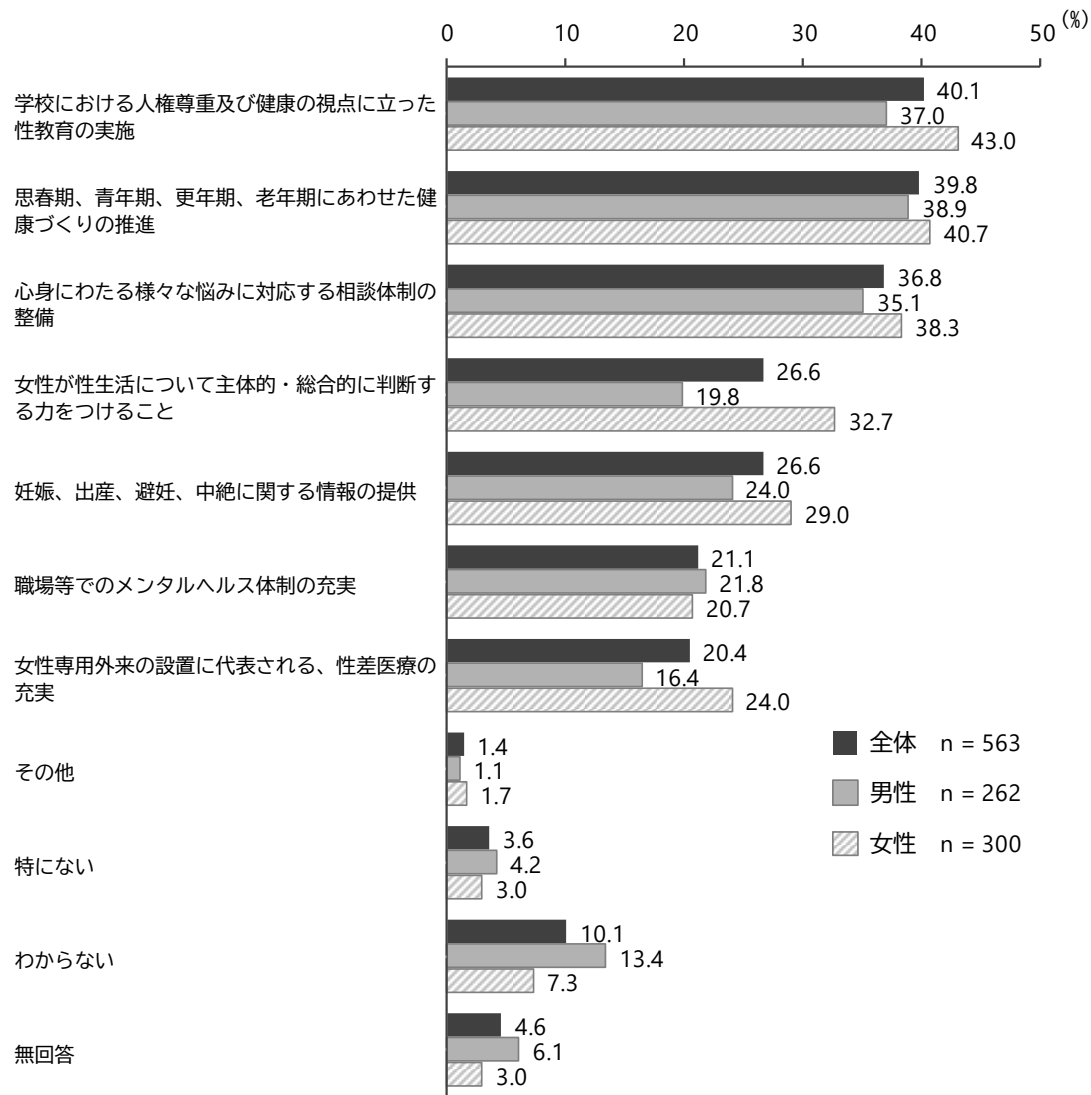
《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査



R1 福島県意識調査と比較すると、「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけることが最も多いことに変わりはないが、R1 福島県意識調査では、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(12.0%)が2位になっているが、R6 須賀川市調査では「家庭内における夫から妻に対する暴力」が2位になっている。

5-2 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと

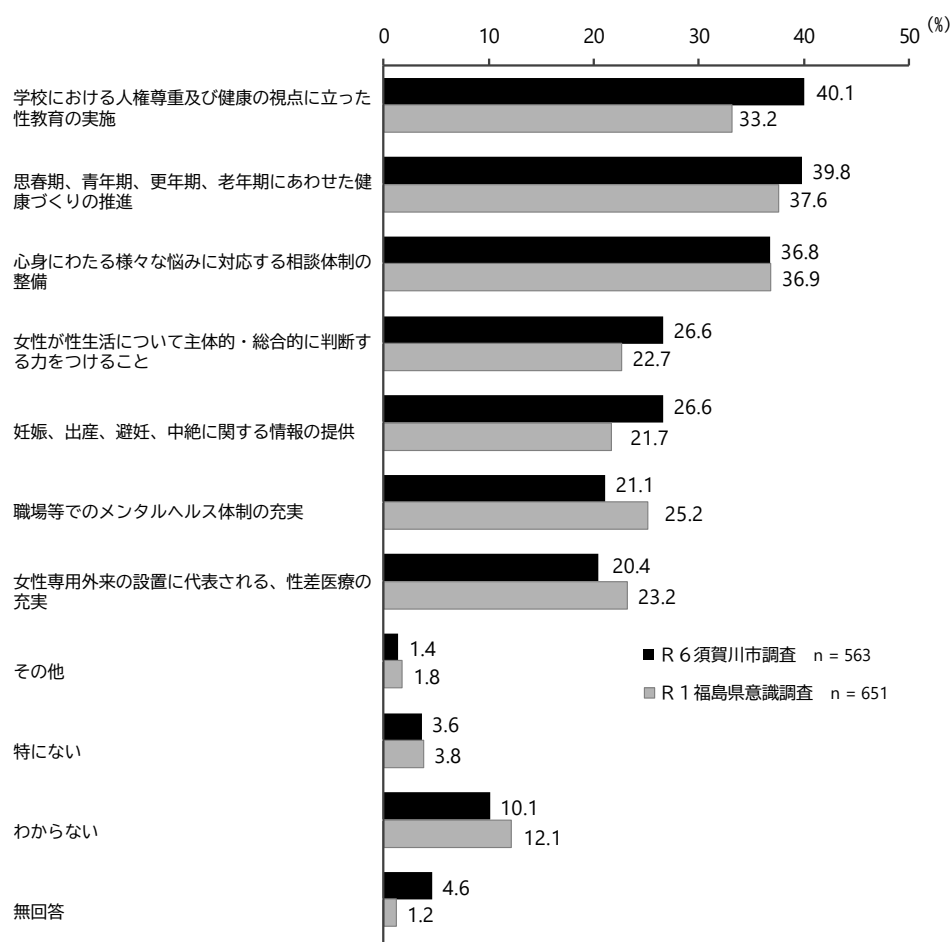
問 38 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



『男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。』と尋ねたところ、男性では「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」（38.9%）が最も多く、女性は「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」（43.0%）が最も多くなっている。「女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること」（男性：19.8%、女性：32.7%）では、女性が男性を 12.9 ポイント上回っている。

Ⅲ 調査結果の分析

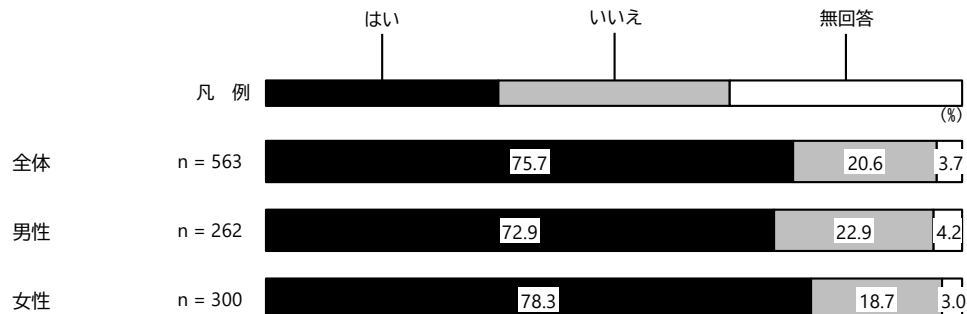
《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査



R1 福島県意識調査と比較すると、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」はR6 須賀川市調査では1位となっているが、R1 福島県意識調査では3位となっており、順位に相違がみられる。

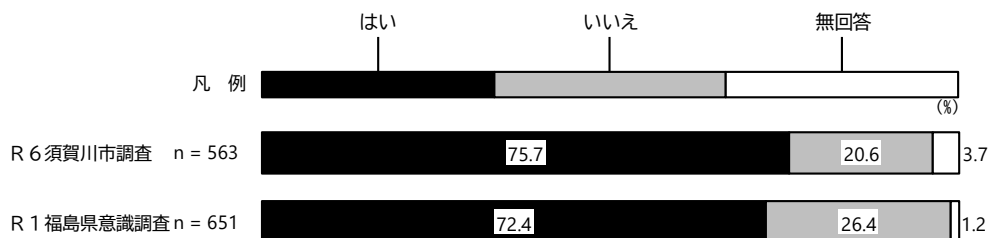
5-3 性的マイノリティ（またはLGBTQ など）という言葉の認知度

問 39 あなたは、性的マイノリティ※（またはLGBTQ など）という言葉を知っていますか。
（1 つに○）



『あなたは、性的マイノリティ（またはLGBTQ など）という言葉を知っていますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「はい」（男性：72.9%、女性：78.3%）と回答した人が7割以上となっている。「いいえ」（男性：22.9%、女性：18.7%）では男性が4.2ポイント上回っている。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

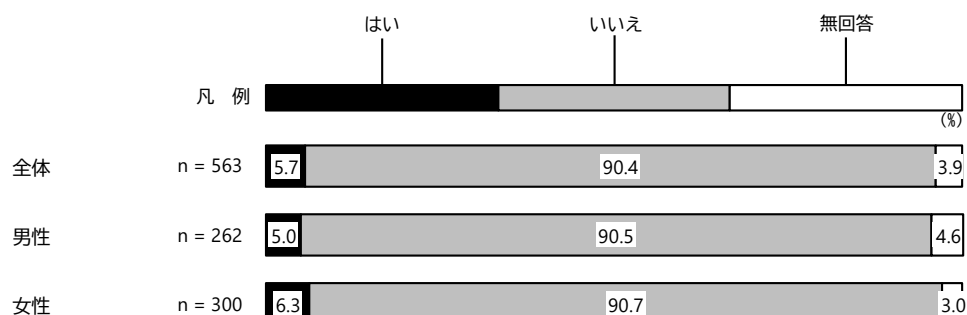


R1 福島県意識調査と比較すると、どちらも「はい」が7割以上となっているが、R6 須賀川市調査では3.3ポイント上回っている。

Ⅲ 調査結果の分析

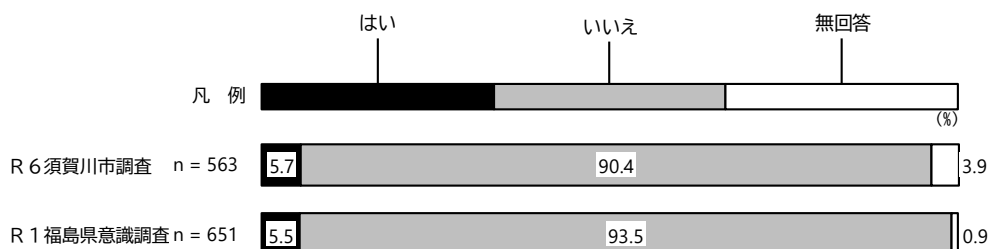
5-4 自分の体や心の性、または性的指向に悩んだ経験

問 40 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。
(1つに○)



『あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「いいえ」(男性：90.5%、女性：90.7%)と回答した人が9割以上となっている。一方、男性・女性ともに約5%の人が「はい」と回答している。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

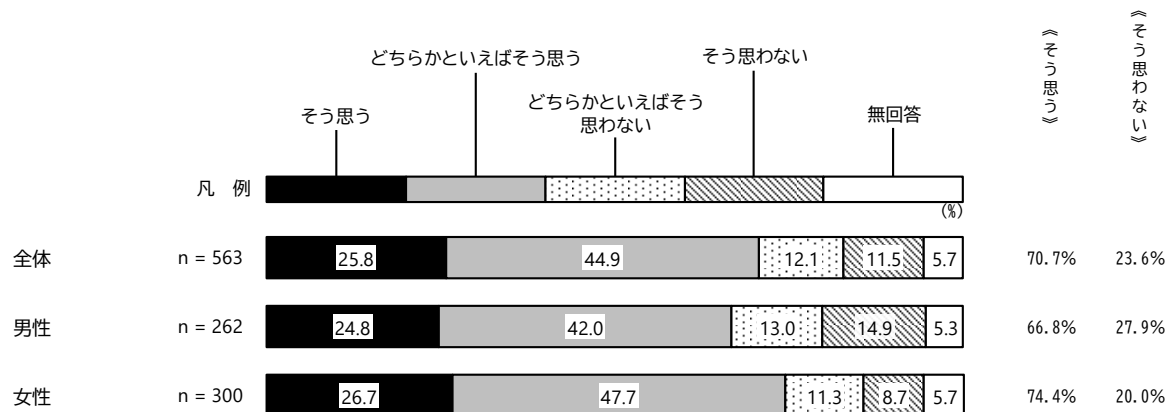


R1 福島県意識調査と比較すると、どちらも「はい」が約5%となっている。

5-5 性的マイノリティ（またはLGBTQ）の方にとって

生活しづらい社会だと思うか

問 41 現在、性的マイノリティ※（またはLGBTQ など）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（1つに○）



※ 性的マイノリティ

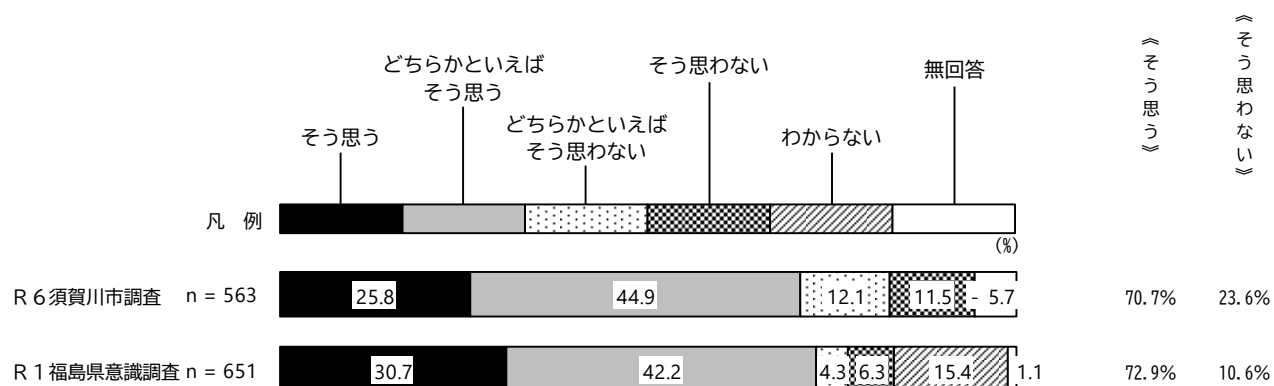
L：レズビアン（女性同性愛者）、G：ゲイ（男性同性愛者）、B：バイセクシュアル（両性愛者）、T：トランスジェンダー（出生時に診断された性とは違う性を生きる人）、Q：クエスチョニング（自身のセクシュアリティがわからない人、決められない人等）や、クエア（性的マイノリティの人々全てを包括する言葉）など、性的指向（sexual orientation）又は性自認（gender identity）において何らかの意味で「性」のあり方が多数の人とは異なる人々のこと。

『現在、性的マイノリティ※（またはLGBTQ など）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性とも「《そう思う》」と「《どちらかといえばそう思う》」を足し合わせた《そう思う》（男性：66.8%、女性 74.4%）が 6 割を超える結果となった。

Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

※R6 須賀川市調査調査では「わからない」の項目がないため「－」と表している



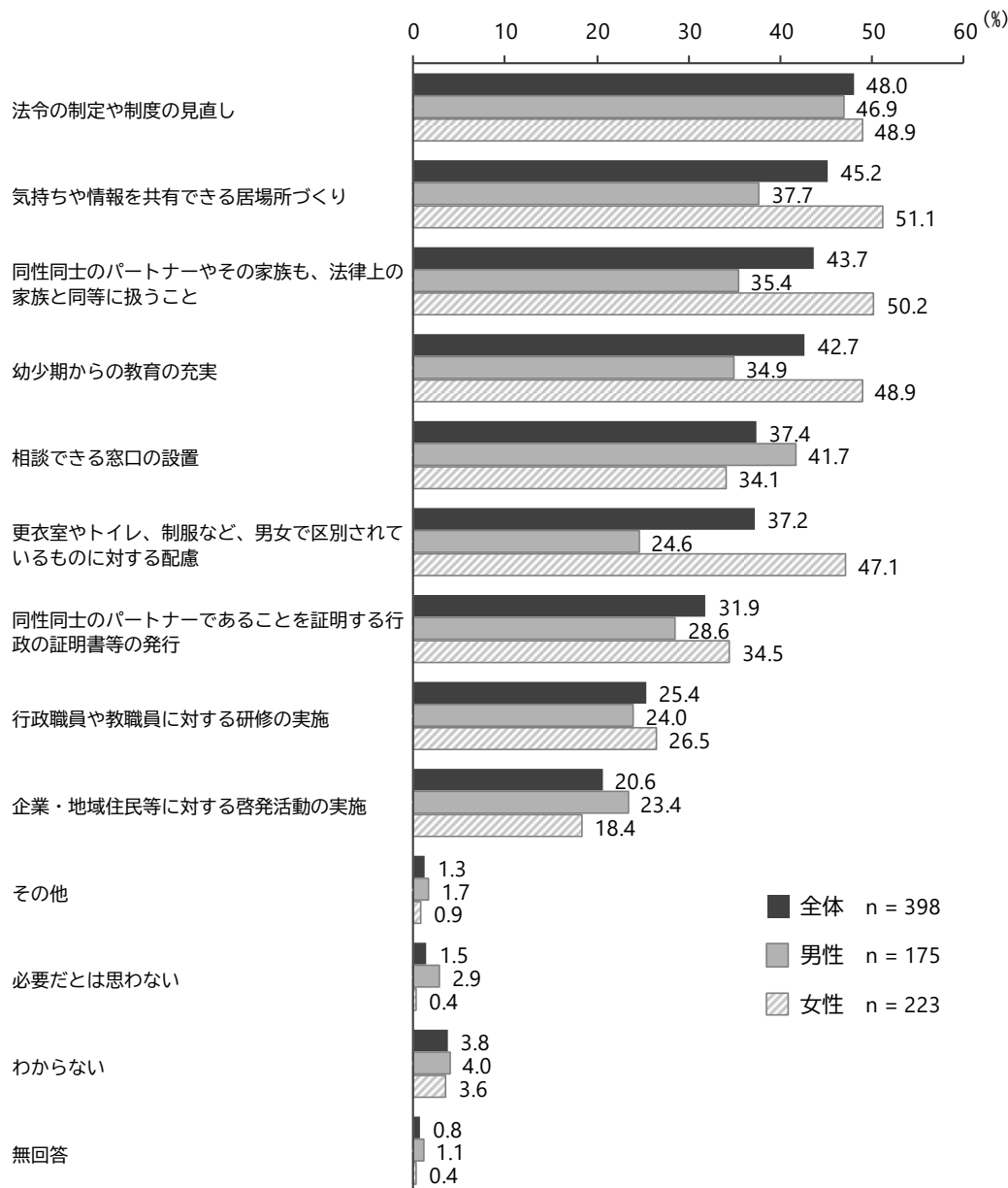
R1 福島県意識調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」が最も多いことに変わりはないが、《そう思う》はR6 須賀川市調査（70.7%）がR1 福島県意識調査（72.9%）を2.2ポイント下回っている。

5-6 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策

問 42 問 41 で、「1. そう思う」または「2. どちらかといえばそう思う」とお答えの方にお尋ねします。

性的マイノリティ（または LGBTQ など）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

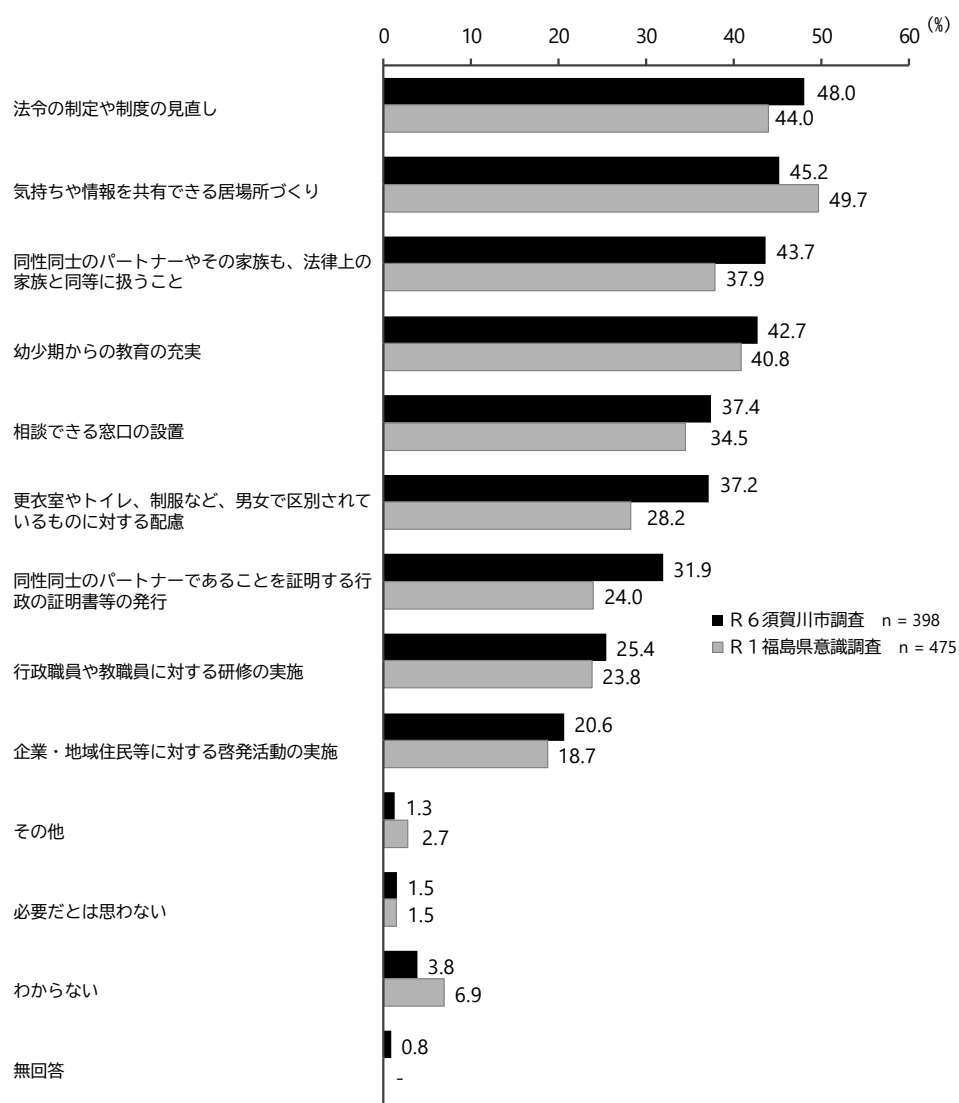
（あてはまるものすべてに○）



『性的マイノリティ（または LGBTQ など）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。』と尋ねたところ、「法令の制定や制度の見直し」（男性：46.9%、女性：48.9%）が全体としては最も多くなっている。男女別で比較すると、男性では「法令の制定や制度の見直し」に次いで、「相談できる窓口の設置」となっているが、女性では「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が最も多く、次いで「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと」となっており、性別間での順位に相違がみられる。

Ⅲ 調査結果の分析

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査

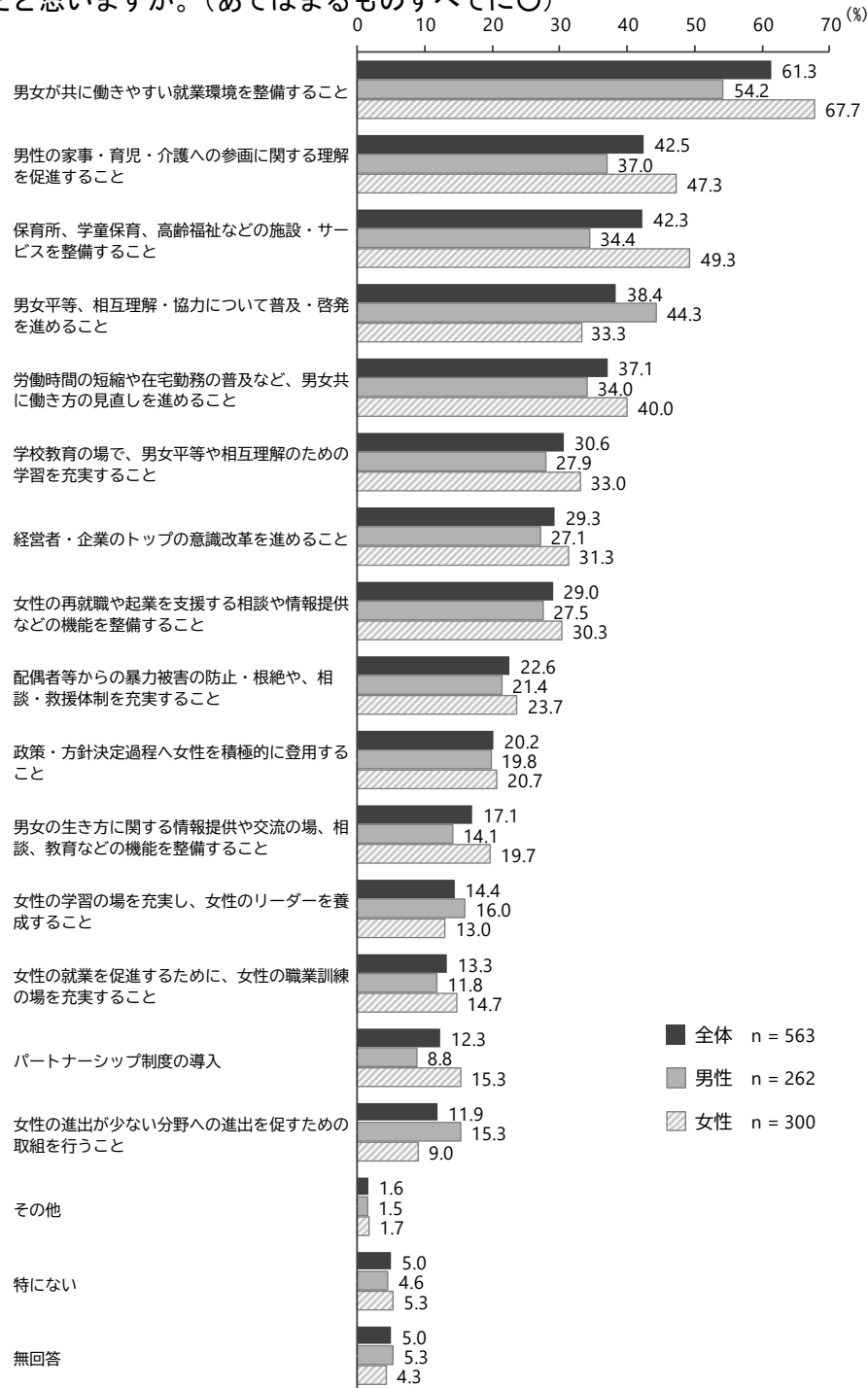


R1 福島県意識調査と比較すると、R6 須賀川市調査では「法令の制定や制度の見直し」が最も多いのに対し、R1 福島県意識調査では、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が最も多くなっており、上位の順位に相違がみられる。

6. 男女共同参画の推進について

6-1 男女共同参画社会の実現に向けて、須賀川市が今後力を入れていくべきこと

問 43 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、須賀川市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



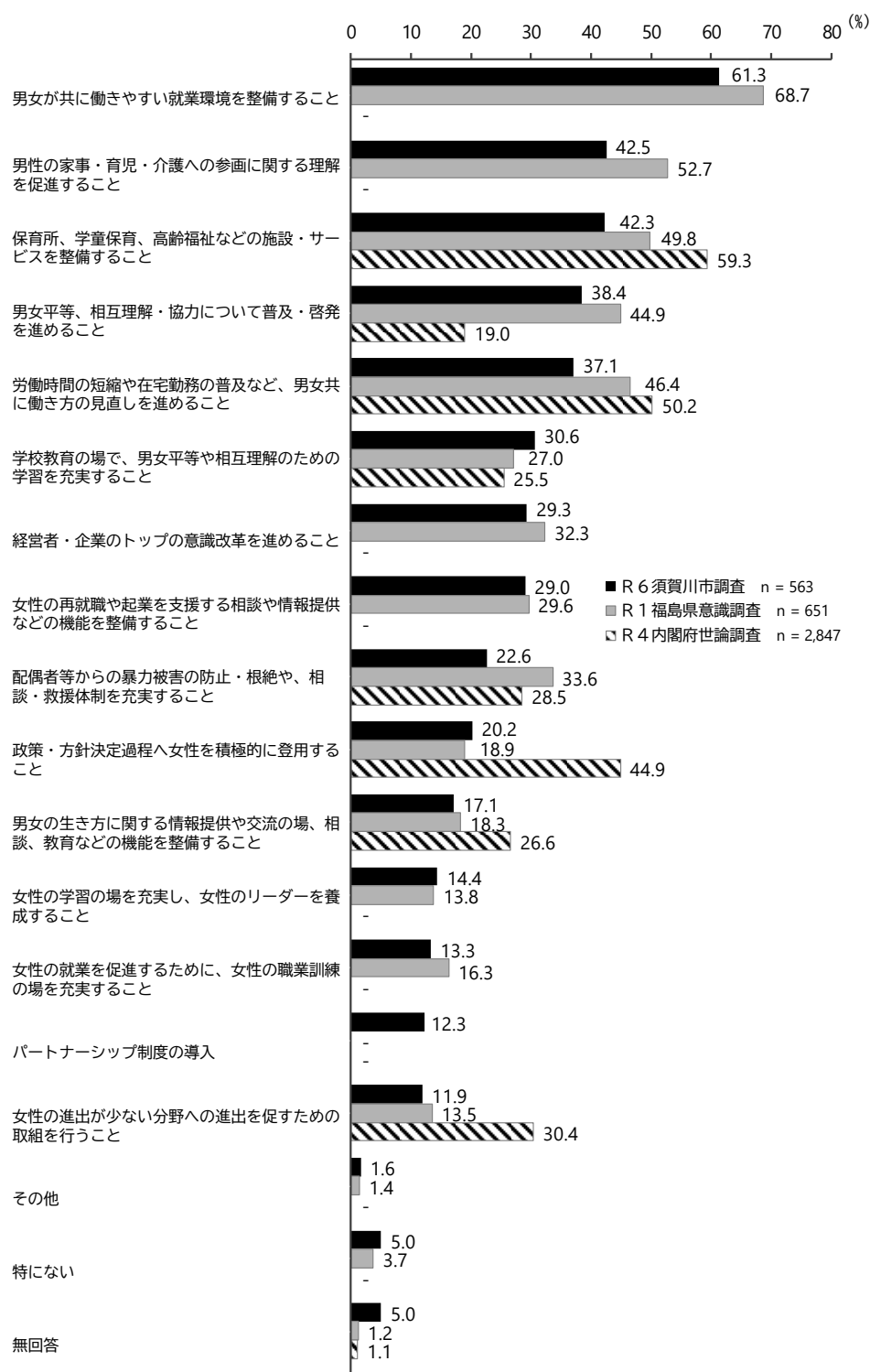
Ⅲ 調査結果の分析

『男女共同参画社会の実現に向けて、須賀川市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」

（男性：54.2%、女性：67.7%）が最も多いが、男性では次いで「男女平等、相互理解・協力について普及・啓発を進めること」（44.3%）、女性では「保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること」（49.3%）となっており、性別間での順位に相違がみられる。

《参考》R6 須賀川市調査、R1 福島県意識調査、R4 内閣府世論調査

※R4 内閣府世論調査では「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」「経営者・企業のトップの意識改革を進めること」「女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの機能を整備すること」「女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること」「女性の就業を促進するために、女性の職業訓練の場を充実すること」「パートナーシップ制度の導入」「その他」「特にない」の項目がないため「－」と表している

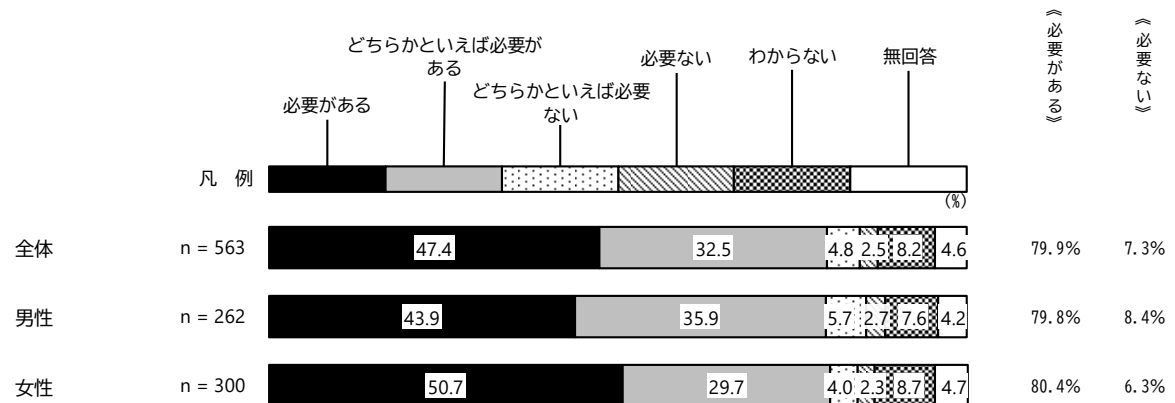


Ⅲ 調査結果の分析

R1 福島県意識調査と比較すると、ともに「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」が最も多く 6 割を超え、次いで「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」となっており、同様の傾向が見られる。

6-2 防災・災害において、性別に配慮した対応は必要か

問 44 防災・災害対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。（1 つに○）

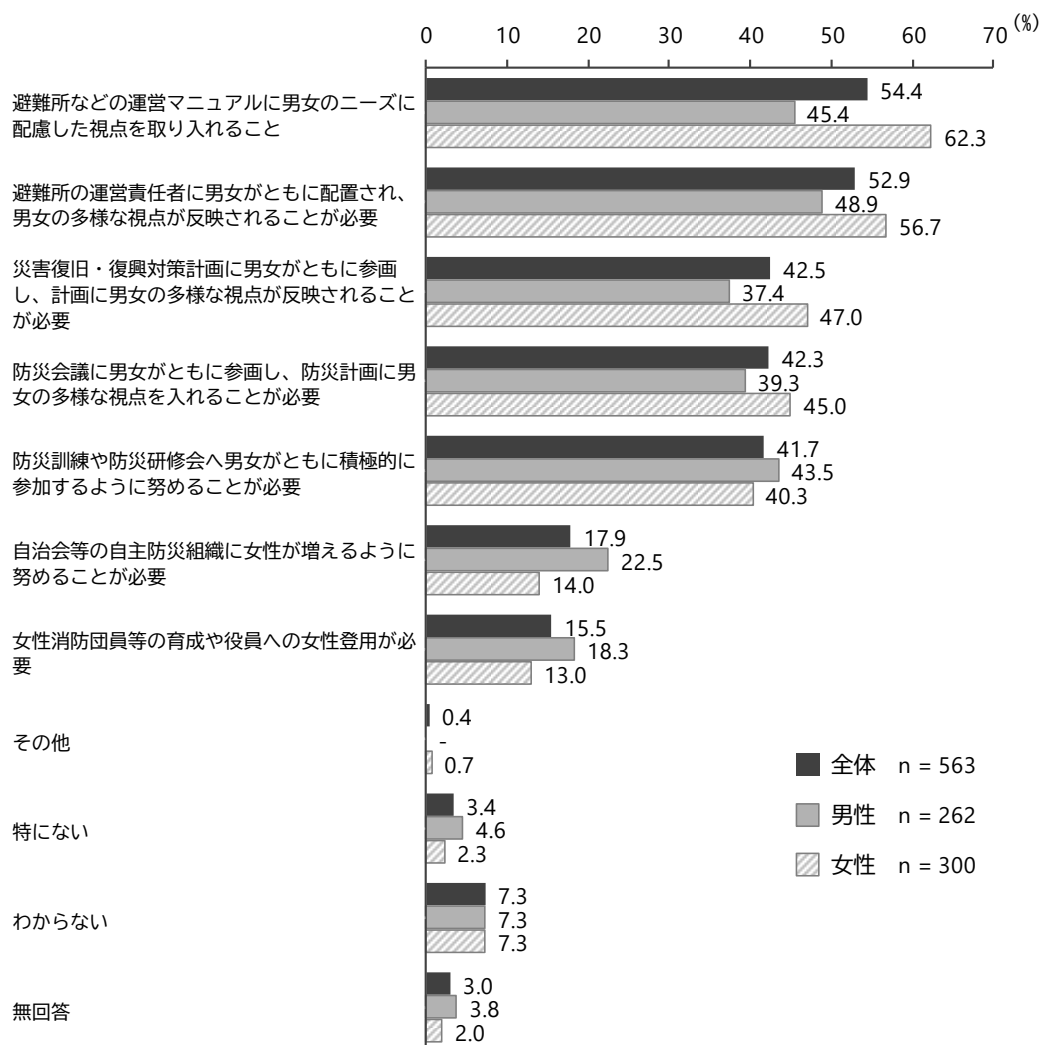


『防災・災害対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。』と尋ねたところ、男性・女性ともに「必要がある」（男性：43.9%、女性：50.7%）と回答した人が最も多く、「必要がある」「どちらかといえば必要がある」を足し合わせた《必要がある》（男性：79.8%、女性 80.4%）が約 8 割となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

6-3 防災・災害対策において、男女共同参画社会を推進するために必要なこと

問 45 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



『防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。』と尋ねたところ、「避難所などの運営マニュアルに男女のニーズに配慮した視点を取り入れること」（男性：45.4%、女性：62.3%）が全体としては最も多いが、続く「避難所の最高責任者に男女が共に配置され、男女の多様な視点が反映されることが必要」（男性：48.9%、女性：56.7%）が男性からの回答としては最も多い。「避難所などの運営マニュアルに男女のニーズに配慮した視点を取り入れること」では、女性が男性を16.9ポイント上回っている。

IV. 使用した調査票

すかがわ男女共同参画プラン21 市民アンケート

～調査ご協力をお願い～

日頃より市政に対してご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

須賀川市では、「すかがわ男女共同参画プラン21第3次計画」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めてきました。このたび、次期計画を策定するにあたり、市民の皆さまの男女共同参画社会づくりに関するお考えや実情などを幅広くお伺いするため、アンケート調査を実施することといたしました。

このアンケートは、市内にお住まいの方（令和6年5月9日時点）の中から無作為に抽出した18歳以上の2,000人の方を対象にご協力をお願いするものです。

ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理いたしますので、回答者が特定されたり、個々の回答内容が外部に漏れることは一切ありません。また、調査目的以外に使用することはありませんので、どうぞありのままにお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年5月 須賀川市長 橋本 克也

ご回答にあたってのお願い

- この調査は個人を対象にしていますので、お送りした封筒に書かれている宛名の方ご本人がご記入ください。（ご本人による記入が困難な場合は、ご家族の方などが聞き取って代筆をお願いします。）
- 次の2つのうちどちらか1つの方法で、**6月14日（金）**までにご回答をお願いします。

1 アンケート用紙（この冊子）に直接記入し、郵送により回答

- ▶ 黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ▶ ご回答は、「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などの表記に従って、該当する番号に○をつけてください。「その他」に○をつけた場合は、その後の（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ▶ 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
- ▶ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストにご投函ください。

2 パソコン・スマートフォン等によりインターネットで回答

右の二次元コードまたは下記URLより回答画面にアクセスし、「整理番号（数字5桁）」をご入力の上、画面の指示に従ってご回答ください。



インターネットでの回答が便利です！

URL https://src2.webcas.net/form/pub/src1/sukagawa_danjo

整理番号

※重複回答を防ぐための番号です。個人を特定する番号ではありません

本調査に関するお問い合わせ先

須賀川市役所 市民協働推進課 市民活動支援係

TEL 0248-94-4432

FAX 0248-73-4410

◇はじめに、あなた自身のことについてお尋ねします。

問1 あなたの性別（自認する性）を教えてください。（1つに○）

1. 男	2. 女	3. 自由記述（ ）
------	------	---------------------------------

問2 あなたの年齢を教えてください。（1つに○）

1. 18歳～29歳	2. 30歳～39歳	3. 40歳～49歳
4. 50歳～59歳	5. 60歳～69歳	6. 70歳以上

問3 あなたの職業を教えてください。（2つ以上あてはまる場合は、主なもの1つに○）

自営業 (家族従業者含む)	1. 農林漁業 2. 商工サービス業 3. 自由業
勤めている	4. 役員・管理職 5. 専門技術職 6. 事務職 7. 労務職 8. 販売・サービス業 9. 保安職
無 職	10. 専業主婦・専業主夫 11. 学生 12. その他

問3で、「勤めている（「4.」～「9.」）」とお答えの方にお尋ねします。

問4 お仕事は、常勤(フルタイム)ですか、パートタイムですか。（1つに○）

1. 常勤（フルタイム）	2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託）
3. その他（ ）	

問5 あなたは、ご結婚されていますか。（1つに○）

1. 未婚	2. 未婚だが、パートナーと暮らしている
3. 既婚（配偶者あり）	4. 既婚（配偶者と離別・死別）

問5で、「3. 既婚（配偶者あり）」とお答えの方にお尋ねします。

問6 お宅は共働きですか。（1つに○）

1. 共働きである	2. 共働きでない
-----------	-----------

問7 あなたは、お子さんがいらっしゃいますか。（1つに○）

1. いる（ 人）	2. いない
------------------------	--------

問8 家族構成を教えてください。（1つに○）

1. 単身世帯（1人）	2. 1世代世帯（夫婦のみ）	3. 2世代世帯（親と子）
4. 3世代世帯（親と子と孫）	5. その他（ ）	

問9 あなたのお住まいの地域を教えてください。（1つに○）

1. 須賀川地域	2. 浜田地域	3. 西袋地域	4. 稲田地域	5. 小塩江地域
6. 仁井田地域	7. 大東地域	8. 長沼地域	9. 岩瀬地域	

1. 男女共同参画に関する意識について

問10 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等だと思いますか。

(①から⑦までについて、それぞれ1つに○)

	男性が優遇 されている	どちらかとい えば 男性が優遇 されている	平等である	女性が優遇 されている	どちらかとい えば 女性が優遇 されている	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 学校	1	2	3	4	5	6
④ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 地域・ 社会活動の場	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律・制度の上	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・ 慣習しきたりなど	1	2	3	4	5	6

問11 「男性は仕事、女性は家庭」という従来 of 固定的意識について、あなたはどの
思いますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |
| 5. わからない | |

問12 あなたは、次にあげる言葉について、ご存知ですか。(それぞれ1つに○)

	知っている	見たり聞いた ことがある	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 「すかがわ男女共同参画プラン21」※	1	2	3

【用語の説明】

※ すかがわ男女共同参画プラン21

男女共同参画社会を推進するための須賀川市の「基本計画」です。平成11年2月に策定し、平成26年3月には第3次計画を策定しました。平成26年度から令和6年度までの10年間の計画となっています。

2. 女性の社会進出・活躍に関する意識について

問13 女性が職業をもつ（働く）ことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つに○）

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
3. 子どもがいてもいなくても、職業を続ける方がよい
4. 子どもができたら、職業を持たない方がよい
5. 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. わからない

問14 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。（○は3つまで）

1. 賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす
2. パート、派遣労働等の労働条件を改善する
3. 労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする
4. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）のない職場をつくる
5. 女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
6. 女性に対して昇進、昇格の機会を確保する
7. 女性自身が意欲・能力を高める
8. 託児施設、託児サービスを充実する
9. 介護施設・介護サービスを充実する
10. 育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する
11. 家族の理解や協力を得る
12. 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
13. 仕事と家事・育児・介護の両立（ワーク・ライフ・バランス）のための職場の支援制度を充実する
14. その他（具体的に： _____）
15. わからない

問15 女性が活躍するには何が必要だと思えますか。（○は3つまで）

1. 企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
2. 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
3. 育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること
4. 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
5. 身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること
6. 仕事が適正に評価されていること
7. 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
8. キャリア形成のための研修制度があること
9. 保育施設が充実していること
10. 国や地方自治体など、行政による企業支援があること
11. 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
12. その他（具体的に： _____）

問16 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 活躍している | 3. どちらかと言えば活躍していない |
| 2. どちらかといえば活躍している | 4. 活躍していない |

問16で、「1. 活躍している」「2. どちらかといえば活躍している」とお答えの方にお尋ねします。

問17 活躍していると思う理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている
2. 女性の経営者や管理者が増えている
3. 管理職ではないが活躍する女性が増えている
4. 女性の職域（研究開発、マーケティング、営業など）が広がっている
5. 各報道などで女性の活躍を目にする機会が増えた
6. 女性のキャリア意識が上がっている
7. 長時間労働の慣習が改善されてきている
8. PTA や自治会の会長等役職に就いている女性が増えている
9. その他（ ）

問16で、「3. どちらかと言えば活躍していない」「4. 活躍していない」とお答えの方にお尋ねします。

問18 活躍していないと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 産休・育休などの支援制度が充実していない
2. 産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい（できない）
3. 女性の経営者や管理者が少ない
4. 女性の職域が限定的である
5. 女性のキャリア意識が向上していない
6. 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
7. 男性優位の考え方が変わっていない
8. 長時間労働の慣習が改善されてない
9. PTA や自治会の会長等役職に就いている女性がいない
10. その他（ ）

問19 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
8. その他（ ）
9. 特にない
10. わからない

問3で、「勤めている（4. 役員・管理職 5. 専門技術職 6. 事務職 7. 労務職 8. 販売・サービス業 9. 保安職）」とお答えの方にお尋ねします。

問20 あなたは、現在働いている会社などでリーダー・管理職になりたいと思いますか。（1つに○）

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |
| 5. わからない → 問24へ | |

問20で、
「1. そう思う」
「2. どちらかといえばそう思う」
とお答えの方にお尋ねします。

問20で、
「3. どちらかといえばそう思わない」
「4. そう思わない」
とお答えの方にお尋ねします。

問21 リーダー・管理職になりたい理由をお答えください。（1つに○）

1. 責任を持った仕事がしたい
2. 能力やスキルを思う存分に活かしたい
3. 仕事を通して社会に貢献したい
4. 賃金が上がる
5. 家族などから評価される
6. その他（ ）

問22 リーダー・管理職になりたくない理由をお答えください。（1つに○）

1. 責任を持ちたくない
2. 能力やスキルが十分でない
3. やるべき仕事が増える
4. 仕事と家庭の両立が困難になる
5. 人間関係で苦労したくない
6. その他（ ）

3. 家庭・地域生活などに関する意識について

問5で、「2. 未婚だが、パートナーと暮らしている」または「3. 既婚（配偶者あり）」とお答えの方にお尋ねします。

それ以外の方は、7ページの**問25**へ

問23 あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたが担っていますか。
(①から⑧までについて、それぞれ1つに○)

	夫 (パートナー)	妻 (パートナー)	夫婦で (パートナー 同じくらい)	その他の 家族	あてはま らない
①食事のしたく・後片付け	1	2	3	4	5
②洗濯	1	2	3	4	5
③部屋の掃除	1	2	3	4	5
④ごみ出し	1	2	3	4	5
⑤買い物	1	2	3	4	5
⑥子どものしつけ・教育	1	2	3	4	5
⑦家族の世話・介護	1	2	3	4	5
⑧地域活動	1	2	3	4	5

問24 あなたの家庭では、次にあげることを最終的に決定するのは主にどなたですか。
(①から⑥までについて、それぞれ1つに○)

	夫 (パートナー)	妻 (パートナー)	夫婦で (パートナー 同じくらい)	家族全員	その他
①家計費管理	1	2	3	4	5
②貯蓄、投資	1	2	3	4	5
③土地・家屋の購入	1	2	3	4	5
④夫の就職・転職	1	2	3	4	5
⑤妻の就職・転職	1	2	3	4	5
⑥家庭における全体的な決定権	1	2	3	4	5

問25 次にあげる結婚に対する考えについて、あなたはどのように思いますか。

(①から③までについて、それぞれ1つに○)

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わから ない
①結婚は個人の自由であるから、し てもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②結婚しても必ずしも子ども をもつ必要はない	1	2	3	4	5
③結婚してもお互いに満足で きないときは、離婚すればよい	1	2	3	4	5

問26 あなたは、子どもにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子どもがい
ない場合も（既に卒業した場合も）いると仮定して、現在の親としての考えや希
望をお答えください。(①から②までについて、それぞれ1つに○)

	中学校	高校	各種学校・ 専門学校	短期 大学	大学	大学院	その他	わから ない
①女の子	1	2	3	4	5	6	(7)	8
②男の子	1	2	3	4	5	6	(7)	8

問27 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重
視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思
いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
2. 学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
3. 学校において、人権や男女平等に関する授業を行う
4. 学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進する
5. 家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う
6. 学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
7. 女性の校長や教頭を増やす
8. 今のままでよい
9. その他 ()
10. わからない

問28 次にあげる女性や男性の生き方として、あなたが望ましいと思うものはどれですか。（①から⑥までについて、それぞれ1つに○）

① 女性の生き方について

1. 家庭生活や地域・社会活動より、仕事に専念する
2. 家庭生活や地域・社会活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる
4. 仕事に携わるが、あくまで家庭生活又は地域・社会活動を優先させる
5. 仕事より、家庭生活又は地域・社会活動に専念する
6. わからない

② 男性の生き方について

1. 家庭生活や地域・社会活動より、仕事に専念する
2. 家庭生活や地域・社会活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活や地域・社会活動と仕事を両立させる
4. 仕事に携わるが、あくまで家庭生活又は地域・社会活動を優先させる
5. 仕事より、家庭生活又は地域・社会活動に専念する
6. わからない

問29 次にあげる地域・社会活動について、あなたが参加しているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 各種ボランティア、NPO の活動 | 2. 自治会・町内会の役員活動 |
| 3. 子ども会・青少年グループの世話 | 4. 消防団活動 |
| 5. 各種女性団体の活動 | 6. 趣味・サークル・スポーツ等の活動 |
| 7. 環境美化・自然保護活動 | 8. その他（ ） |
| 9. 参加していない | |

問29で、「9. 参加していない」とお答えの方にお尋ねします。

問30 地域・社会活動に参加していない理由はなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 仕事が忙しい | 2. 家事・育児が忙しい |
| 3. 家族の理解・協力が得られない | 4. 自分に適した活動が見つからない |
| 5. 健康や体力に自信がない | 6. 人間関係がわずらわしい |
| 7. 一緒に参加する仲間がいない | 8. あまり関心がない |
| 9. 経済的にゆとりがない | 10. 家族に病人や高齢者がいる |
| 11. どのように参加してよいのかわからない | |
| 12. その他（ ） | |
| 13. 特に理由はない | |

問31 今後、女性と男性がともに仕事、家事、介護、地域・社会活動などに積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める
2. 学校教育や生涯学習の場において、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する
3. 男女とも、家事などができるように育てる
4. 男性が生活面において自立できるような能力を身につける
5. 男性が家事・育児・介護に積極的に関わる
6. 女性自身が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につける
7. 行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する
8. 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取扱いの周知を徹底する
9. 労働時間の短縮や、男女がともに取得しやすい育児、介護、ボランティアなどの休暇・休業制度を普及させる
10. 年功序列や終身雇用など従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させる
11. 官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービスなどを充実させる
12. その他（ ）

問32 今後、男性が家事、子育て、介護、地域・社会活動に積極的に参加していくためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 男性が家事などをするに男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などをするに女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域・社会活動についての評価を高める
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
8. 男性が家事、子育て、介護、地域・社会活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
9. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
10. 男性が子育てや介護、地域・社会活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める
11. 家庭や地域・社会活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける

問33 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |

4. 男女間の暴力に関する意識について

問34 あなたは、次にあげる被害を異性から受けた事がありますか。

(①から⑤までについて、それぞれ1つに○)

	受けた	受けて いない	わからない	あてはまら ない
① セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）※1	1	2	3	4
② パワーハラスメント（パワハラ）※2	1	2	3	4
③ マタニティ・ハラスメント（マタハラ）※3	1	2	3	4
④ ドメスティック・バイオレンス（DV）※4	1	2	3	4
⑤ ストーカー※5	1	2	3	4

1つでも「1. 受けた」とお答えの方は、11 ページの問35へ

全ての行為で、「2. 受けていない」「3. わからない」「4. あてはまらない」とお答えの方は、12 ページの問37へ

【用語の説明】

※1 セクシュアル・ハラスメント

他の者を不快にさせる性的な言動。性的嫌がらせ。

※2 パワーハラスメント

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為。

※3 マタニティ・ハラスメント

妊娠・出産・育休などを理由とする、解雇・雇い止め・降格などの不利益な取扱いを行うこと。

※4 ドメスティック・バイオレンス

夫婦・恋人・パートナーからの暴力。

※5 ストーカー

同一の者に対しきまとい等を繰り返して行う行為。

問34で、いずれかの行為で、1つでも「1. 受けた」とお答えの方にお尋ねします。

それ以外の方は、12 ページの**問37**へ

問35 あなたは、受けた被害について、どこ（どなた）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1. 警察 | 2. 医療関係者（医師、看護師など） |
| 3. 法務局、人権擁護委員 | 4. 福島県県中保健福祉事務所 |
| 5. 福島県女性のための相談支援センター | 6. 福島県男女共生センター |
| 7. ふくしま被害者支援センター | 8. 市役所・民生委員 |
| 9. 民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセリング機関など） | |
| 10. 職場の相談窓口 | |
| 11. 学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど） | |
| 12. 友人や知人 | |
| 13. 家族や親戚 | |
| 14. その他（ | ） |
| 15. どこ（だれ）にも相談しなかった | |

問35で、「15. どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えの方にお尋ねします。

問36 相談しなかった理由をお尋ねします。（あてはまるものすべてに○）

1. 相談するほどのことではないと思った
2. 自分にも悪いところがあったと思った
3. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思った
4. 相談しても無駄だと思った
5. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
6. 相手の行為は愛情の表現だと思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくなかった
9. どこ（だれ）に相談してよいかわからなかった
10. そのことについて思い出したくなかった
11. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
12. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
13. 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った
14. 「だれにも言うな」と脅かされた
15. その他（

5. 人権に関する意義について

問37 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。
次の中から選んでください。(1つに○)

1. 売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）
2. ポルノ産業や女性の働く風俗営業
3. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビ番組など
4. 女性の容姿を競うミス・コンテスト
5. 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
6. 家庭内における夫から妻に対する暴力
7. 「女流○○」「末亡人」のように女性だけに用いられる言葉
8. 「女は家庭」「女は補助の仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること
9. その他（具体的に： _____）
10. 特にない
11. わからない

問38 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること
2. 妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供
3. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
4. 思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進
5. 女性専用外来の設置に代表される、性差医療の充実
6. 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備
7. 職場等でのメンタルヘルス体制の充実
8. その他（具体的に： _____）
9. 特にない
10. わからない

問39 あなたは、性的マイノリティ※（またはLGBTQなど）という言葉を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問40 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問41 現在、性的マイノリティ※（またはLGBTQ など）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（1つに○）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |

【用語の説明】

※ 性的マイノリティ

L:レズビアン（女性同性愛者）、G:ゲイ（男性同性愛者）、B:バイセクシュアル（両性愛者）、T:トランスジェンダー（出生時に診断された性とは違う性を生きる人）、Q: クエスチョニング（自身のセクシュアリティがわからない人、決められない人等）や、クエア（性的マイノリティの人々全てを包括する言葉）など、性的指向（sexual orientation）又は性自認（gender identity）において何らかの意味で「性」のあり方が多数の人とは異なる人々のこと。

問41で、「1. そう思う」または「2. どちらかといえばそう思う」とお答えの方に
お尋ねします。

問42 性的マイノリティ（またはLGBTQ など）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 相談できる窓口の設置
2. 気持ちや情報を共有できる居場所づくり
3. 法令の制定や制度の見直し
4. 行政職員や教職員に対する研修の実施
5. 企業・地域住民等に対する啓発活動の実施
6. 幼少期からの教育の充実
7. 更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮
8. 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行
9. 同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと
10. その他（具体的に： _____）
11. 必要だとは思わない
12. わからない

6. 男女共同参画の推進について

問43 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、須賀川市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 男女平等、相互理解・協力について普及・啓発を進めること
2. 経営者・企業のトップの意識改革を進めること
3. 政策・方針決定過程へ女性を積極的に登用すること
4. 男女が共に働きやすい就業環境を整備すること
5. 女性の就業を促進するために、女性の職業訓練の場を充実すること
6. 女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの機能を整備すること
7. 女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること
8. 男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること
9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進めること
10. 男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機能を整備すること
11. 学校教育の場で、男女平等や相互理解のための学習を充実すること
12. 保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること
13. 女性の進出が少ない分野への進出を促すための取組を行うこと
14. 配偶者等からの暴力被害の防止・根絶や、相談・救援体制を充実すること
15. パートナースhip制度の導入
16. その他（具体的に： _____）
17. 特になし

問44 防災・災害対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。（1つに○）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 必要がある | 2. どちらかといえば必要がある |
| 3. どちらかといえば必要ない | 4. 必要ない |
| 5. わからない | |

問45 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要
2. 女性消防団員等の育成や役員への女性登用が必要
3. 自治会等の自主防災組織に女性が増えるように努めることが必要
4. 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女の多様な視点を入れることが必要
5. 避難所などの運営マニュアルに男女のニーズに配慮した視点を取り入れること
6. 避難所の運営責任者に男女がともに配置され、男女の多様な視点が反映されることが必要
7. 災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女の多様な視点が反映されることが必要
8. その他（具体的に： _____）
9. 特になし
10. わからない

問46 一人ひとりが生き生きと輝ける「男女共同参画社会」を実現するためのご意見やご要望などがありましたら、お聞かせください。また、聞いてみたい講演の内容がありましたらご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。

ご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて
6/14（金）までに投函してください
（切手は不要です）。



..... 必要に応じて切り取りしてください

【性暴力被害者の支援機関の連絡先】

■性暴力被害者専用相談電話「SACRA ホットライン」024-563-3722
(公益社団法人ふくしま被害者支援センター)

■性犯罪被害110番(福島県警本部) 0120-503-732

■福島県女性のための相談支援センター 024-522-1010

■福島県県中保健福祉事務所（須賀川市） 0248-75-7809

■福島県男女共生センター（二本松市） 0243-23-8320

すかがわ男女共同参画プラン21
第4次計画市民アンケート
結果報告書

令和6年8月発行

須賀川市 市民協働推進課
〒962-0845 福島県須賀川市中町 4-1
市民交流センターtette(テッテ)
電話 0248-94-4432